

本道産業の担い手育成に資する
産業教育の在り方に関する調査

建 議（案）

令和7年（2025年）11月25日

北海道産業教育審議会

目 次

はじめに	1
第1章 調査概要等と審議体制及び審議経過	
1 調査概要	2
2 調査方法	4
3 審議体制	5
4 審議経過	6
第2章 調査結果の分析	
1 分析結果の概要	8
2 調査の趣旨と観点	12
3 専門高校を取り巻く関係者間の認識	13
4 「専門高校」と「中学校」の関係性	22
5 「専門高校」と「企業」の関係性	32
6 「専門高校」と「大学（教員養成）」の関係性	42
第3章 今後の取組の在り方	
1 専門高校の魅力発信に関する取組	59
2 専門高校の教員確保に関する取組	62
3 産業界との連携に関する取組	64
4 今後の実現に向けて	67
第4章 調査結果	
1 職業学科在校生	69
2 職業学科卒業生	78
3 職業学科教員	92
4 大学生・大学院生	100
5 企業	106
6 中学生	113
7 中学校教員	118
8 中学生保護者	121
おわりに	124

参考資料

1 調査用紙	参考資料 1
2 審議会委員名簿	参考資料 2
3 専門委員会委員名簿	参考資料 3
4 「北の専門高校 ONE-TEAM プロジェクト」事業概要図	参考資料 4

はじめに

北海道産業教育審議会（以下「審議会」という。）では、これまで本道の産業教育^{*1}に関する教育の内容及び方法の改善を図ること等について、北海道教育委員会（以下「道教委」という。）に建議及び答申してまいりました。

第29期審議会では、今後の産業構造の変化やグローバル化、少子高齢化など、社会の急激な変化に伴う生徒の変容や社会のニーズ等を把握するとともに、今後の産業教育の円滑かつ効果的な推進に資するため、調査対象や調査項目等を十分に検討した上で、「本道産業の担い手育成に資する産業教育の在り方に関する調査」（以下「本調査」という。）を実施しました。

調査内容及び分析等については、当審議会に専門委員会を設置し、具体的な内容や方法について、議論を進めてきました。また、専門委員会の開催に当たっては、可能な範囲で、専門高校^{*2}を会場として実施し、実習の視察等を通じて、生徒や先生方の生の声を聞くことに努めてきました。

本建議は、まず、第1章において、調査の概要等を示しています。次に、第2章では、専門高校と中学校・企業・大学との関係性について分析した結果を示しています。第3章では、第2章で分析した結果を踏まえて、今後の産業教育における取組の在り方について整理をしています。そして、終章である第4章では、調査結果として、それぞれの調査対象ごとの全ての回答を示しています。

以上、この度、審議の結果として「本道産業の担い手育成に資する産業教育の在り方に関する調査」を取りまとめましたので、建議いたします。

令和7年(2025年)11月25日

第29期北海道産業教育審議会

*1 中学校、高等学校、大学又は高等専門学校が、生徒又は学生等に対して、農業、工業、商業、水産業その他の産業に従事するために必要な知識、技能及び態度を習得させる目的をもって行う教育のこと(家庭科教育を含む。)

*2 高等学校のうち、職業に関する専門学科(農業、工業、商業、水産、家庭、看護、情報、福祉)を置く高等学校をいう。

第1章 調査概要等と審議体制及び審議経過

1 調査概要

(1) 調査名

「本道産業の担い手育成に資する産業教育の在り方に関する調査」

(2) 調査の背景と目的

本道においては、次世代半導体製造拠点の立地や洋上風力発電の導入、農業や水産業のスマート化など、産業構造が大きく変化しており、産業界においては、少子高齢化に伴う担い手不足が課題となっています。

また、専門高校においては、中学生の普通科志向などによる入学者数の減少や、職業学科を担当する教員の担い手不足が課題となっています。

こうした中、本審議会における調査の実施に向けて、産業構造の変化に伴う技術の進展や少子高齢化に伴う担い手不足など、本道の専門高校における課題を次の3点に整理しました。なお、[]内は課題を簡潔に示すキーワードとして扱っています。

【3つに整理した本道産業教育の課題】

- ・専門高校の志願者が減少傾向 [専門高校の魅力]
- ・職業学科を担当する教員の確保が困難 [職業学科の教員]
- ・先端技術等を学ぶ機会の確保に向けた企業等とのより緊密な連携 [産業界との連携]

これら3つの課題を踏まえて、次の3つの事項を把握及び整理するため、調査項目を作成しました。

【把握及び整理したい事項】

- ・専門高校を取り巻く関係者間のマッチングに関する状況やニーズ
- ・各学校が取り組む情報発信と広報活動における現状と課題
- ・今後、道教委が取り組むべき施策を検討する上で必要となる論点

(3) 調査結果の活用

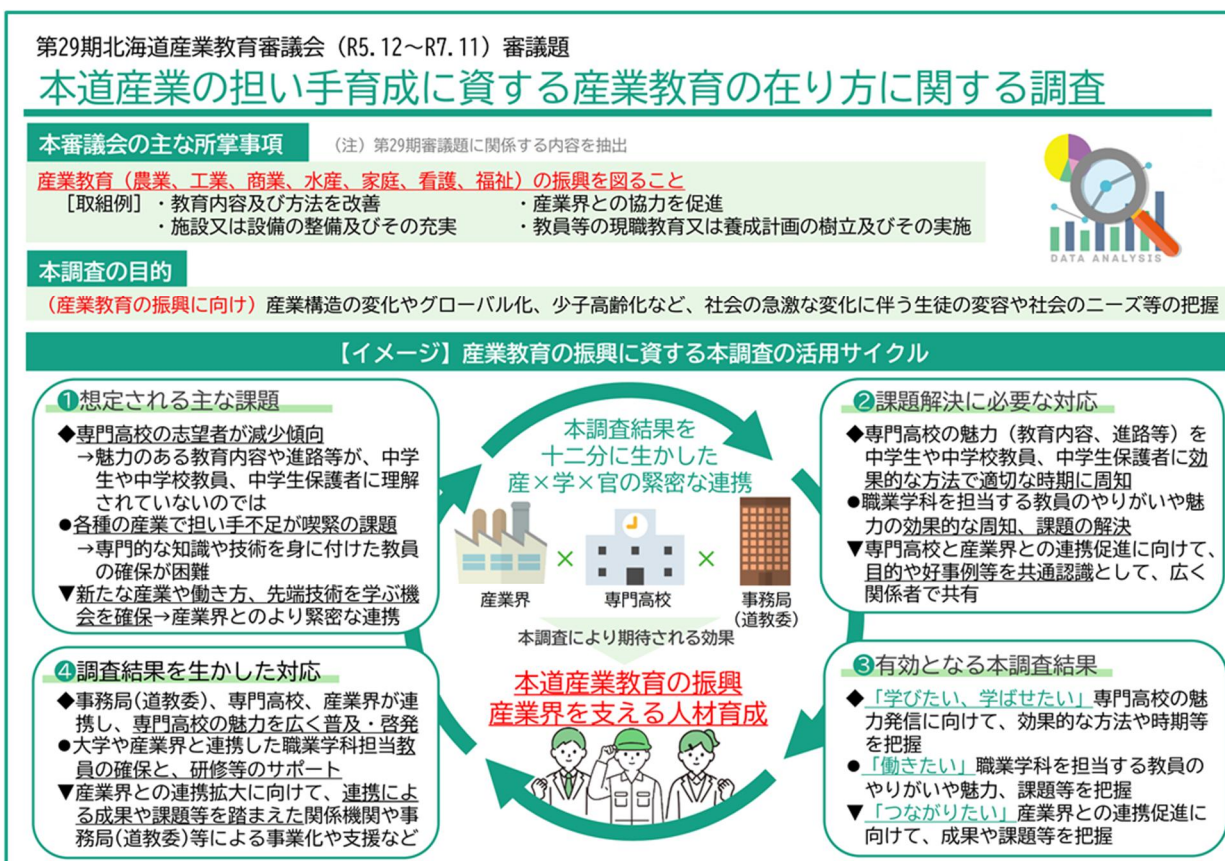
本調査により得られた結果については、次の検討資料等として活用することとしています。

- ア これまでの産業教育に関する成果や課題等
- イ 今後の産業教育の在り方
- ウ 産業教育に関する新規施策の有効性や効果的な推進方策
- エ 第30期以降の本審議会における道教委による諮問

(4) 調査対象と課題の関連性及び把握したい主な事項

調査対象		3つのキーワードとの関連性			把握したい主な事項
		魅力	教員	連携	
高校	在校生	○			・ 専門高校の学習内容等に対する認識 ・ 卒業後の進路についての意識
	卒業生	○			・ 専門高校の教育に対する評価 ・ 今後の産業教育の在り方
	職業学科教員	○	○	○	・ 職業学科を担当する教員の魅力 ・ 産業構造の変化への対応
大学	教職課程（職業学科）を履修している学生		○		・ 職業学科を担当する教員のイメージ ・ 卒業後の就職先を決定する際の考え方
企業	採用担当者			○	・ 専門高校の卒業生に対する評価 ・ 今後の産業教育の在り方
中学生	中学生	○			・ 高校を選択する際の考え方 ・ 専門高校のイメージ
	中学校教員	○			・ 進路指導を行う際の考え方 ・ 専門高校のイメージ
	中学生保護者	○			・ 家庭での高校選択における考え方 ・ 専門高校のイメージ

(5) 調査概要図



2 調査方法

(1) 実施期間

令和6年(2024年)9月30日(月)から10月31日(木)

(2) 回答方法

二次元コードを掲載した質問紙を調査対象者に配付し、回答者がウェブページ上で入力する。

(3) 調査対象及び抽出方法

ア 高等学校

(ア) 在校生(回答者数:1,143名)

職業学科に在籍する同一学科の第1～3学年の各1学級の生徒を対象とし、各学科^{*3}の在籍者数の10%以上となるよう、地域や学校規模等を踏まえて調査校を抽出した。

【調査対象18校(各校1学科)】

[農業科] 岩見沢農業、旭川農業、帯広農業

[工業科] 札幌工業、苫小牧工業、函館工業、旭川工業、釧路工業

[商業科] 札幌東商業、旭川商業、函館商業、北見商業、
苫小牧総合経済、釧路商業

[水産科] 小樽水産 [家庭科] 江別

[看護科] 美唄聖華 [福祉科] 置戸

(イ) 卒業生(回答者数:556名)

職業学科を設置している全ての道立専門高校について、卒業後満1～5年の卒業生を対象とし、各学校20名を抽出した。

(ウ) 教員(回答者数:171名)

上記(ア)で抽出した専門高校において、職業学科を担当する主幹教諭及び全ての教諭を対象とした。

イ 大学生・大学院生(回答者数:225名)

道内の24大学において、職業学科(農業、工業、商業、水産、家庭、福祉)の教職課程(一種免許)を履修している学生を対象とした。

ウ 企業(回答者数:244名)

道内の17経済団体^{*4}に対して調査協力の依頼を行うとともに、上記ア(の調査対象校を通じて、企業に回答を依頼した。

^{*3} 道内には情報に関する学科を設置している専門高校がなく、7つの学科を対象に実施した。

^{*4} 北海道経済連合会や一般社団法人北海道建設業協会、一般社団法人北海道商工会議所連合会など、産業教育に関連する経済団体。

エ 中学校

(ア) 中学生（回答者数：1,823名）

道内の中学校30校（14管内及び札幌市立から2校ずつ抽出）し、第3学年の全ての生徒を対象とした。

(イ) 教員（回答者数：129名）

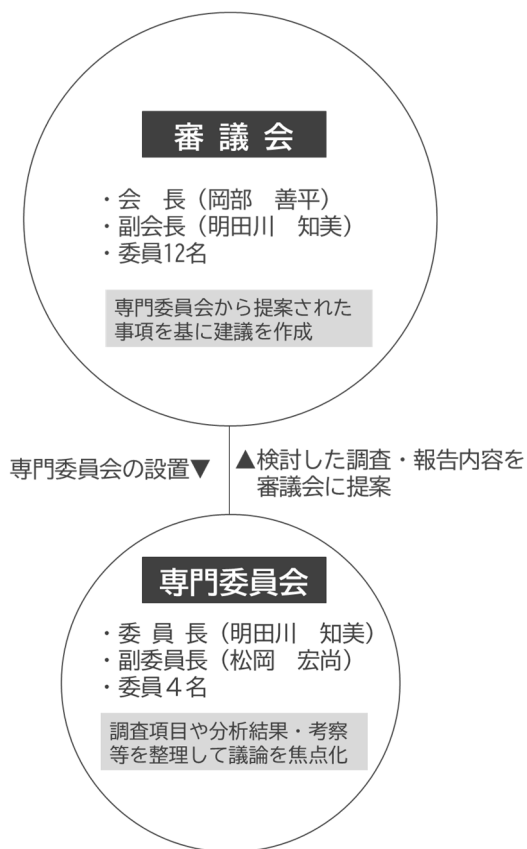
上記(ア)で抽出した中学校において、第3学年を担当する全ての教員（担任、副担任）を対象とした。

(ウ) 中学生保護者（回答者数：574名）

上記(ア)の中学生と同一世帯の保護者を抽出した。

3 審議体制

第29期審議会では、調査を実施した上で、結果の分析・まとめを行ってきましたが、限られた時間の中で審議を円滑に進めるため、審議会の前段において、調査項目や分析結果、考察等を整理して議論の焦点化を図ることを目的に、専門委員会^{*5}を設置しました。構成については、次のとおりです。



*5 審議会及び専門委員会の委員名簿については、参考資料2及び3を参照。

4 審議経過

開催日	会議名及び主な審議内容
令和5年(2023年) 12月20日(水)	第1回北海道産業教育審議会 ・会長及び副会長の選出 ・審議内容及び理由について ・専門委員会の設置及び専門委員の選出について ・審議会の日程について
令和5年(2023年) 12月20日(水)	第1回専門委員会 ・調査概要について ・専門委員会の日程について
令和6年(2024年) 2月16日(金)	第2回専門委員会 ・調査概要について ・専門委員会の日程について ・実習等の視察(札幌工業高校)
5月27日(月)	第3回専門委員会 ・調査概要について ・調査の質問内容について ・専門委員会の日程について ・実習等の視察(岩見沢農業高校)
7月9日(火)	第4回専門委員会 ・調査の質問内容について ・第2回審議会における提案事項について ・実習施設等の視察(小樽水産高校)
8月30日(金)	第5回専門委員会 ・第2回審議会における提案事項について ・実習等の視察(札幌琴似工業高校)
9月4日(水)	第2回北海道産業教育審議会 ・調査概要及び調査項目について
9月30日(月)	調査の開始
10月31日(木)	調査の終了
11月～12月	調査結果の集計

令和7年(2025年) 2月21日(金)	第6回専門委員会 ・調査結果の分析について ・今後の進め方について ・実習等の視察(美唄聖華高校)
3月27日(木)	第7回専門委員会(オンライン) ・調査結果の分析について ・今後の進め方について
6月4日(水)	第8回専門委員会 ・調査結果の分析について ・建議(案)について ・実習等の視察(当別高校)
7月2日(水)	第9回専門委員会 ・建議(案)について ・実習等の視察(札幌琴似工業高校定時制)
8月7日(木)	第3回北海道産業教育審議会 ・建議(案)について
9月18日(木)	第10回専門委員会 ・建議(案)について ・実習等の視察(札幌東商業高校)
10月8日(水)	第11回専門委員会 ・建議(案)について
11月12日(水)	第4回北海道産業教育審議会 ・建議(案)について
11月25日(火)	建議の手交

第2章 調査結果の分析

1 分析結果の概要

(1) 調査の趣旨と観点

本調査では、次の4つの観点から集計結果を整理しました。

- ▶ 専門高校を取り巻く関係者間の認識
【職業学科での学びはどう見られているか】
- ▶ 専門高校と中学校との関係性
【高校についての情報をどこから得ているのか】
- ▶ 専門高校と企業との関係性
【高校と企業はどのようにつながることができるか】
- ▶ 専門高校と大学（教員養成）との関係性
【職業学科で働くことはどのように捉えられているか】

(2) 専門高校を取り巻く関係者間の認識

高校生が「現在の学校・学科を選んだ理由」と、中学生及びその保護者が「高校を選ぶ上で重視すること」を比較したところ、

- ▶ 在校生では「専門的な知識・技術が学べる」、「就職率が高く就職に有利の割合が高いのに対し、
- ▶ 中学生・保護者は「興味・関心に合ったことが学べる」の割合が高くなっていました。

中学生は、高校卒業後の就職や進学といった長期的な観点よりも、「興味・関心」や「成績や学力」といった即時的な観点を重視する傾向にあります。

「職業学科に入学してよかったと思う理由」について、在校生と職業学科の卒業生に尋ねたところ、「専門的な知識・技術が学べる」、「よい友人や先輩がいる」、「実験・実習など体験的な学習ができる」といった点が肯定的に評価されていました。特に卒業生については「よい先生がいる」という点を評価する割合が高くなっています。

「職業学科の強みや魅力」について、在校生、卒業生、職業学科教員、企業、中学校教員、教職課程で学ぶ大学生・大学院生に尋ねたところ、「専門的な知識・技術が身に付く」、「専門性の高い教員がいる」、「就職支援が手厚く、希望の企業に就職しやすい」といった項目で肯定的な回答の割合が高くなっていました。

「職業学科の強みや魅力」に対する職業学科教員の評価は厳しく、「専門性の高い教員がいる」、「即戦力となりうる人材を育成している」、「施設・設備が充実している」、「企業等の専門家から先端的な技術を直接学べる」、「早期離職者が少ない」、「大学等への進学指導が充実している」といった点について、高校教員の肯定的な回答の割合は低くなっていました。

職業学科での学びの何が“現在役立っているか”（卒業生）、職業学科のどういった点が“評価されているか”（高校教員）について尋ねたところ、「挨拶や言葉づかい等のマナー」、「コミュニケーション能力」、「働くことについての知識」、「基礎的・基本的な知識・学力」といった点で肯定的な評価が高くなっていました。これは、職業学科での学びが「専門的な知識・技術」に限定されない“幅”を持っていることを示唆しています。

(3) 「専門高校」と「中学校」の関係性（22～31ページ）

専門高校の在校生、中学生、中学校の教員に「高校に関する情報をどういったメディアを通して得ているか」を尋ねたところ、「高校が開催する体験入学や見学会」、「高校のホームページ」、「資料やパンフレット」、「中学校での高校説明会」の割合が高くなっていました。

専門高校の教員、卒業生に「職業学科の魅力を発信する際に有効なメディアは何か」を尋ねたところ、「高校が開催する体験入学や見学会」、「学校祭などのイベント」、「SNS」、「出前授業」の割合が高くなっており、中学生、中学校教員との間に、情報メディアに関するギャップが見られました。また、中学生の進路選択における主要な相談相手としては、「保護者」と「中学校の先生」が多くなっていました。

中学生に「職業学科への進学が選択肢に入っているか」を尋ねたところ、普通科希望者の中にも「普通科等と職業学科で迷っている」あるいは「選択肢にある程度入っている」という生徒が、また、職業学科希望者の中にも「普通科と職業学科で迷っている」という生徒が一定数存在することが明らかになりました。

中学生が進学先を選ぶ際に重視する事項について、

- ▶ 「自分の興味・関心に合ったことが学べる」については「選択肢に入っている」生徒の割合が高く、
- ▶ 「自分の成績や学力に合っている」や「自宅から通いやすい」については「選択肢に入っていない」生徒の割合が高くなっています。
- ▶ 中学生の高校選択の観点において、「就職率」や「進学指導」といった進路に関わる事項の優先順位が高くなく、「自分の興味・関心に合ったことが学べる」ことを優先する傾向にあります。

(4) 「専門高校」と「企業」の関係性（32～41ページ）

専門高校と企業等とが連携を進めていく上での課題として、

- ▶ 高校教員は、「スケジュールの調整」、「交通費や経費などの確保」、「連携に充てる人員や時間の確保」
- ▶ 企業は、「高校側のニーズの分かりにくさ」、「スケジュールの調整」、「生徒の意欲や態度」

の割合が、それぞれ高くなっています。

同様に、連携を進める上での必要事項について確認したところ、

- ▶ 高校教員は、「予算／経費」、「双方の信頼関係やコミュニケーション」、「連携に充てる時間」
- ▶ 企業は、「高校側の情報・ニーズの把握」、「信頼関係やコミュニケーション」、「連携に携わる人材の確保」

がそれぞれ高くなっていました。

このように、高校側は「予算・経費」と「時間」について、企業側は「情報・ニーズの把握」と「人材」についての課題意識が強くなっています。

専門高校との連携実績がある企業（54％）と、連携実績のない企業（46％）の割合は、ほぼ半数ずつを占めていました。

これまで専門高校と連携したことがない企業であっても、「積極的に連携したい」、「依頼があれば連携したい」、「特定の条件を満たせば連携したい」という企業が一定数存在します。

専門高校と連携することによって企業が期待している効果として、「生徒に業界や自社をPRできること」、「企業のイメージアップにつながること」、「生徒が先端技術に触れ、業界や技術への興味が高まること」などが挙げられました。即時的な人材確保はもとより、中長期的に企業のプレゼンスを高めることに連携の効果を見いだす傾向にあります。

専門高校と連携実績のない企業が抱える課題として、「高校側の担当教員とのコミュニケーション」、「近隣に連携できる専門高校がない」、「連携に充てる時間を確保できない」などが挙げられました。

企業が専門高校に関する情報を得るリソースとして、主要な情報源となっているのは「つながりのある高校教員からの情報提供」でした。それに対して、「教育委員会やコーディネーターによる情報提供」の割合は低く、連携のネットワークがかなり属人的に構築されている状況にあります。

(5) 「専門高校」と「大学（教員養成）」の関係性（42～58ページ）

教職課程を履修している大学生のうち、「教職に就きたいと考えている」という学生の割合は4割弱、教職と民間企業との間で職業選択を「迷っている」割合が4割強となっています。

教職課程を履修する学生に「職業学科の教員の魅力」について尋ねたところ、「生徒の成長に直接関わることができる」、「関心のある分野に関わることができる」、「社会的な意義ややりがいを実感できる」といった点で、割合が高くなっていました。

一方、「職業選択において重視する事項」については、

- ▶ 「自分の能力やスキルを生かすことができる」と「自分が成長できる」において、教職希望の学生の割合が有意に高く、
- ▶ 「ワークライフバランスがとれる」において、民間企業等希望の学生の割合が高くなっています。

就職活動全般において重視している情報源については、

- ▶ 教職に就くことを中心に考えている学生は「大学の教職課程の教員」と「出身高校の教員」からの情報を重視している一方、
- ▶ 民間企業等を中心に考えている学生は「就活イベントや企業の説明会など」と「大学のキャリアセンターや就職支援室など」の情報を重視しています。

このように「教職希望」・「教職中心」と、「民間企業等希望」・「民間企業等中心」との間で、就職活動の際に重視する情報源に明確な違いを確認できます。

就職活動に関する情報源の違いは、学生の出身学科間でも見られます。普通科出身の学生、職業学科出身の学生ともに「大学の教職課程の教員」からの情報を重視する一方、

- ▶ 普通科出身の学生は「就活イベントや企業の説明会など」や「大学のキャリアセンターや就職支援室など」の情報を重視し、
- ▶ 職業学科出身の学生は「出身高校の教員」や「友人や先輩など」からの情報を重視する傾向にあります。

職業学科の教員として働く上で不安に思うことについては、「休日出勤や残業が多く多忙である」や「給料が多忙さや責任に見合わない」など、「多忙」に言及した項目が多く含まれています。

また、教職希望の学生は「自分の能力やスキルが不足している」ことに、民間企業等希望の学生は「校内での初任者へのサポート体制がうすい」ことに、それぞれ不安を感じる傾向が見られました。

自身のスキル不足に対する不安と、初任者に対するサポート体制への不安は、相互に関連していることが考えられます。多忙さとのバランスに配慮しつつ、研修機会の確保等のサポート体制を構築することが求められます。

2 調査の趣旨と観点

本調査では、専門高校を取り巻く関係者の相互のつながりについて、マッチングの観点から調査・分析し、学校、産業界及び地域の緊密かつ有効な連携の在り方に関する基礎資料を得ることを目指しています。

「マッチング」という用語や捉え方には検討の余地がありますが、本建議ではマッチングを、「専門高校を取り巻く関係者間の認識の共通性と相違を明らかにした上で、その要因と背景を分析し、必要に応じて認識の違いを埋める方途を提案すること」と捉えることにします。

第1章の「2 調査方法」でも述べたとおり、本調査では、8つの対象（①職業学科の在校生、②職業学科の卒業生、③職業学科の教員、④大学生・大学院生、⑤企業、⑥中学生、⑦中学校の教員、⑧中学生の保護者）に調査を実施しました。

第1章の「1(2) 調査の背景と目的」で述べた本道産業教育の課題に基づき、以下の分析では、次の4つの観点から集計結果を整理することとします。

- ▶ 専門高校を取り巻く関係者間の認識
【職業学科での学びはどう見られているか】
- ▶ 専門高校と中学校との関係性
【高校についての情報をどこから得ているのか】
- ▶ 専門高校と企業との関係性
【高校と企業はどのようにつながることができるか】
- ▶ 専門高校と大学（教員養成）との関係性
【職業学科で働くことはどのように捉えられているか】

3 専門高校を取り巻く関係者間の認識

【職業学科での学びはどう見られているか】

この節では、上述した専門高校を取り巻く8つの関係者が、専門高校、特に職業学科での学びをどのように理解しているのか、職業学科は当事者及び関係者からどのように見られているのかについて分析・整理します。ここでの分析結果は、後に続く「専門高校と中学校との関係」、「専門高校と企業との関係」、そして「専門高校と大学との関係」の分析のための“土台”となります。

図1は、高校生が「現在の学校・学科を選んだ理由」と、中学生及びその保護者が「高校を選ぶ上で重視すること」を比較したものです。

質問紙では「3つまで回答可」となっていますが、それぞれの上位3項目は以下のとおりでした。

【在校生】

- ▶ 専門的な知識・技術が学べる
- ▶ 興味・関心に合ったことが学べる
- ▶ 就職率が高く就職に有利

【中学生】

- ▶ 興味・関心に合ったことが学べる
- ▶ 自分の成績や学力に合っている
- ▶ 自宅から通いやすい

【中学生保護者】

- ▶ 興味・関心に合ったことが学べる
- ▶ 専門的な知識・技術が学べる（高校での学びと、高校卒業後の進路とのつながり）
- ▶ 先生や在校生の雰囲気がよさそう

在校生と中学生やその保護者との差異の大きさに着目すると、「専門的な知識・技術が学べる」、「就職率が高く就職に有利」（在校生の割合が高い）、「先生や在校生の雰囲気がよさそう」、「進学実績が高い」（中学生やその保護者の割合が高い）が目を引きまします。

また、中学生は、高校卒業後の「就職」や「進学」といった長期的な観点よりも、「興味・関心」や「成績や学力」といった即時的な観点を重視する傾向にあることが読み取れます。

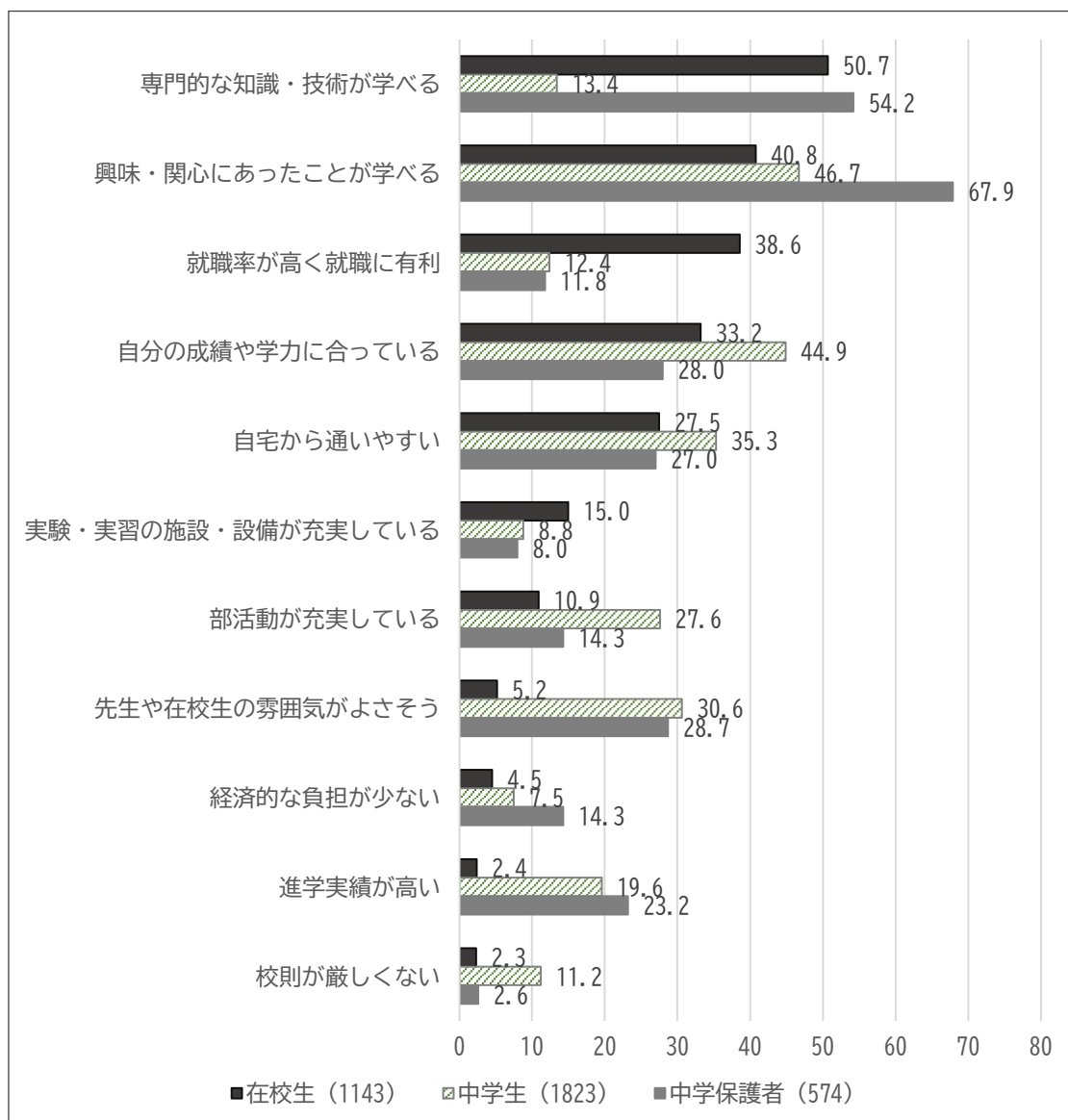
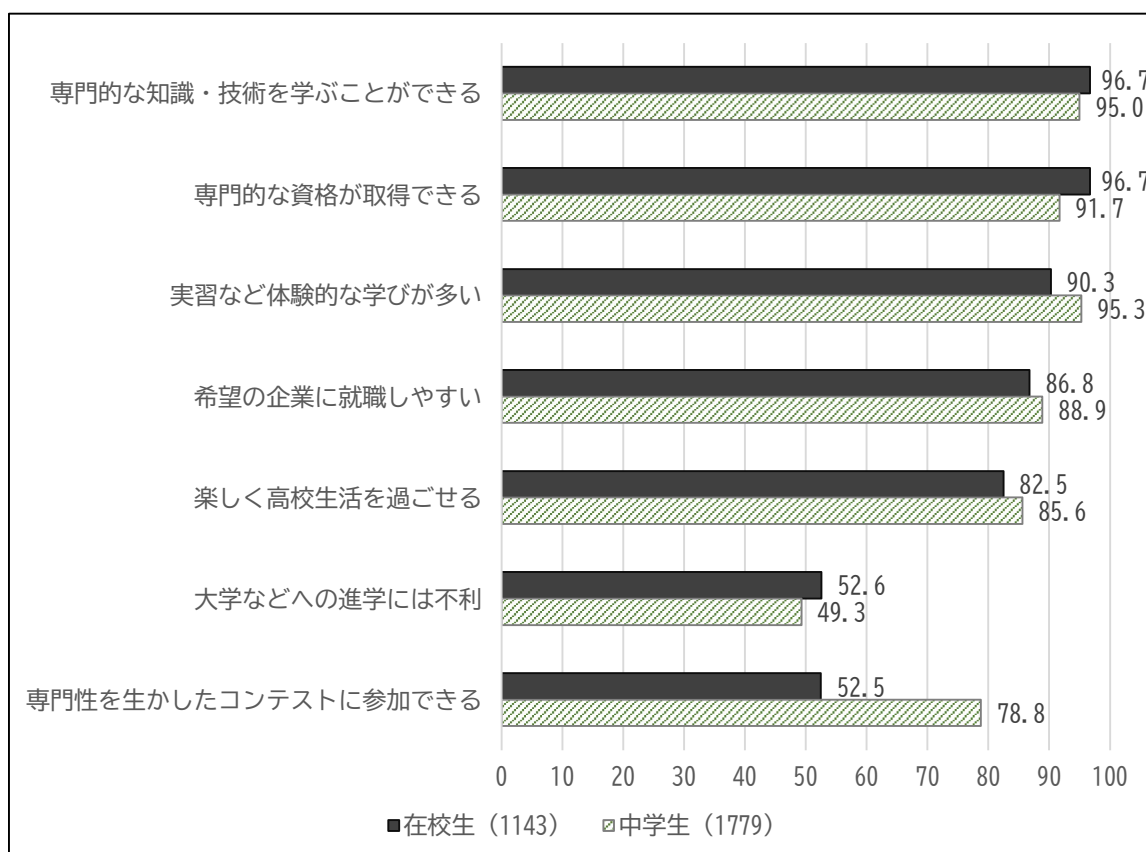


図 1 高校選択の理由・重視する事項（％）

図 2 は、職業学科のイメージについて、在校生が中学時代に持っていたイメージと中学生のそれとを比較したものです。全ての項目について、「とても思っていた」～「まったく思っていなかった」の 4 件法で尋ねています。



(注)「とても思っていた」「まあ思っていた」を合計したもの
 図2 中学時代に抱いていた職業学科の印象 (%)

両者の間に大きな違いは見られませんが、「専門性を生かしたコンテストに参加できる」に対する肯定的な回答の割合が中学生で高くなっています。また、「大学などへの進学には不利」について、在校生・中学生とも「思っていた (いる)」と「思っていなかった (いない)」の割合がほぼ半々となっています。

図3は、「職業学科に入学してよかったと思う理由」について、在校生と職業学科の卒業を比較したものです。「3つまで回答可」でしたが、いずれも「専門的な知識・技術が学べる」、「良い友人や先輩がいる」、「実験・実習など体験的な学習ができる」が上位3項目となっています。

興味深いのは、「良い先生がいる」について、在校生の割合が12%であるのに対し、卒業生の割合が41.5%と比較的高くなっている点です。専門高校とその卒業生とのつながりについては、この後の分析、特に専門高校と大学（教員養成）との関係においても、興味深い観点となります。

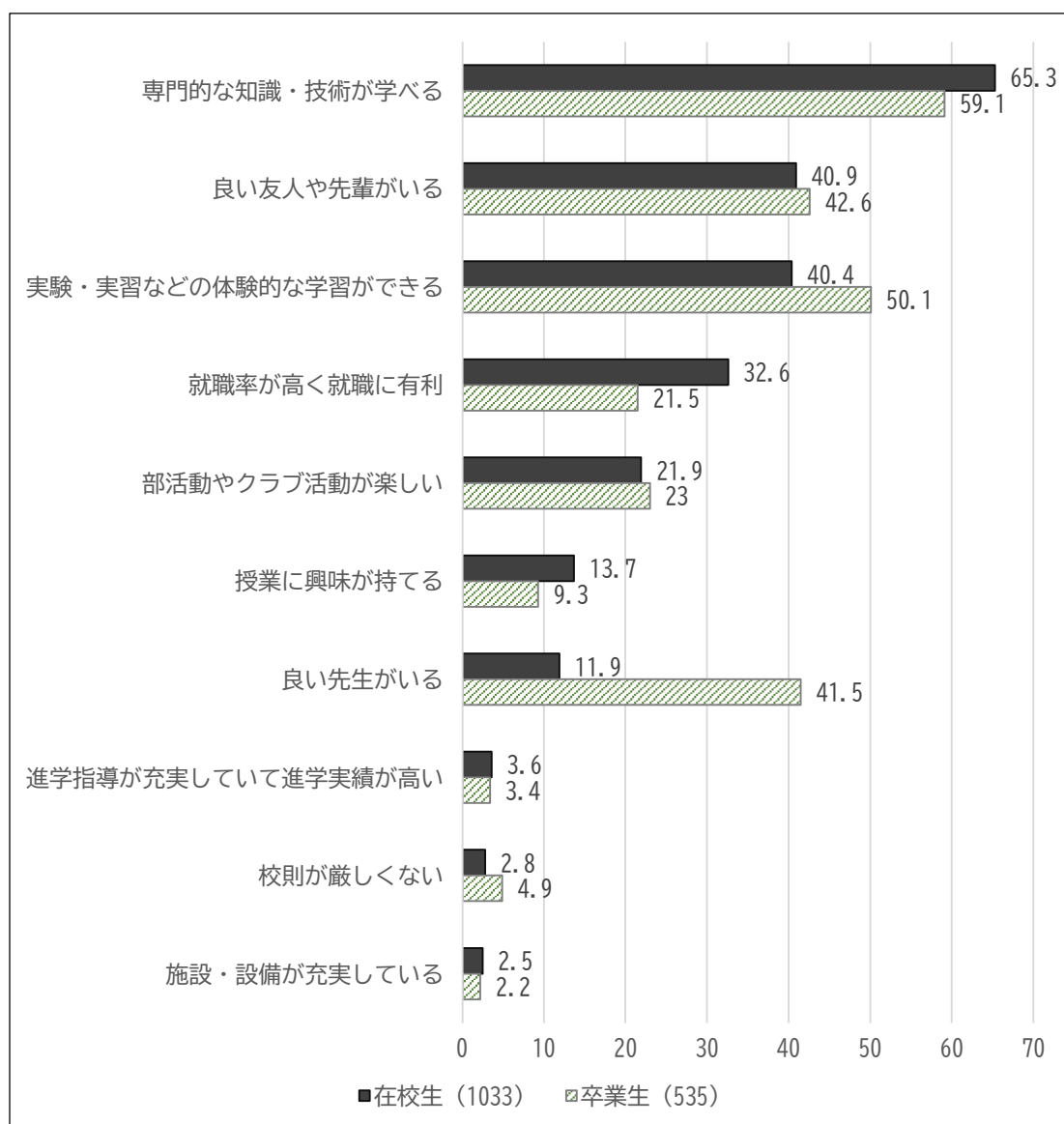


図3 職業学科で学ぶことの「よさ」(%)

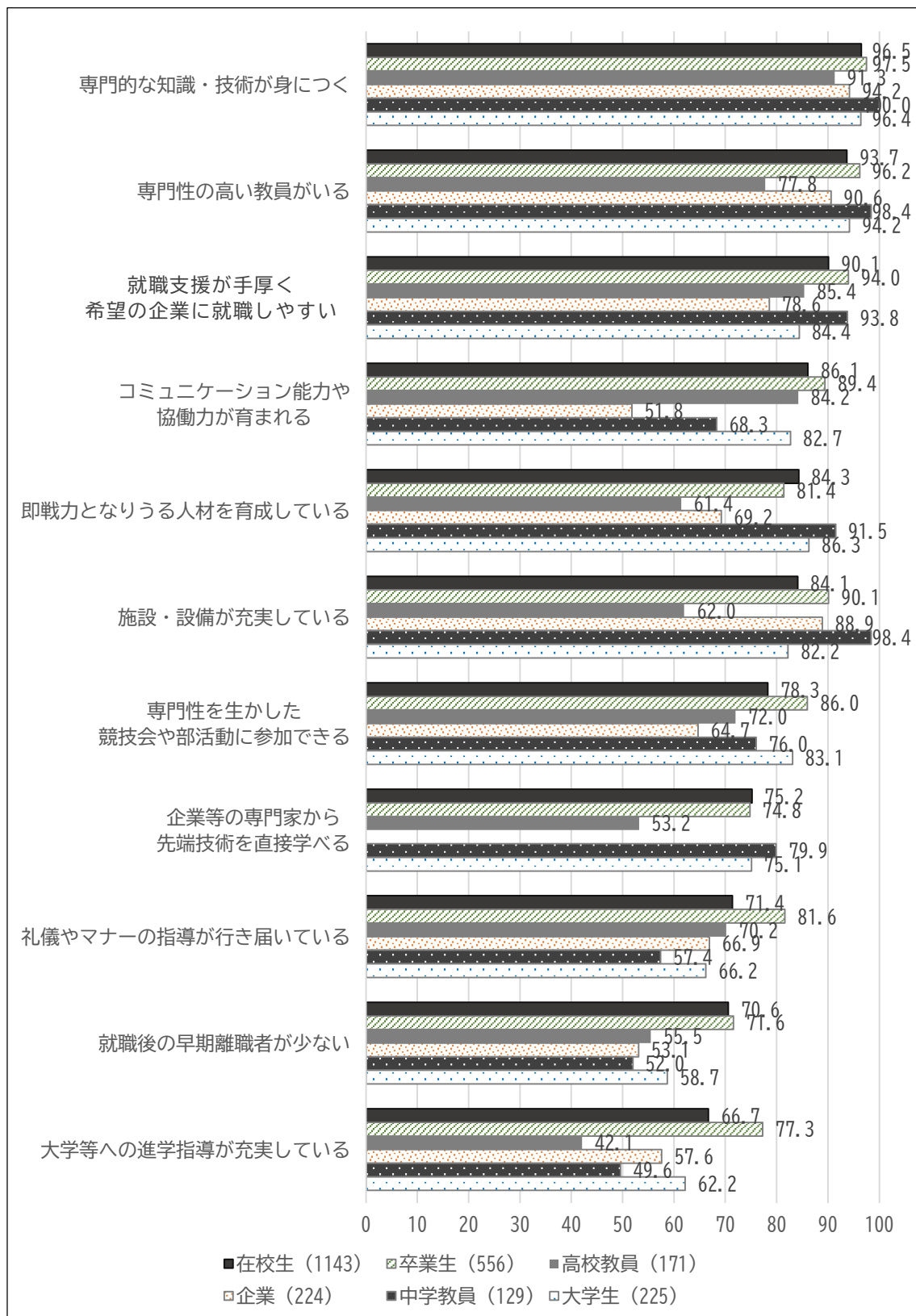
図4は、「職業学科の強みや魅力」について、在校生、卒業生、職業学科教員、企業、中学校教員、そして教職課程に学ぶ大学生・大学院生の回答を比較したものです。

全ての項目について「とても思う」～「全く思わない」の4件法で尋ねていますが、「専門的な知識・技術が身に付く」、「専門性の高い教員がいる」、「就職支援が手厚く、希望の企業に就職しやすい」といった項目で肯定的な回答の割合が高くなっています。

ここで注意したいのは、職業学科教員の評価の“厳しさ”です。「専門性の高い教員がいる」、「即戦力となりうる人材を育成している」、「施設・設備が充実

している」、「企業等の専門家から先端的な技術を直接学べる」、「早期離職者が少ない」、「大学等への進学指導が充実している」といった項目において、高校教員の肯定的な回答の割合は比較的低くなっています。

「即戦力となりうる人材を育成している」、「早期離職者が少ない」に対する肯定的な回答の低さは、企業についても共通しています。また、企業においては、「コミュニケーション能力や協働性が育まれる」についても、肯定的な割合が比較的低くなっていることが分かります。



(注)「とても思う」「まあ思う」を合計したもの

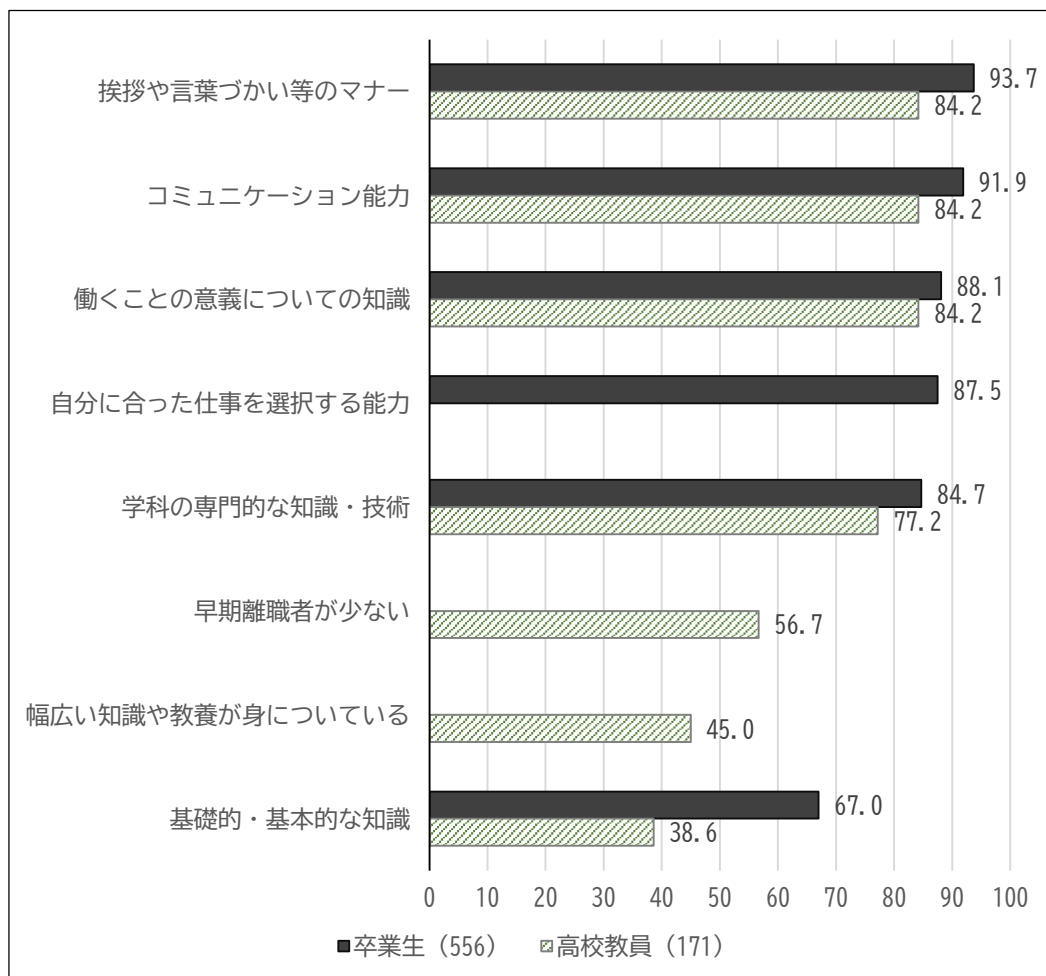
図4 職業学科の魅力 (%)

中学校教員に目を向けてみると、「専門性」や「就職支援」に関する項目については、高校教員と同様に肯定的な回答が高くなっていますが、「礼儀やマナーの指導が行き届いている」、「早期離職者が少ない」、「大学等への進学指導が充実している」については否定的な傾向にあります。

図5は、職業学科での学びの何が“現在役立っているか”（卒業生）、職業学科のこういった点が“評価されているか”（高校教員）といった、職業学科の「社会的な意義」について尋ねた結果です。

調査の設計上、比較可能な項目は限られていますが、両者とも「挨拶や言葉づかい等のマナー」、「コミュニケーション能力」、「働くことについての知識」といった項目での肯定的な回答の割合が、「専門的な知識・技術」と同様、あるいはそれ以上に高くなっていることが分かります。

興味深いのは、「基礎的・基本的な知識・学力」について、卒業生の肯定的な回答（「役立っている」）の割合が67.0%と、教員の肯定的な割合（「評価されている」）38.6%を大きく上回っている点です。上記の「マナー」、「コミュニケーション能力」に対する肯定的な認識も含め、職業学科での学びが「専門的な知識・技術」に限定されない“幅”を持っていることが示唆されます。



(注1) 卒業生 : 「とても役立っている」、「まあ役立っている」を合計したもの
 (注2) 高校教員 : 「評価されている」、「ある程度評価されている」を合計したもの

図5 職業学科での学びの「社会的な意義」(%)

図6は、北海道総合計画等で挙げられている主な産業分野のうち、どの分野に関心があるかや学んでみたいかといった学習ニーズ、もしくは教育ニーズ(職業学科の教員については研修のニーズ)について尋ねた結果です。

「まちづくりや地域課題を解決する方法」、「AIやVRなどのデジタル技術」、「生産した農作物を加工・商品化する方法」といった項目で割合が高くなっていますが、在校生や中学生の回答は、全体的に分散する傾向にあります。

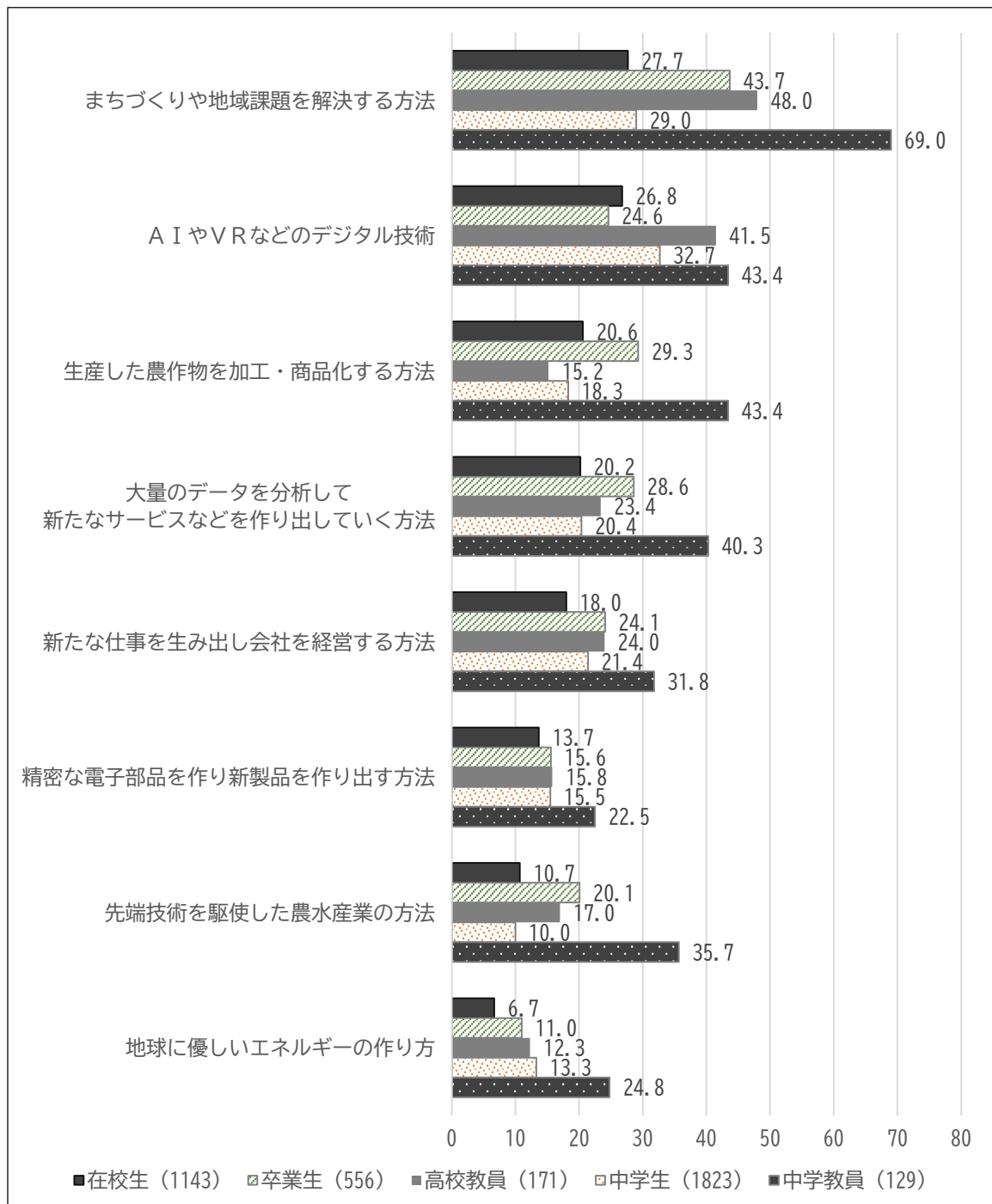


図6 学習ニーズ／教育ニーズ／研修ニーズ (%)

4 「専門高校」と「中学校」の関係性

【高校についての情報をどこから得ているのか】

この節では、専門高校と中学校、とりわけ中学生との関係性に焦点を当て、第1章「1 調査概要」で提示した3つの課題のうち、「専門高校の志願者の減少傾向」の現状と内実について検討します。

本節では、特に以下の点に着目して、集計結果を整理しました。

- ▶ 中学生が利用する、高校に関する情報源は何か
- ▶ 中学生の進路選択に影響を与えているのは何か
- ▶ 中学生が進路選択の際に重視することは何か

図7は、高校に関する情報をどういったメディアを通して発信・受信するかについての概要です。この質問の捉え方については、少し注意が必要です。

① 「在校生、中学生、中学教員」

どのようなメディアの情報を参考にしたか

② 「卒業生、高校教員」

職業学科の「魅力」を発信する際に、どのようなメディアが有効かであり、①は受信側の視点、②は発信側の視点となっています。

図7を見てみると、受信側、発信側のいずれも「高校が開催する体験入学や見学会」に有効性を見いだしていることが分かります。

一方で、発信側が「イベント」、「SNS」、「出前授業」に有効性を期待しているのに対し、受信側はそれらをあまり重視していません。また、中学校教員は「高校のホームページ」、「資料やパンフレット」、「高校説明会」を参考にする傾向が読み取れます。

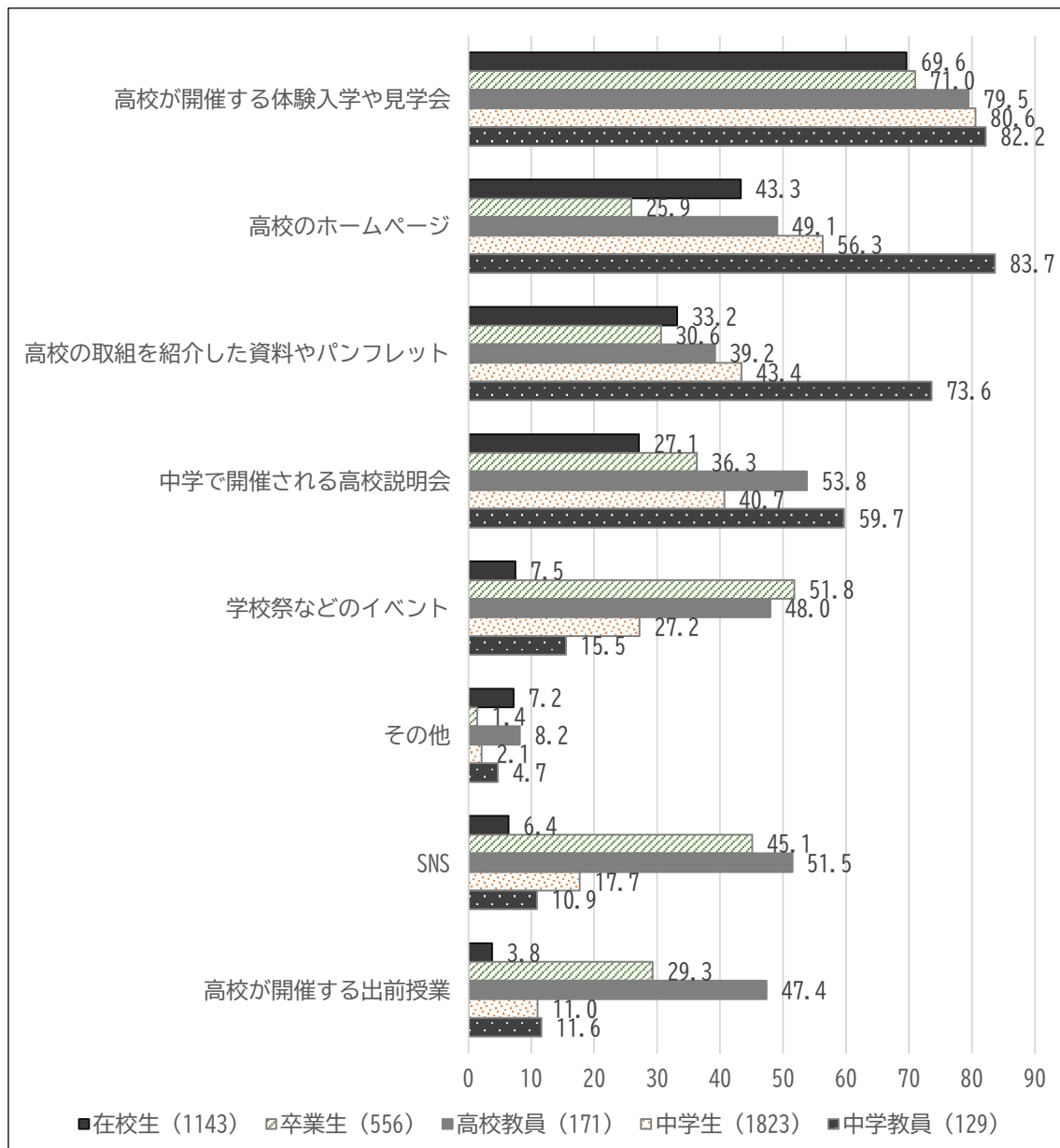


図7 高校に関する情報メディア (%)

図8は、高校進学相談をする際に「誰の意見を参考にしたか」について複数回答で尋ねた結果を、職業学科の在校生と中学生で比較したものです。在校生と中学生の両方で、「保護者」、「中学校の先生」が主要な相談相手となることが分かります。

また、多くの項目で、中学生の割合が在校生と比べて高くなっており、このことから高校進学を控えた中学生が様々な方法を用いて相談していることが読み取れます。

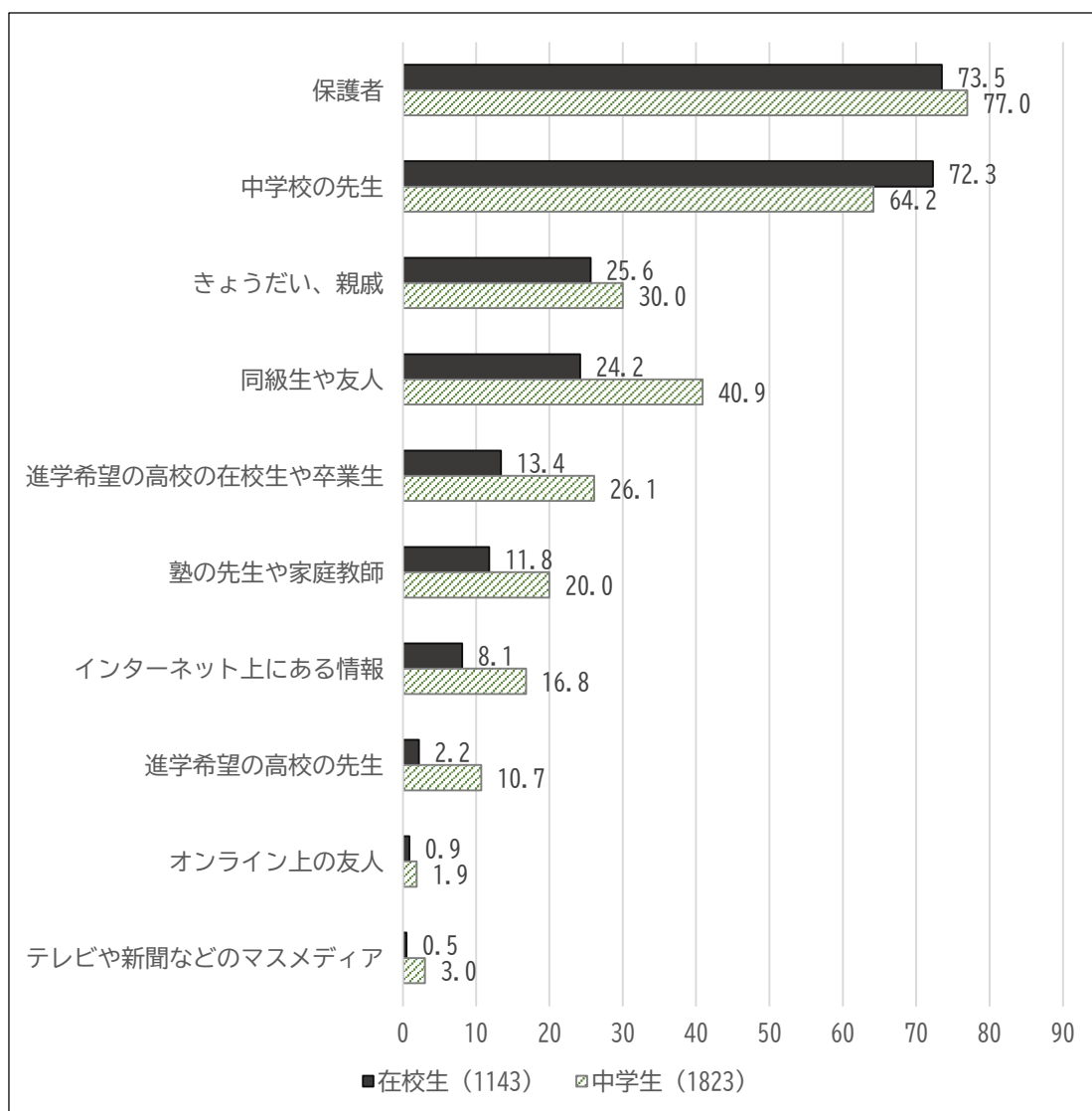


図8 高校に関する情報源（％）

こうした「高校に関する情報源」の現状を踏まえた上で、次に検討しなければならないのは、職業学科への進学を“選ぶ”中学生と“選ばない”中学生が、何を見て、何を重視しているのかという点です。

以下の分析では、中学生を対象にした調査の結果に焦点を当て、中学生が職業学科及び高校進学をどのように捉えているのかについて、「職業学科が進学先の選択肢としてどの程度入っているのか」（＝職業学科の希望度合）の観点から検討していきます。分析に用いる質問項目は、以下のとおりです。

表 1 分析に用いる項目（１）

分析事項	基準となる項目	分析項目
「専門学科 ×中学校」 の関係性	「職業学科への進学が 選択肢に入っている か」（設問 6）	「進路に関する相談相手」（設問 2） 「高校に関する情報のリソース」（設問 3） 「進学先を選ぶ際に重視する事項」（設問 1） 「職業学科に対するイメージ」（設問 7）

図 9 は、職業学科を希望する度合いを、調査時点での希望進路別に比較したものです。普通科を希望している中学生では、「職業学科が進学先の選択肢に全く入っていない」の割合が高く、職業学科を希望している中学生では「選択肢にかなり入っている」、「ある程度入っている」の割合が高くなっていることが分かります。

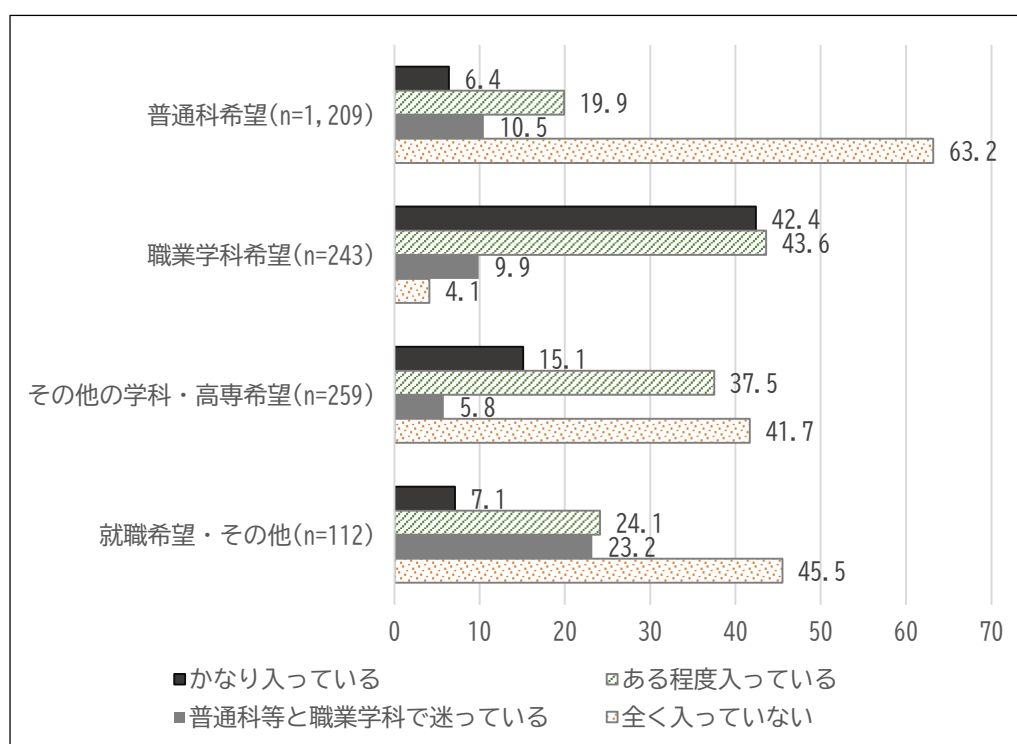


図 9 職業学科が進学先の選択肢にどの程度入っているか (%) $p < .01$

ここで留意しておきたいのは、普通科希望者の中にも「普通科等と職業学科で迷っている」あるいは「選択肢にある程度入っている」という生徒が、また、職業学科希望者の中にも「普通科と職業学科で迷っている」という生徒が一定数存在する点です。下記の表 2 から分かりますとおり、職業学科が選択肢に「かなり入っている」と「ある程度入っている」の割合は 38.3% であり、「迷っている」という中学生の 10.5% と合わせると、約半数の中学生が職業学科に関心を持っていることが読み取れます。

表2 職業学科が進学先の選択肢にどの程度入っているか（全体）

	かなり入っている	ある程度入っている	普通科等と職業学科で迷っている	全く入っていない
度数（人数）	227	471	192	933
割合（％）	12.5	25.8	10.5	51.2

そこで以下の分析では、「かなり入っている」と「ある程度入っている」を合わせて「選択肢に入っている」とした上で、「選択肢に入っていない」と「迷っている」との比較を試みます。そうすることで、「職業学科を希望して“いない”半数」が何を見ているのか、検討していきます。

図10は、高校進学について相談をする際に「誰の意見を参考にしたか」を複数回答で尋ねた結果です。「保護者」と「中学校の先生」が中学生の主要な相談相手となっていることが分かります。

「職業学科が選択肢に入っている」、「入っていない」、「迷っている」の間の差、すなわち“職業学科の希望度合い”による差に注目すると、10項目中で「保護者」についてのみ有意な差が見られました。保護者に相談するといった中学生の割合が、「選択肢に入っている」と回答した生徒の方が高くなっています。

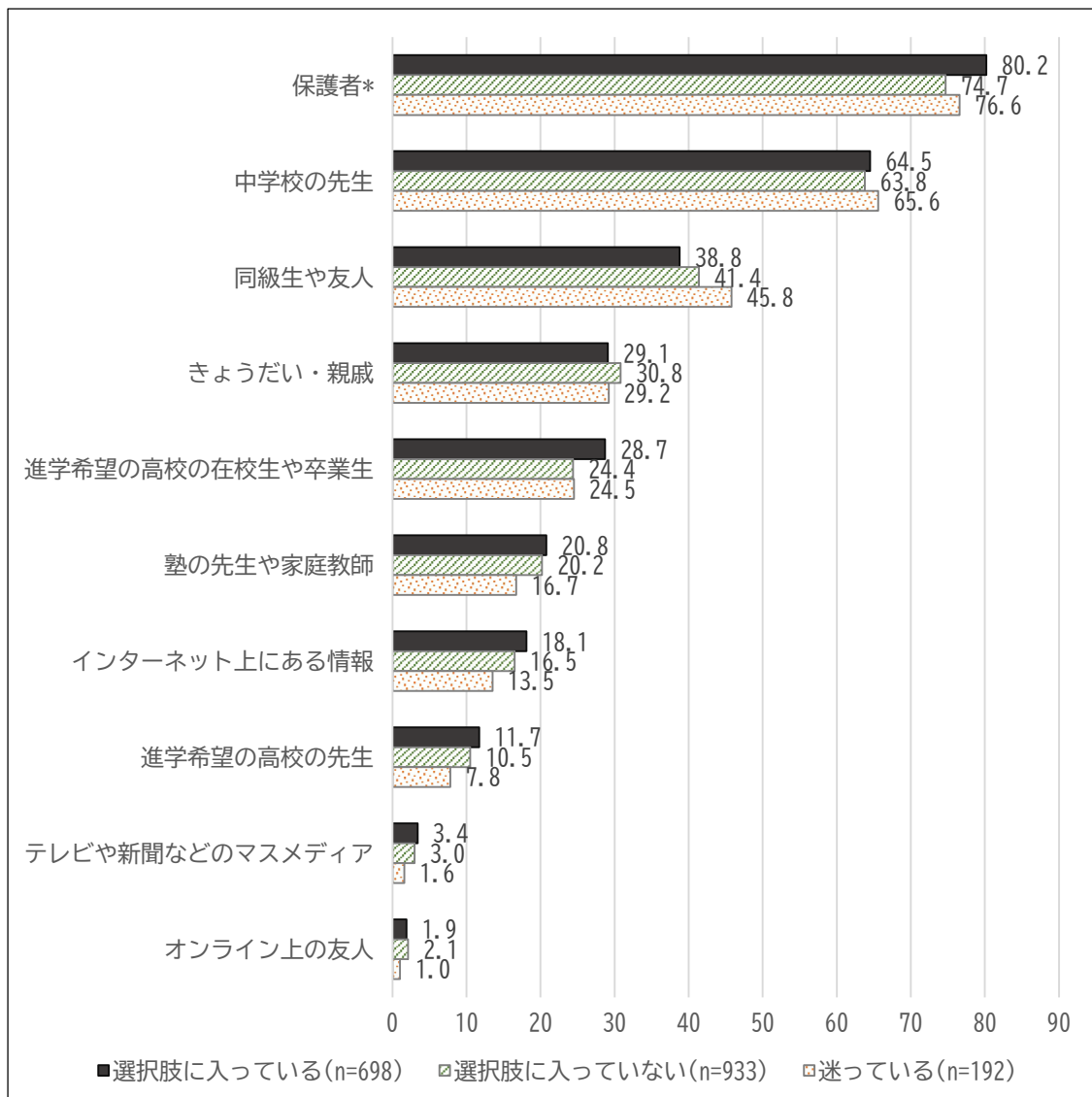
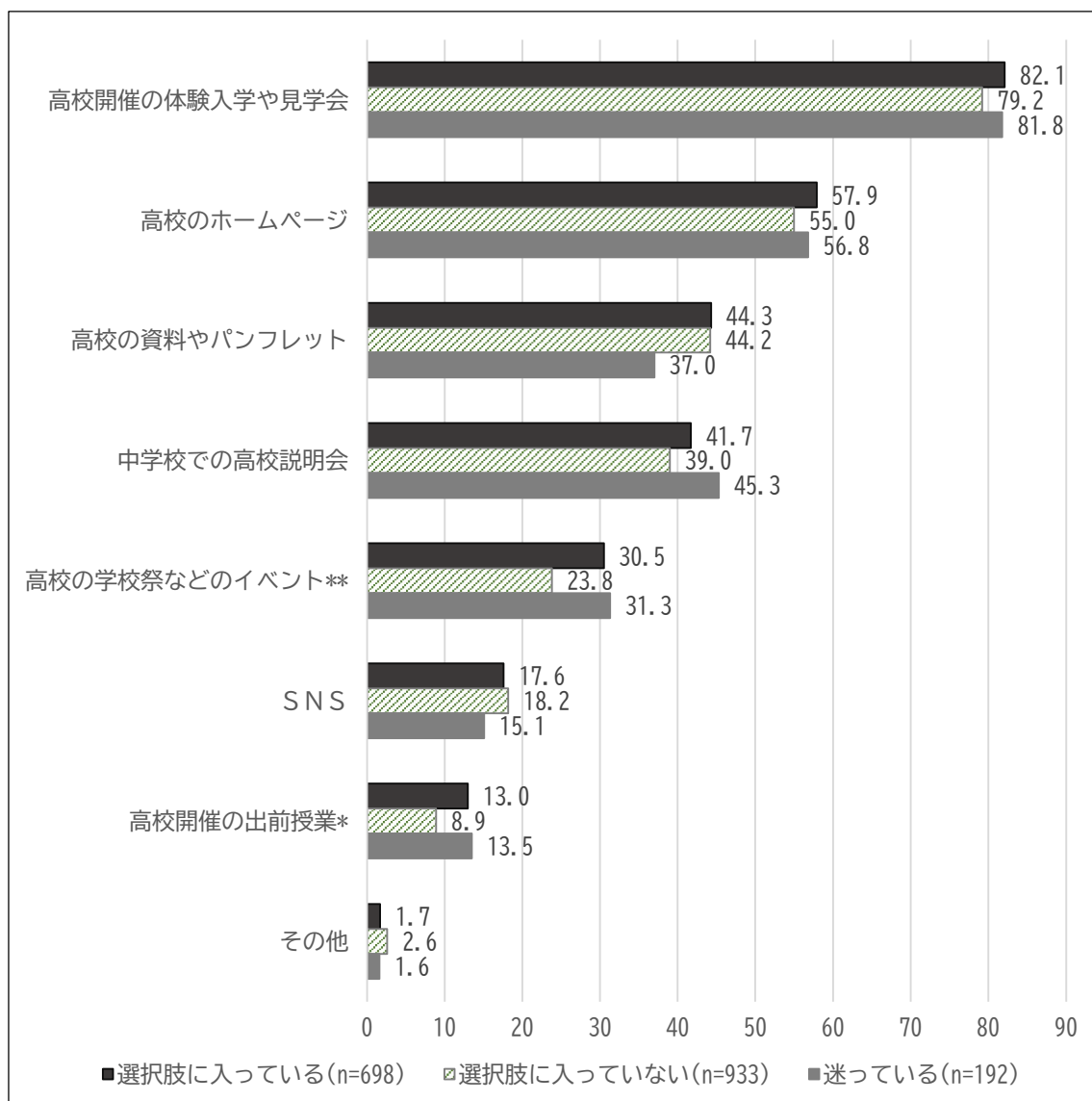


図 10 進路に関する相談相手（％）

図11は、高校に関する情報をどういったメディアやリソースを通して得ているのか、その概要を示したものです。「複数回答可」の質問項目でしたが、8割前後の生徒が「高校開催の体験入学や見学会」を主な情報源としていることが分かります。



** p<.01 * p<.05

図 11 高校に関する情報源 (%)

8項目中2項目において、職業学科の希望度合いによる有意な差が検出されました。図11を見ると、「高校の学校祭などのイベント」と「高校開催の出前授業」において、「選択肢に入っていない」生徒の割合が他と比べて低くなっています。

ただし、図10と図11のいずれにおいても、「職業学科が選択肢に入っている」、「入っていない」、「迷っている」の間で有意な差が見られる項目は多くはありません。これは、三者の間で進路に関する相談相手や情報のリソースに大きな違いがないことを示していると考えられます。

次に、中学生は「保護者」や「中学校の教員」との相談、「体験入学や見学会」、「高校のホームページ」を通して、何に注目し、どのような情報を得ているのかについてです。

図12は、中学生が進学先を選ぶ際に重視する事項について、職業学科の希望度合い別に整理したものです。「3つまで回答可」となっていますが、12項目中11の項目で有意な差が見られました。

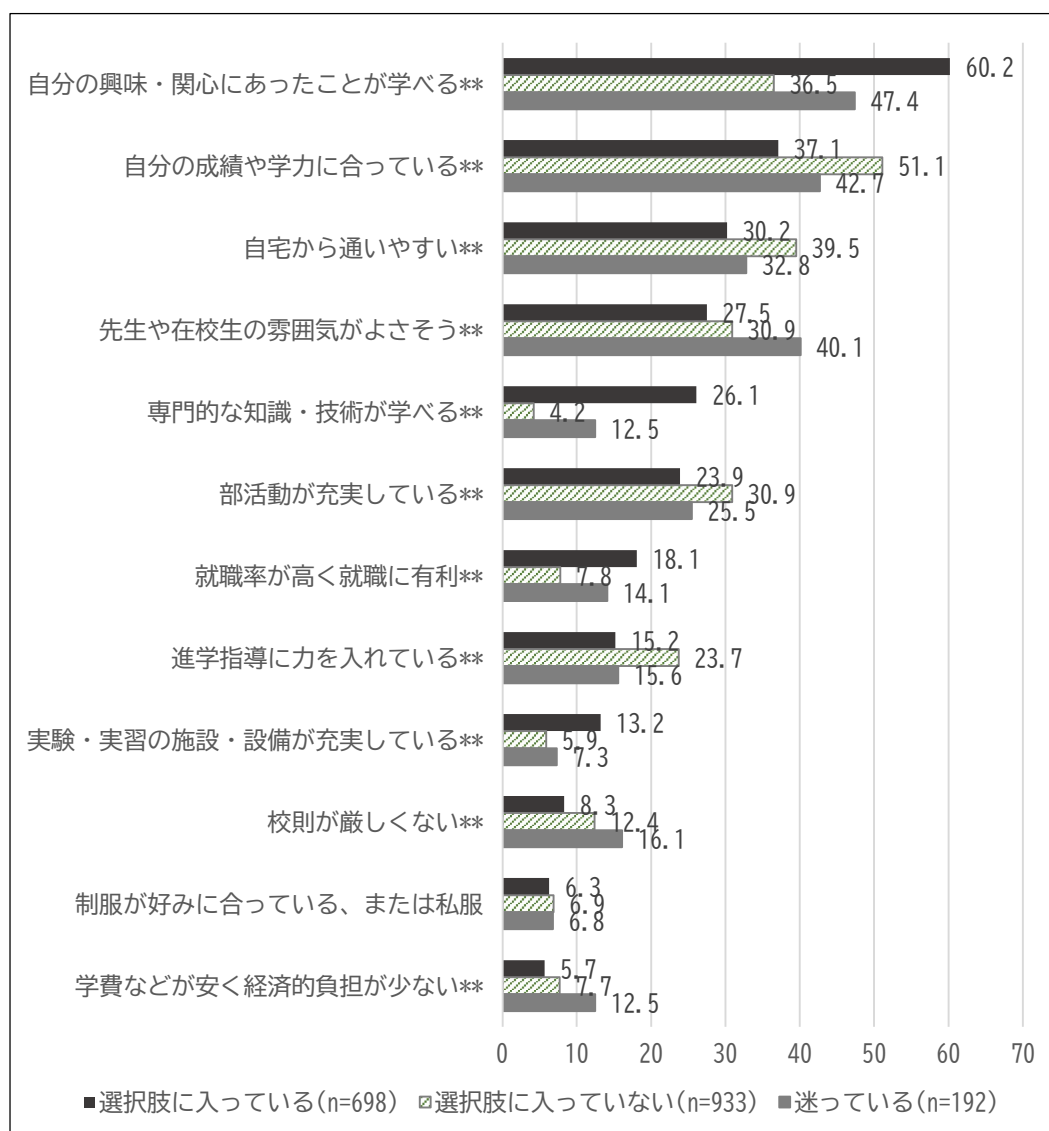


図 12 進学先を選ぶ際に重視する事項 (%)

** p<.01

特に「選択肢に入っている」と「入っていない」との違いに着目すると、「自分の興味・関心にあったことが学べる」については「選択肢に入っている」生徒の割合が60%と高くなっている一方、「自分の成績や学力に合っている」や「自宅から通いやすい」については「選択肢に入っていない」生徒の割合が高くなっています（それぞれ51.1%と39.5%）。

また、

- ▶ 「専門的な知識・技術が学べる」と「就職率が高く就職に有利」については、「選択肢に入っている」生徒の割合が、
 - ▶ 「進学指導に力を入れている」と「部活動が充実している」については、「選択肢に入っていない」生徒の割合が、
- 他の群の生徒と比べて高くなっていることが分かります。

「迷っている」生徒については、「自分の興味・関心にあったことが学べる」(47.4%)、「自分の成績や学力に合っている」(42.7%)、「先生や在校生の雰囲気よさそう」(40.1%)といった項目において割合が高くなっています。

中学生の高校選択の観点において、「就職率」や「進学指導」といった進路に関わる事項の優先順位が高くないという点には留意すべきです。

こうした「職業学科の希望度合いによる差異」は、中学生の将来展望にも表れています。図13は、「将来就きたい職業がどの程度決まっているか」について、職業学科の希望度合い別に示したものです。

これを見てみると、「ある程度決まっている」において「選択肢に入っている」生徒の割合(45.6%)が有意に高い一方、「全く決まっていない」において「選択肢に入っていない」生徒の割合(27%)が高くなっています。また、「選択肢に入っていない」生徒については、「ある程度決まっている」から「全く決まっていない」にかけて、3割前後で割合が分散する傾向にあることが分かります。

「迷っている」という生徒については、「あまり決まっていない」において割合が高くなっています(44%)。

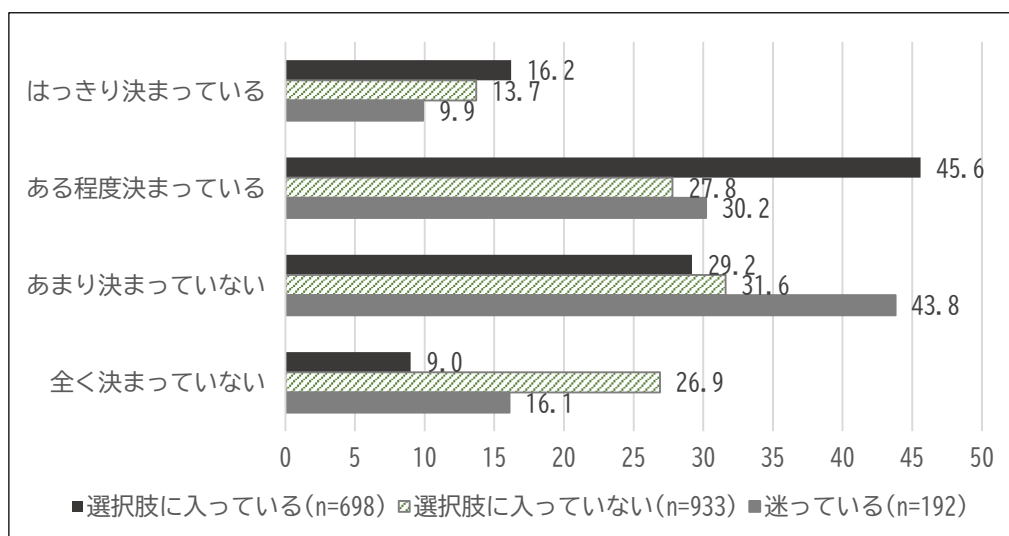
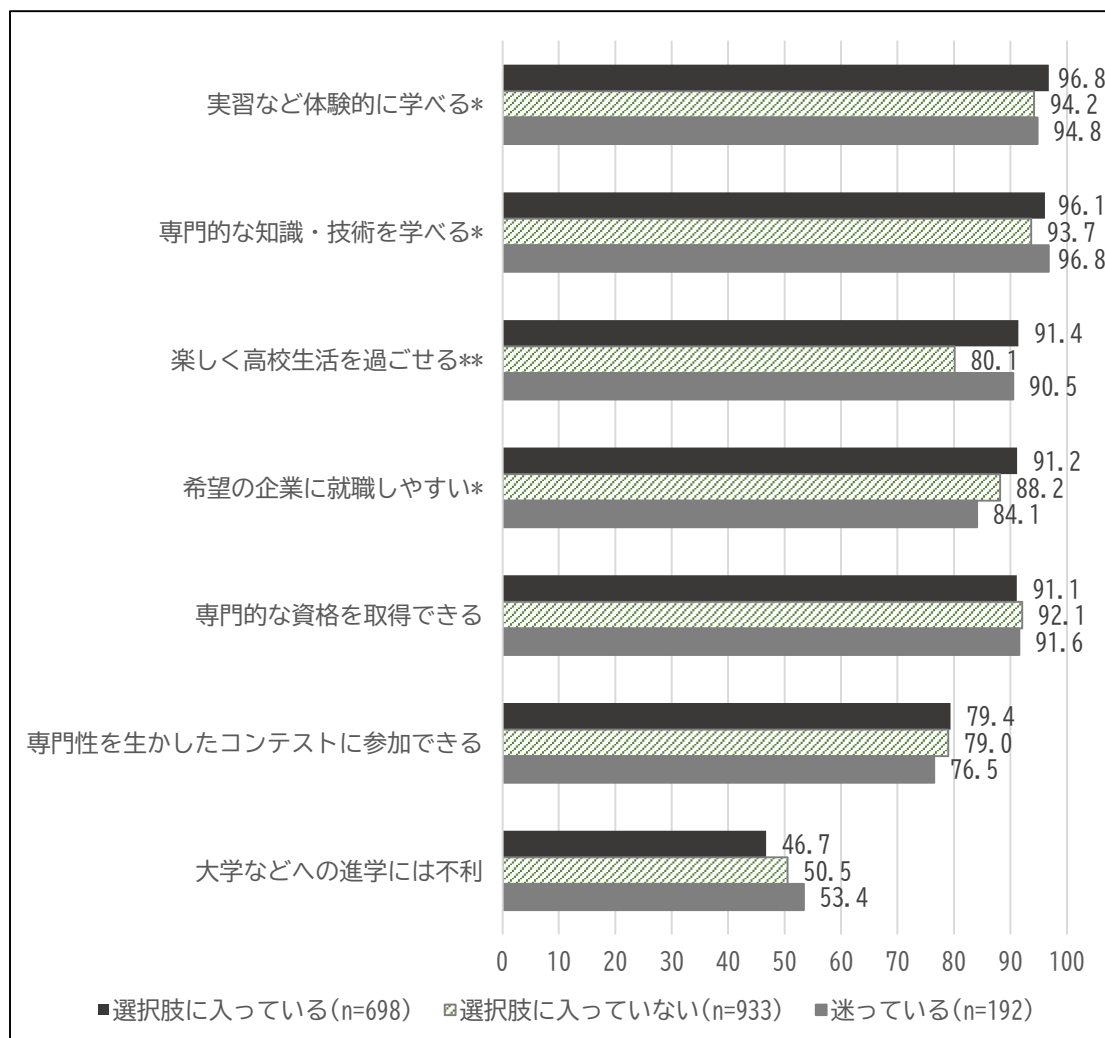


図13 希望する職業はどの程度決まっているか (%)

p<.01

図14は、「職業学科に対するイメージ」について、職業学科の希望度合い別に示したものです。全ての項目について「とても当てはまる」から「全く当てはまらない」の4件法で尋ねたところ、7項目中4項目において有意な差が見られました。

つまり、「選択肢に入っていない」生徒の割合が、「実習など体験的に学べる」(94.2%)、「専門的な知識・技術を学べる」(93.7%)、「楽しく高校生活を過ごせる」(80.1%)、「希望の企業に就職しやすい」(88.2%)において相対的に低くなっていました。とはいえ、いずれも8割を上回っており、各グループ間に顕著な違いを見いだすことは困難です。



(注)「とても当てはまる」「まあ当てはまる」に回答したものの合計 ** p<.01 * p<.05

図 14 職業学科に対するイメージ (%)

5 「専門高校」と「企業」の関係性

【高校と企業はどのようにつながることができるか】

この節では、専門高校と企業との関係性に焦点を当て、第1章「1 調査の概要」で提示した3つの課題のうち、「先端技術等を学ぶ機会の確保に向けた企業等との緊密な連携」の現状と内実について検討します。

本節では、特に以下の点に着目して、集計結果を整理しました。

- ▶ 連携によって企業等が期待している効果は何か
- ▶ 連携を進める上で何が課題となっているのか
- ▶ 企業が利用する高校に関する情報源は何か

ここではまず、連携に関わる2つの“当事者”、企業等と職業学科の教員との考え方の違いと類似点について確認しておきます。両者は、互いが連携する上で、それぞれ何を課題と感じ、どのような効果を期待しているのでしょうか。

図15は、職業学科と企業とが連携を進めていく上で課題となる事項を整理したものです。「3つまで回答可」の質問で、上位3項目は、以下のとおりでした。

【高校教員】

- ▶ スケジュールの調整
- ▶ 交通費や経費などの確保
- ▶ 連携に充てる人員や時間の確保

【企業】

- ▶ 高校側のニーズの分かりにくさ
- ▶ スケジュールの調整
- ▶ 生徒の意欲や態度

同様の傾向は、連携を進める上で整備すべき必要事項にも見られます。図16は、職業学科と企業の双方が「連携に当たって何が必要と思うか」を複数回答で尋ねた結果です。

図15の結果と同様、高校側は「予算／経費」、「信頼関係やコミュニケーション（＝連携に携わる人員）」、「時間（＝スケジュール調整）」を挙げている一方、企業側は「高校側の情報・ニーズの把握」、「信頼関係やコミュニケーション」、「連携に携わる人材の確保」を挙げています。

このように、高校側は「予算・経費」と「時間」について、企業側は「情報・ニーズの把握」と「人材」についての課題意識が強いことが分かります。また、企業側については、「生徒の意欲や態度」も比較的重視する事項となっています。

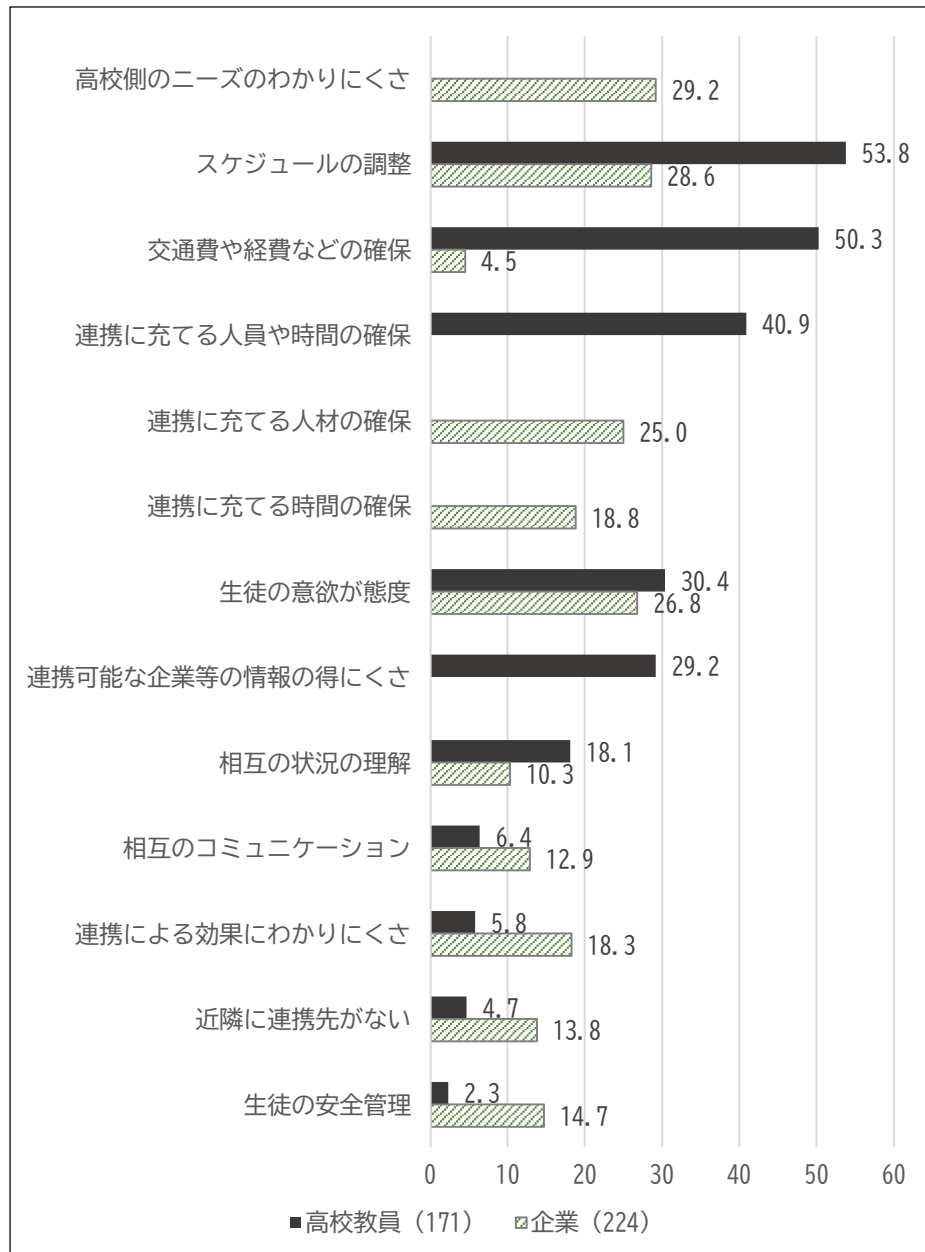


図 15 連携する上での課題 (%)

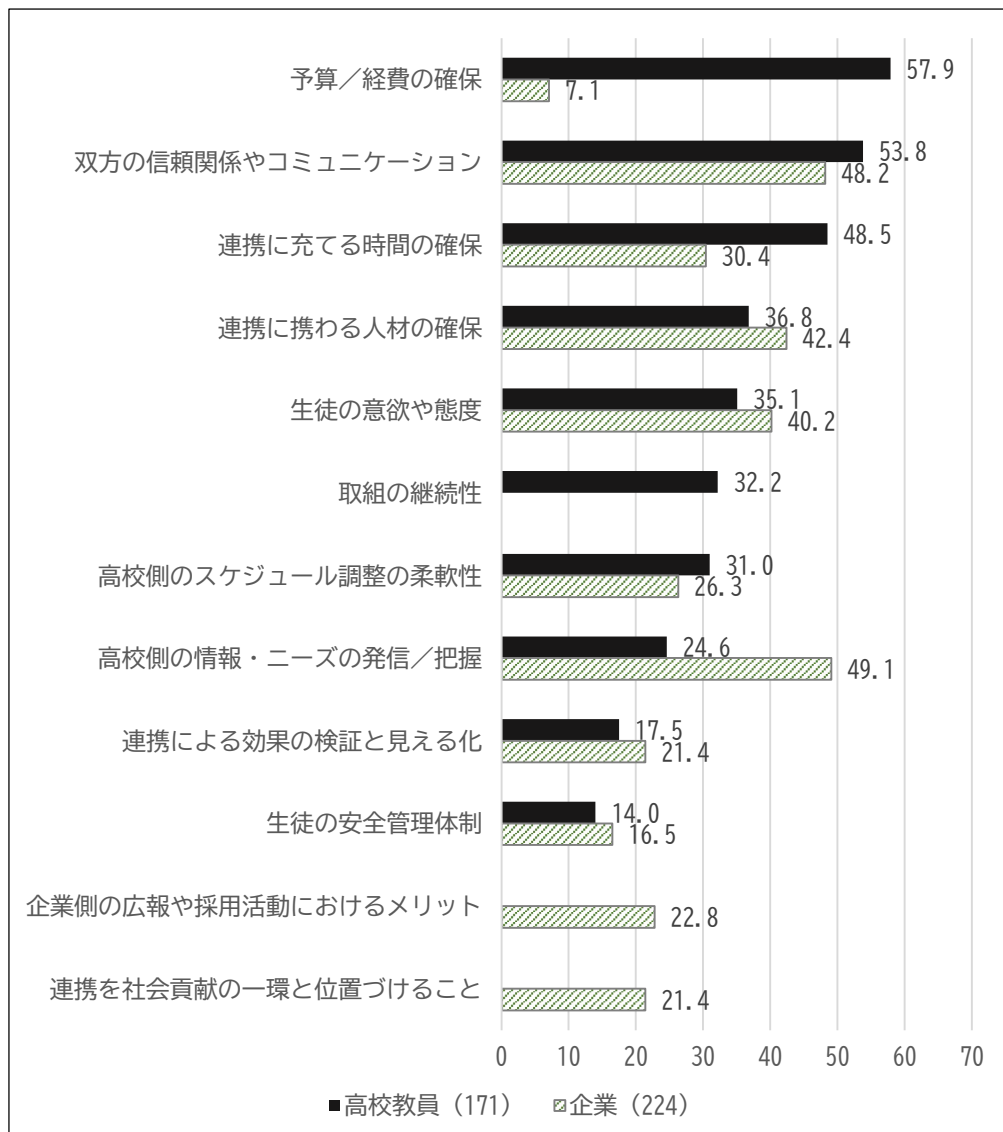


図 16 連携のための必要事項 (%)

次に、企業側は高校と連携することでどのような効果を期待しているのかについてです。図17は、実際に高校と連携した企業が「得られた」と見なす効果と、まだ連携の経験がない企業も含めて「連携によって期待される効果」を整理したものです。

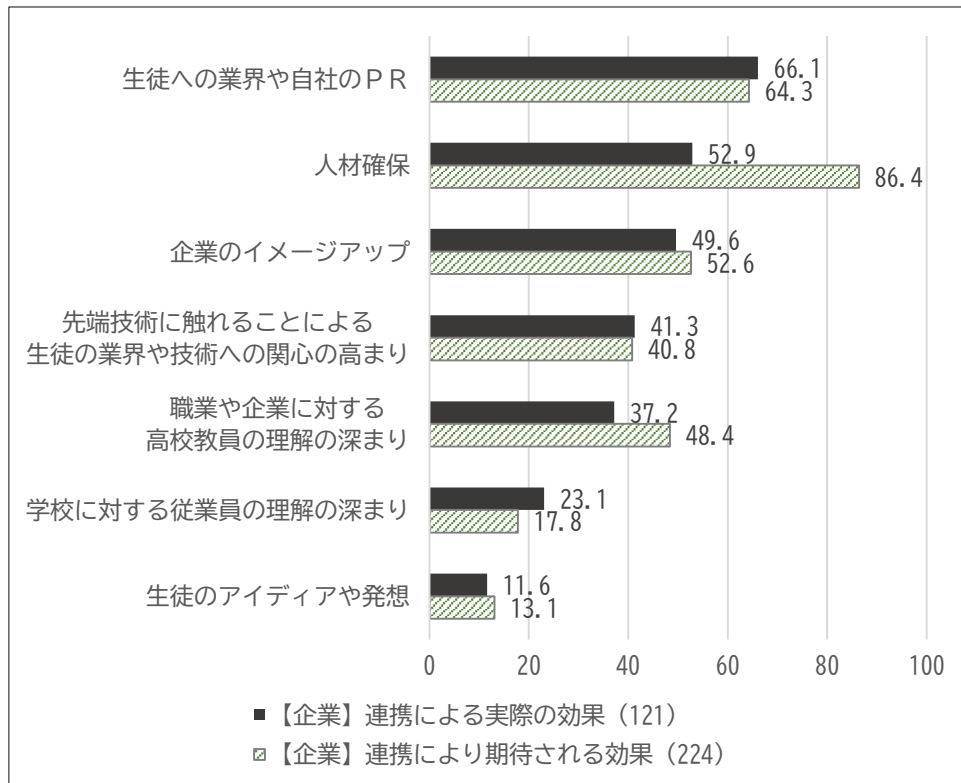


図 17 連携による企業側の効果（％）

これを見ると、「生徒への業界や自社のPR」、「人材確保につながる」、「企業のイメージアップ」といった、将来の人材確保に関連した項目が上位になっていることが分かります。ただし、直接的な「人材確保」については、“期待する”割合が86.4%であるのに対し“実際の効果”の割合は52.9%と差異が見られます。

それに対して図18は、参考として高校側の「連携による効果」の認識を整理したものです。「勤労観・職業観の育成」、「生徒が先端技術に触れることができる」、「専門的な知識・技術の習得」といった、生徒の学習に関わる項目が並んでいます。しかし、質問項目自体が企業側のものと異なるため、両者を単純に比較することはできません。

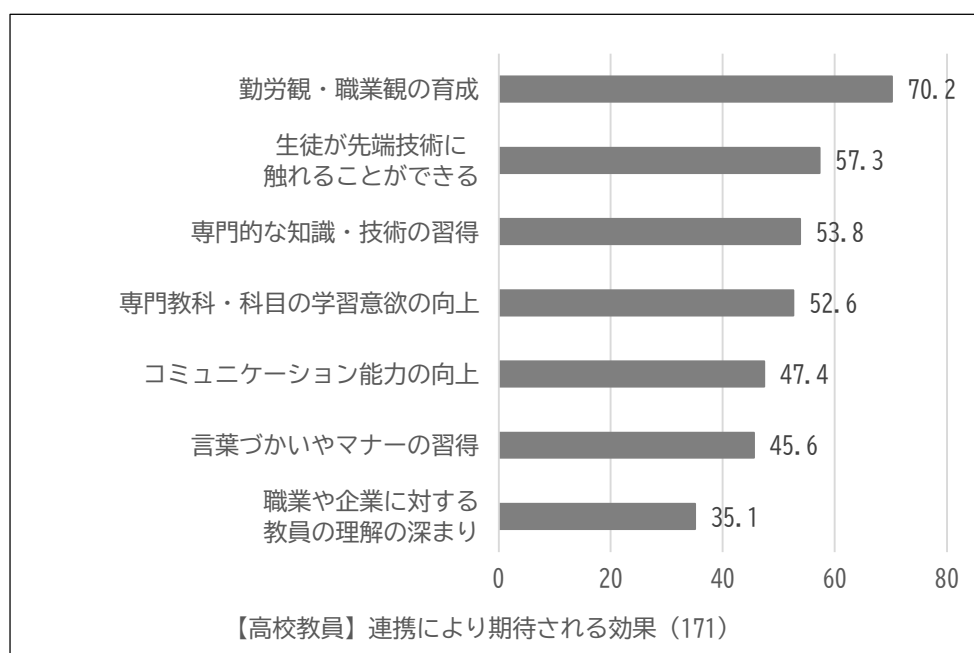


図 18 連携による高校側の効果（％）

こうした「連携に対する当事者間の認識の違い」を踏まえた上で、次に検討しなければならないのは、専門高校との連携実績のある企業と連携の経験がない企業とでは、どのような差異があり、いかなる条件整備が求められるのかという点です。

以下の分析では、企業等を対象にした調査の結果に焦点を当て、企業が専門高校と連携することをどのように捉えているのかについて、「専門高校と連携したことがあるかどうか」（＝専門高校との連携実績の有無）の観点から検討していきます。分析に用いる質問項目は、以下のとおりです。

なお、企業からの有効回答数224件中、専門高校との連携実績がある企業数は121（54%）、連携実績のない企業数は103（46%）と、ほぼ半数ずつを占めていました。

表 3 分析に用いる項目（2）

分析事項	基準となる項目	分析項目
「専門学科×企業」の関係性	「専門高校との連携実績」（設問 1）	「専門学科との連携の見通し・意思」（設問 5） 「連携によって期待される効果」（設問 6） 「連携する上での課題」（設問 7） 「専門高校に関する情報原」（設問11）

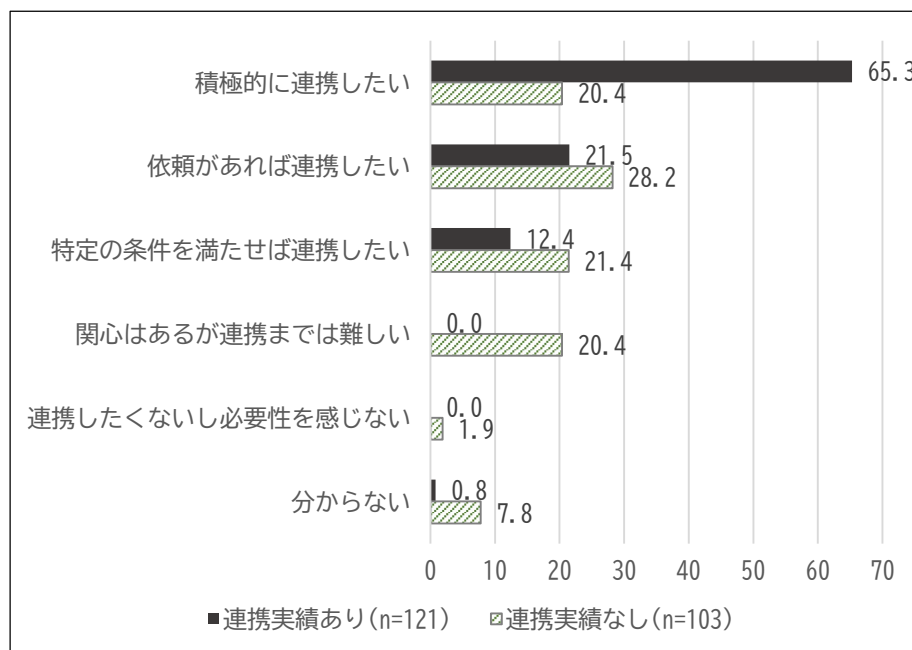


図 19 専門高校との連携の見通し・意思 (%) $p < .01$

図19は、「専門高校と連携したいと思うかどうか」の意思、あるいは連携の見通しを、連携実績の有無別に示したものです。連携実績のある企業の65%が「積極的に連携したい」と回答しているのに対し、連携実績のない企業の20%以上が「関心はあるが連携までは難しい」と答えています。

これまで専門高校と連携したことがない企業であっても、「積極的に連携したい」(20.4%)、「依頼があれば連携したい」(28.2%)、「特定の条件を満たせば連携したい」(21.4%)という企業が一定数存在するという点には注目すべきです。

次に、連携実績の有無から見いだす背景に着目します。

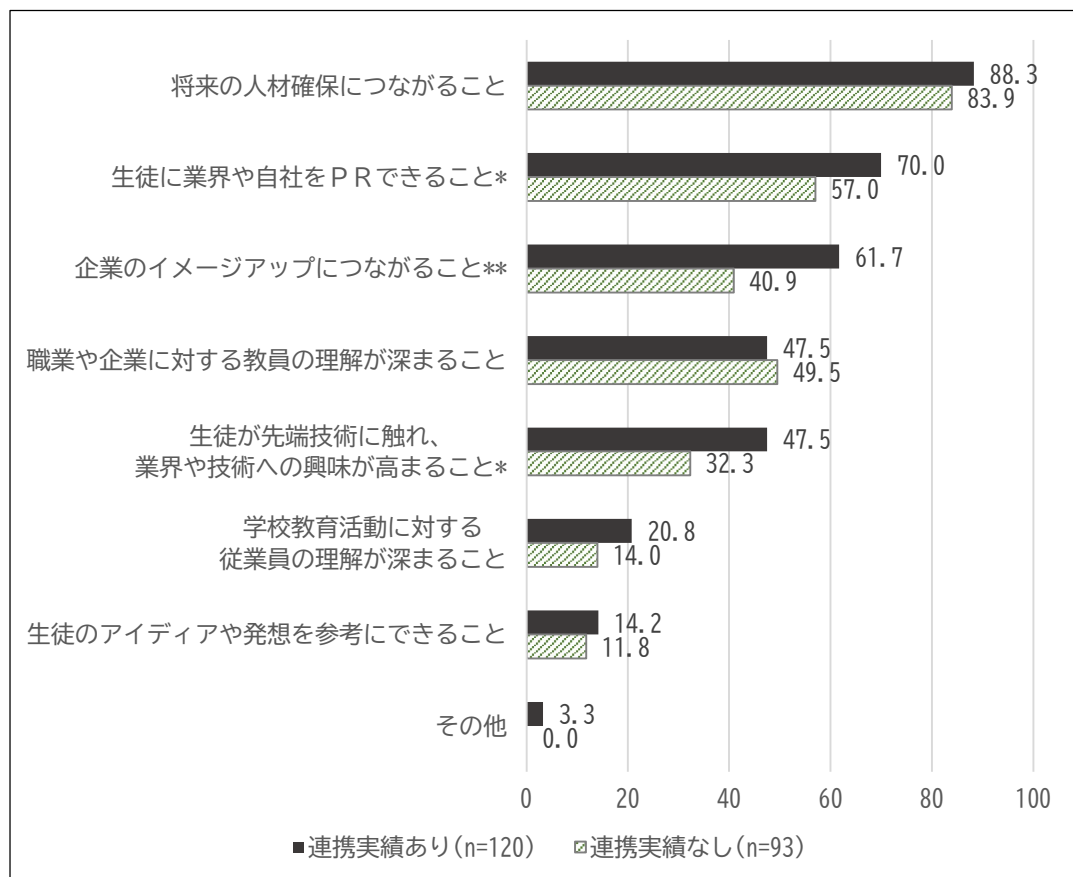


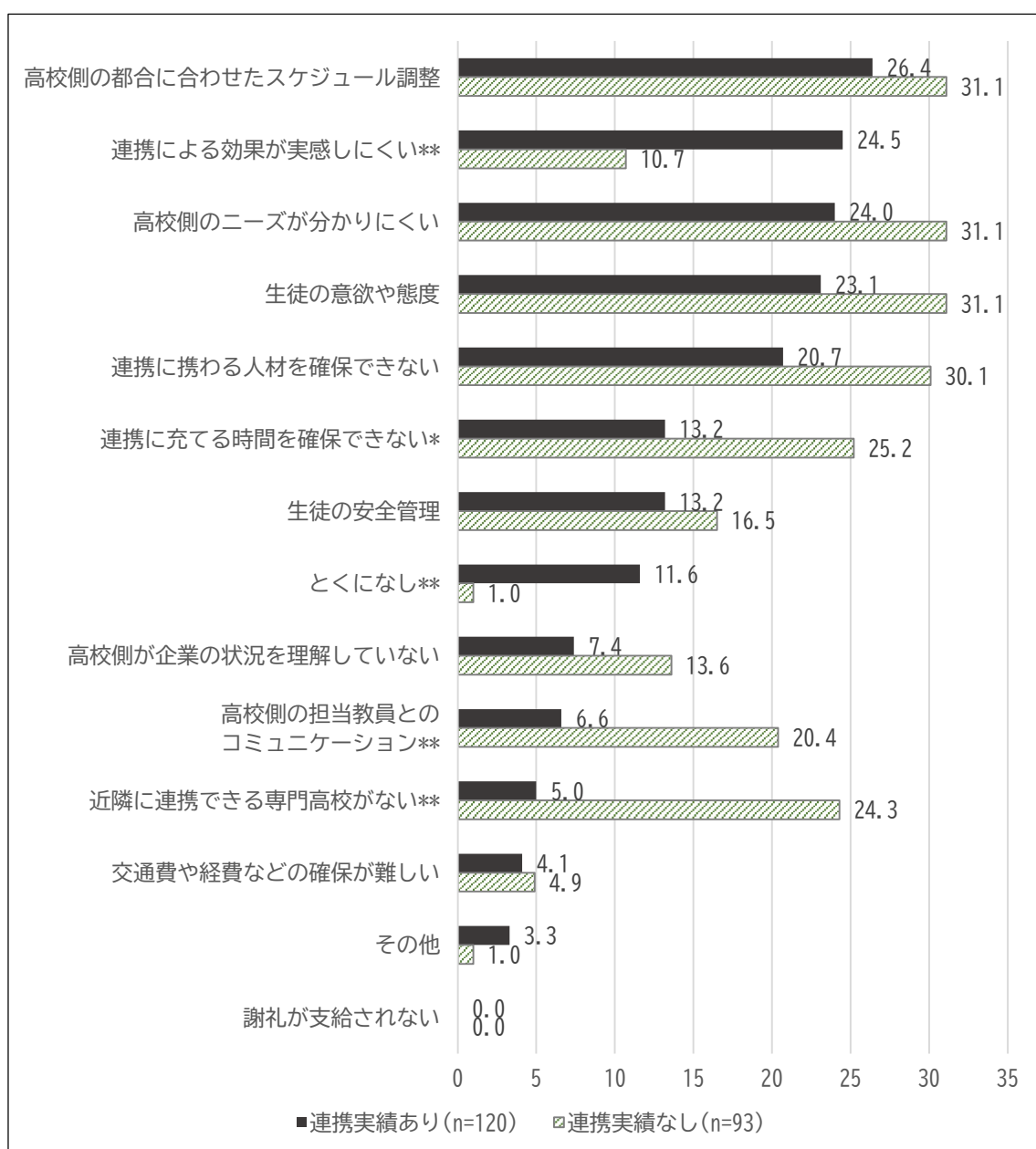
図 20 連携によって期待される効果 (%) ** p<.01 * p<.05

図20は、連携実績のある企業とない企業がそれぞれ、連携によって企業側にどのような効果があると見なしているのかを比較したものです。複数回答の質問で、8項目中3項目において有意な差が見られました。

これを見ると、「将来の人材確保につながる」については、連携実績に関わりなく8割を超える企業が効果を期待していることが分かります。一方で、

- ▶ 「生徒に業界や自社をPRできること」や「企業のイメージアップにつながる」といった対社会的な効果については、連携実績のある企業の回答が有意に高くなっています。
- ▶ また、「生徒が先端技術に触れ、業界や技術への興味が高まること」についても、連携実績のある企業の割合が高くなっていることが分かります。

連携実績のある企業は、即時的な人材確保はもとより、中長期的に企業のプレゼンスを高めることに連携の効果を見いだしていることが推察されます。



** p<.01

図 21 連携する上での課題 (%)

図21は、「連携を進める上での課題、連携に躊躇する理由」について、連携実績別に整理したものです。「3つまで回答可」で、14項目中5項目において有意な差が見られました。特に連携実績のない企業に注目すると、「連携に充てる時間を確保できない」と「高校側の担当教員とのコミュニケーション」、「近隣に連携できる専門高校がない」において課題を感じている割合が高くなっています。

「近隣に連携できる専門高校がない」については、企業の所在地（地域）が大きく関連していることが考えられます。図22は、企業の所在地域を連携実績別に整理したものです（企業数が5以下の地域は分析から除外）。母数に差があるため

読み取りには注意しなければならないですが、宗谷、オホーツク、釧路、根室といった地域で連携実績のない企業の割合が高くなっています。

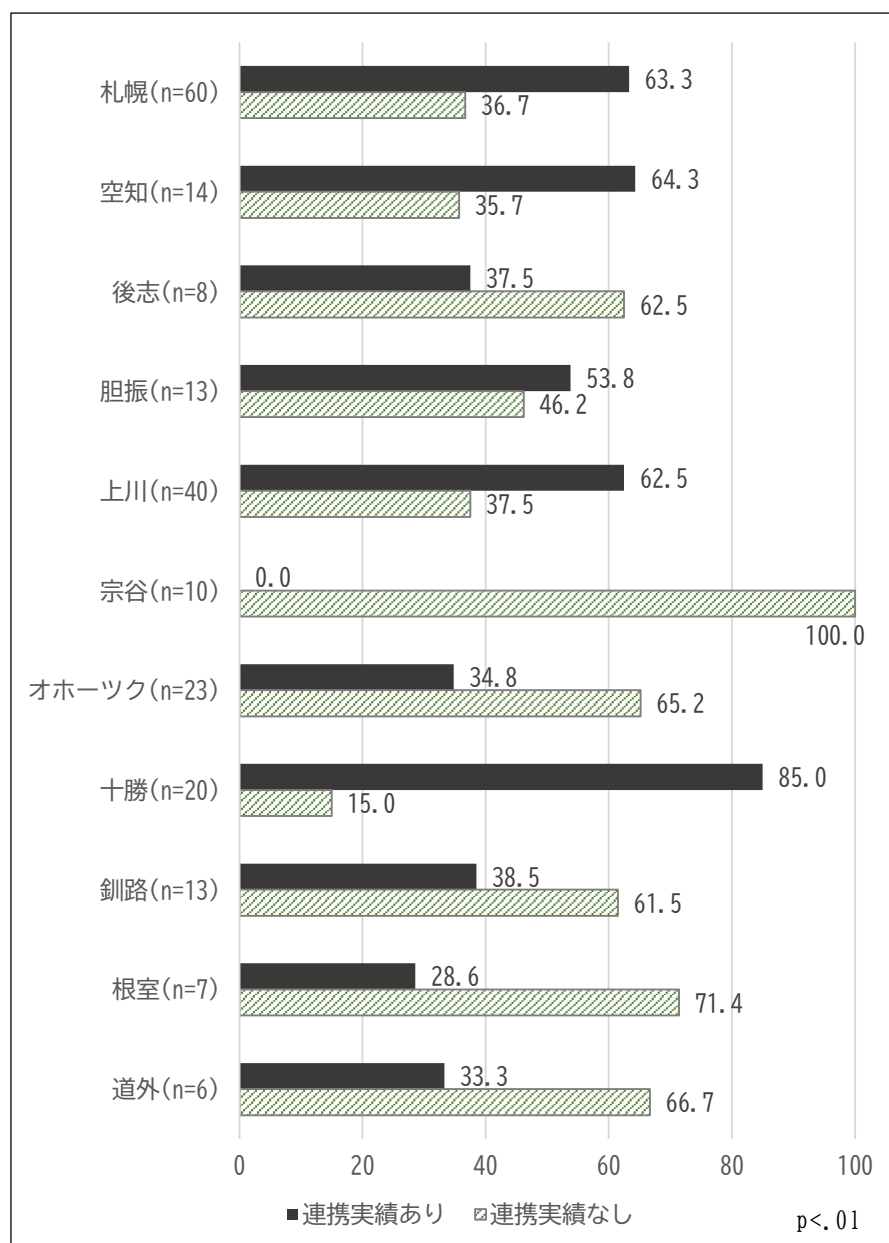


図 22 連携実績別の企業所在地域 (%)

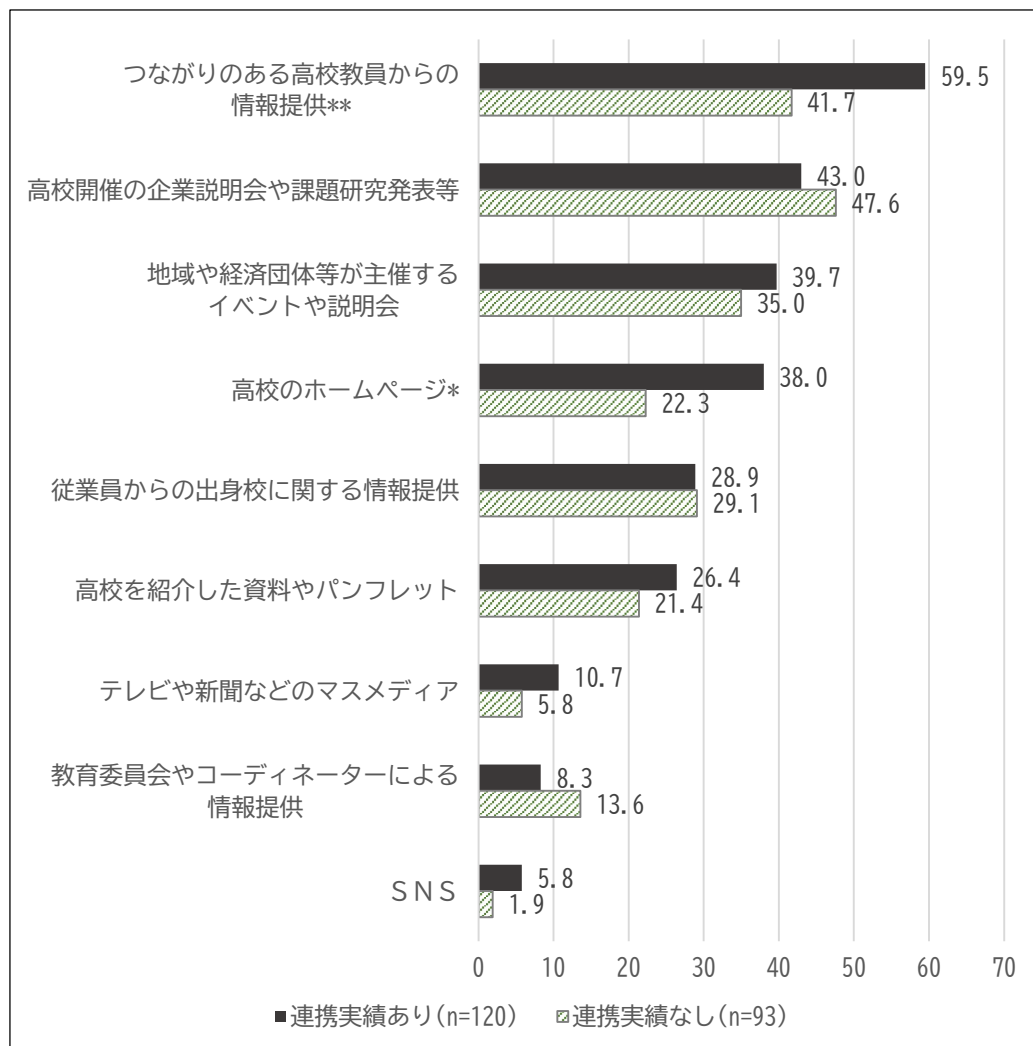
図21に戻ると、「高校側の担当教員とのコミュニケーション」において、連携実績のある企業とない企業との差異が大きいことが分かります。連携における人的ネットワークの重要性を読み取ることができます。

一方、連携実績のある企業では、「連携による効果が実感しにくい」に対する回答が相対的に高くなっています。今後は連携による効果を可視化し、それを学校と企業とが共有するような仕組みづくりが求められるかもしれません。

図23は、「専門高校について情報を得る上で参考とするリソース」を複数回答で尋ねた結果です。9項目中2つの項目において、連携実績のある企業とない企業との間に有意な差が見られました。

先の図21において、連携実績のない企業が連携を進める上での課題として「高校側の担当教員とのコミュニケーション」を挙げていましたが、それと同様（あるいは正反対）の傾向を図23は示しています。つまり、専門高校に関する情報源として「つながりのある高校教員からの情報提供」に回答した割合が、連携実績のある企業で有意に高くなっています。

「教育委員会やコーディネーターによる情報提供」の割合が、連携の実績の有無に関わらず比較的低調であることから、連携のネットワークがかなり属人的に構築されている状況を読み取ることができます。安定したネットワークづくりと、アクセスしやすい情報源の構築が求められます。



** p<.01 * p<.05

図 23 専門高校に関する情報源 (%)

6 「専門高校」と「大学（教員養成）」の関係性

【職業学科で働くことはどのように捉えられているか】

この節では、専門高校と大学、とりわけ教職課程を履修している大学生との関係性に焦点を当て、第1章「1 調査概要」で提示した3つの課題のうち「職業学科を担当する教員の確保の困難」の現状と内実について検討します。

本節では、特に以下の点に着目して、集計結果を整理しました。

- ▶ 大学生が職業選択の際に重視することは何か
- ▶ 大学生の教職へのモチベーションに影響を与えているのは何か
- ▶ 教職課程を履修する大学生が利用する、職業選択に関する情報源は何か

以下では、これらの点について、大学生・大学院生を対象にした調査の結果に焦点を当て、教職希望の度合い、つまり「教職に就くことを考えているかどうか」の観点から検討していきます。分析に用いる質問項目は、以下のとおりです。

表4 分析に用いる項目（3）

分析事項	基準となる項目	分析項目
「専門学科 ×大学」の 関係性	出身学科 「教職希望の度 合い」（設問3）	「職業選択の際に重視する事項」（設問1） 「就職活動全般に関する情報源」（設問2） 「教員免許を取得しようと思う理由」（設問4） 「職業学科に対するイメージ」（設問5） 「職業学科の教員の魅力」（設問6） 「職業学科の教員として働くことへの不安」（設問7） 「職業学科に関する情報のリソース」（設問8）

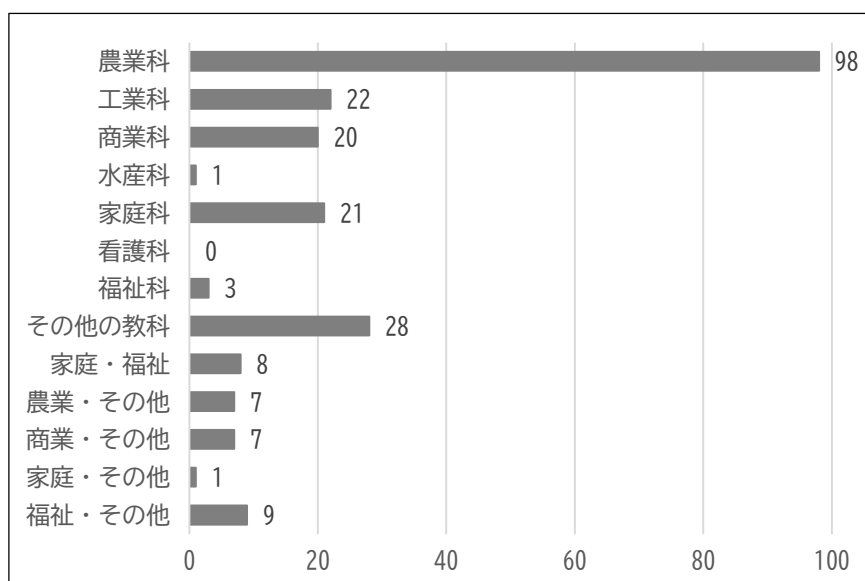


図24 取得予定の教員免許（人数）

表5 出身学科 % (人数)

普通科	40.9 (92)	40.9 (92)
農業科	32.0 (72)	54.2 (122)
工業科	7.6 (17)	
商業科	8.4 (19)	
水産科	0.0 (0)	
家庭科	0.0 (0)	
看護科	5.3 (12)	
福祉科	0.9 (2)	
総合学科	4.4 (10)	4.8
高専	0.4 (1)	(11)

まず確認しておく必要があるのは、調査対象の偏りです。図24に示したとおり、対象者の43.6%（98名）が農業科の免許取得予定者、農業とその他の教科の組合せを含めると46.7%（105名）と約半数を占めています。

また、表5は本調査対象者の出身学科を示したのですが、41%が普通科出身、32%が農業科出身であり、この両方で全体の73%となります。

そのため、出身学科ごとや取得予定免許ごとの分析は避ける必要があります。以下では、まず、職業に関する学科の出身者を「職業学科出身」、総合学科と高専出身者を「総合学科・高専出身」とし、「普通科出身」を含めた出身学科別に比較します。

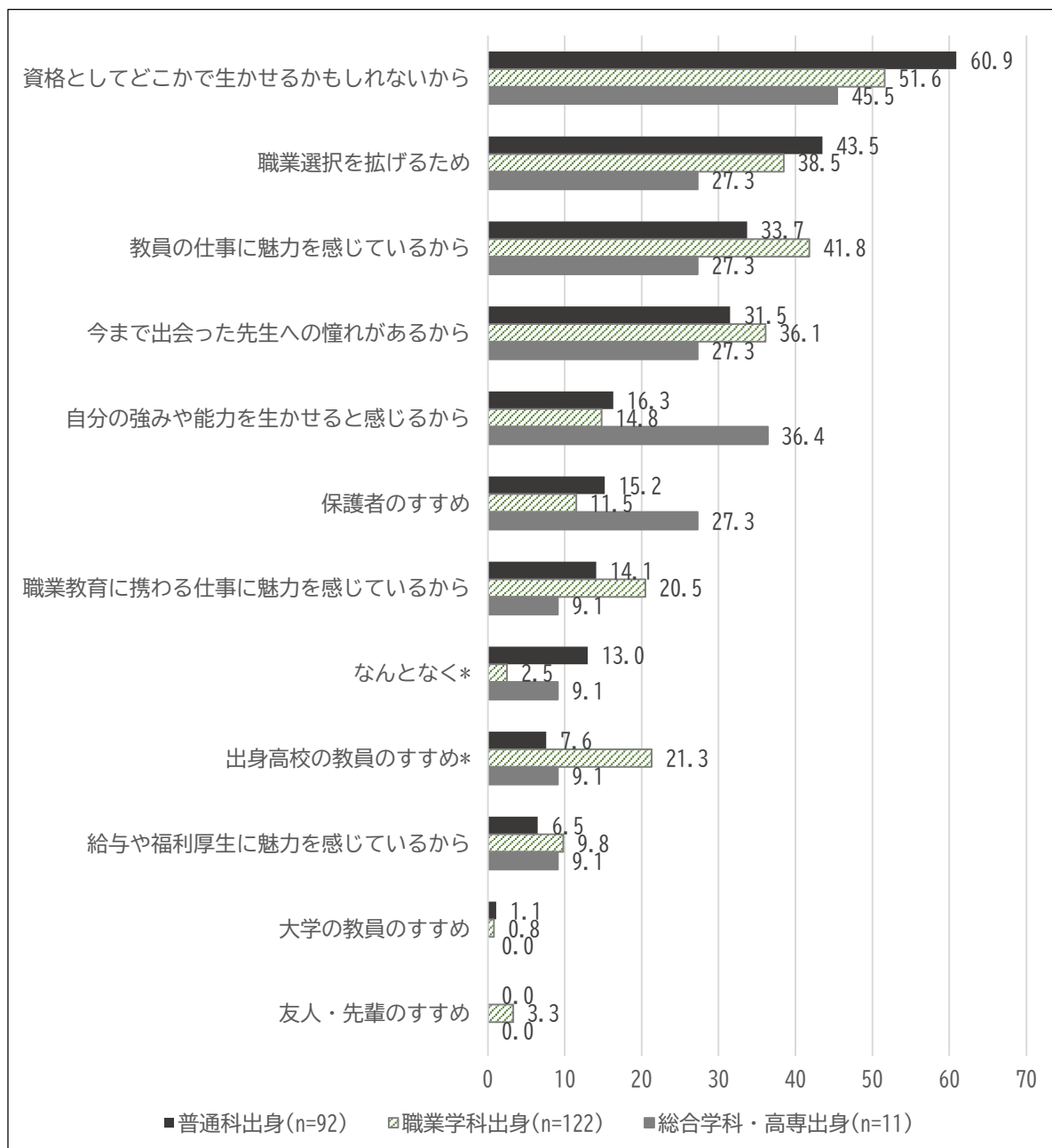


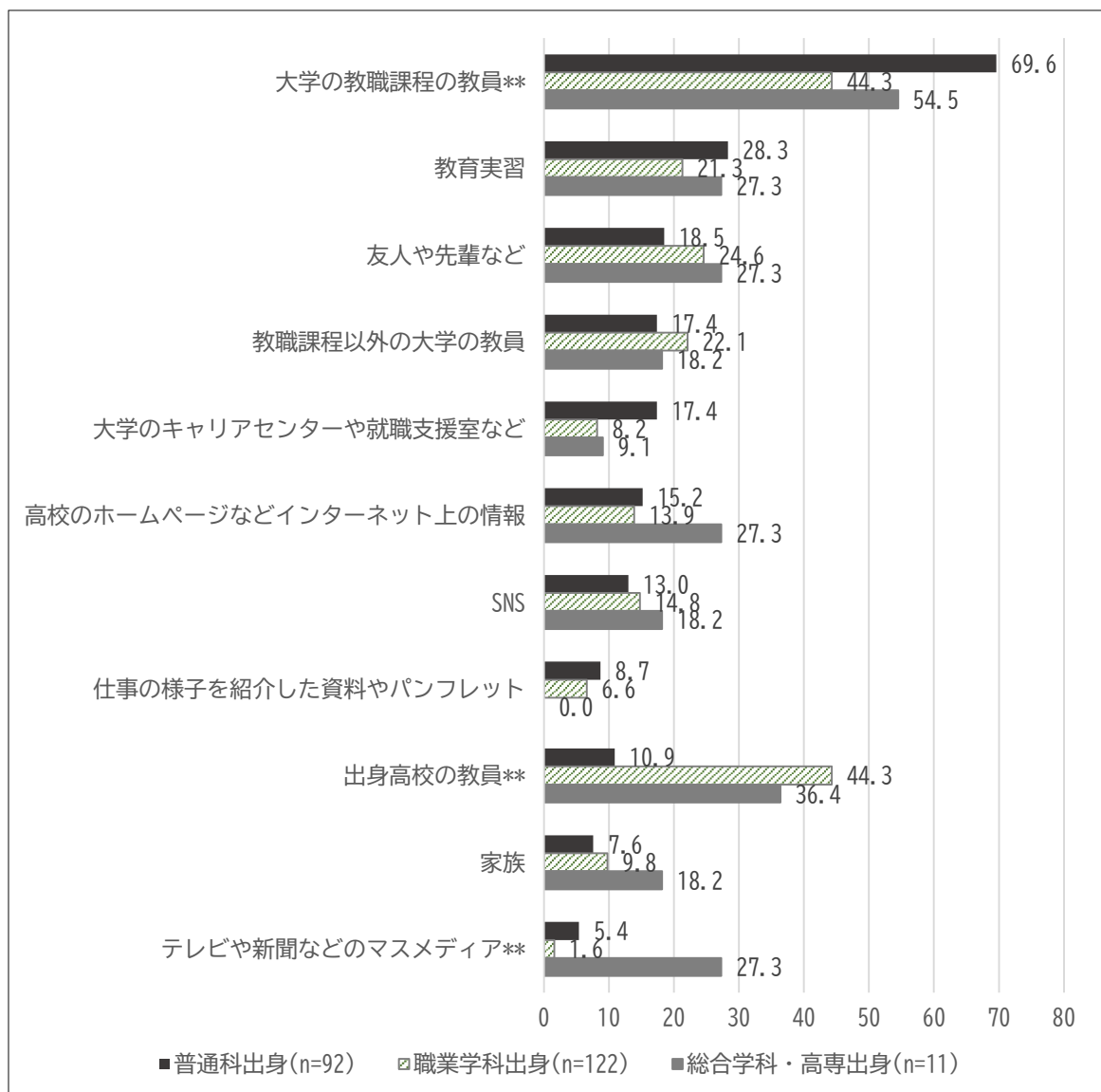
図 25 出身学科別の教員免許を取得する理由 (%)

* $p < .05$

図25は、教員免許を取得しようと思った理由について、出身学科別に整理したものです。「3つまで回答可」で、「資格としてどこかで生かせるかもしれないから」、「職業選択を拡げるため」、「教員の仕事に魅力を感じ、教員を目指しているから」が上位3項目となっています。

2つの項目で有意差が見られ、「なんとなく」の割合が職業学科出身者で有意に低く（2.5%）、逆に「出身高校の教員のすすめ」において有意に高くなっていることが読み取れます（21.3%）。

図26は、職業学科に関する情報源を出身学科別に示したものです。「複数回答可」で、11項目中3項目において有意な差が見られました。「大学の教職課程の教員」を主な情報源としている割合は普通科出身者において有意に高く、「出身高校の教員」を情報源として挙げている割合は職業学科出身者で有意に高くなっています。これは、普通科出身者の情報源が大学入学後にあるのに対し、職業学科出身者は大学入学後だけでなく、大学入学前、すなわち出身高校とのつながりが情報源になっていることを示しています。



** p<.01

図 26 職業学科に関する情報源（％）

図27は、就職活動全般において重視している情報源を出身学科別に整理したも

のです。「複数回答可」ですが、5割前後の学生が「大学の教職課程の教員」を主な情報源にしていることが分かります。

11項目中2項目において有意な差が、また、2項目において10%水準の傾向差（有意な差とまではいえないが、ある程度の差が見られること）が見られます。

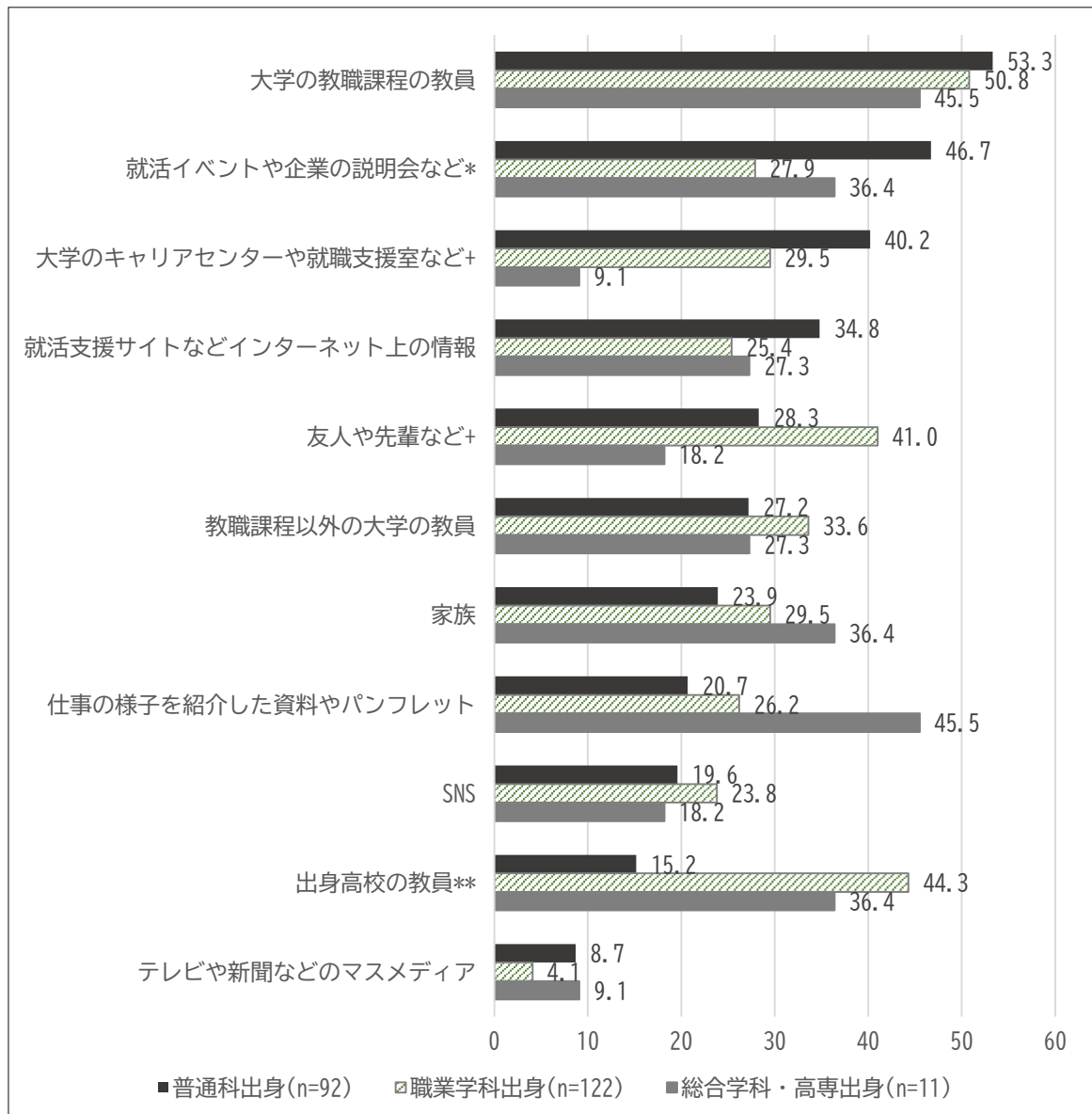
図27を見ると、

- ▶ 「就活イベントや企業の説明会など」と「大学のキャリアセンターや就職支援室など」（10%水準）では普通科出身者の割合が、
- ▶ 「出身高校の教員」と「友人や先輩など」（10%水準）では職業学科出身者の割合が、

それぞれ有意に高くなっています。

先の図25と図26において、職業学科出身者の教員免許取得理由、職業学科の情報源として出身高校の教員とのつながりが関わっていることが示唆されました。図27の結果は、これと同様の傾向が、職業学科出身者の就職活動全般においても見られることを示しているといえます。

それと同時に、職業学科未経験の普通科出身者が主な情報源としている就活イベントや大学のキャリアセンター、就職支援室などに、教職に関するどのような情報をどれだけ提供できるかについては、検討の余地があると考えられます。



** p<.01 * p<.05 + p<.10

図 27 就職活動全般における情報源（％）

次に、出身学科と学年によって、教職に就くことへの希望度合いに違いが見られるのかについてです。

図 28 は出身学科別の教職希望の度合いを、図 29 は学年別の教職希望の度合いを、それぞれ比較したものです。なお、学年については修士課程 1 年及び修士課程 2 年の度数が各 1 名ときわめて少なかったため、分析から除外しています。

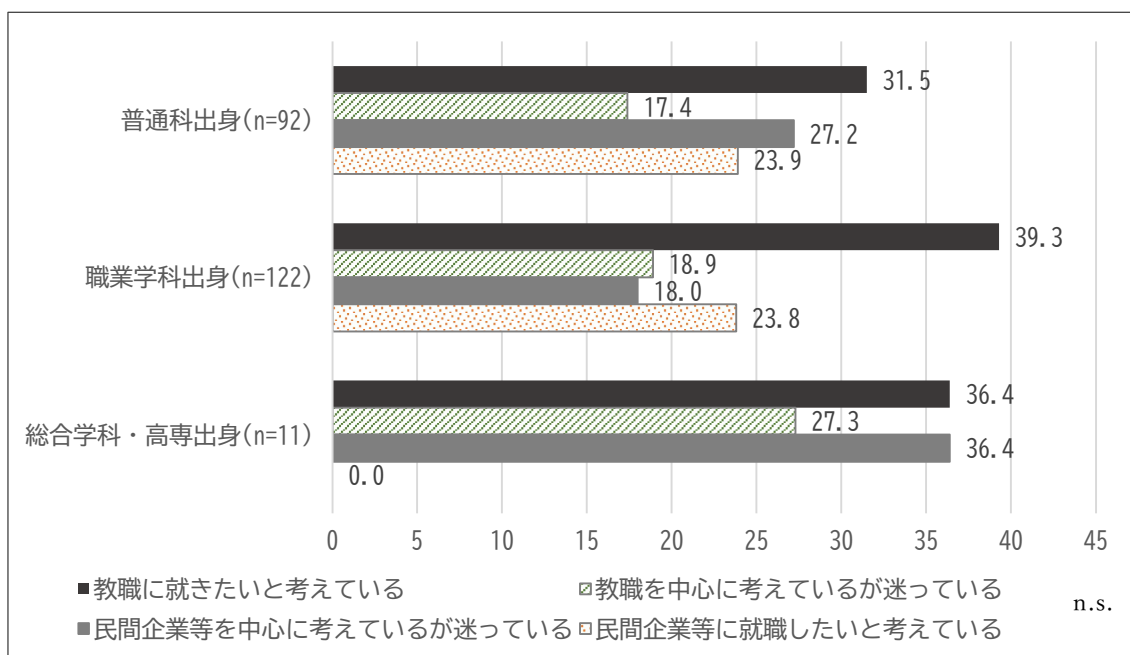


図 28 出身学科別の教職希望の度合い (%)

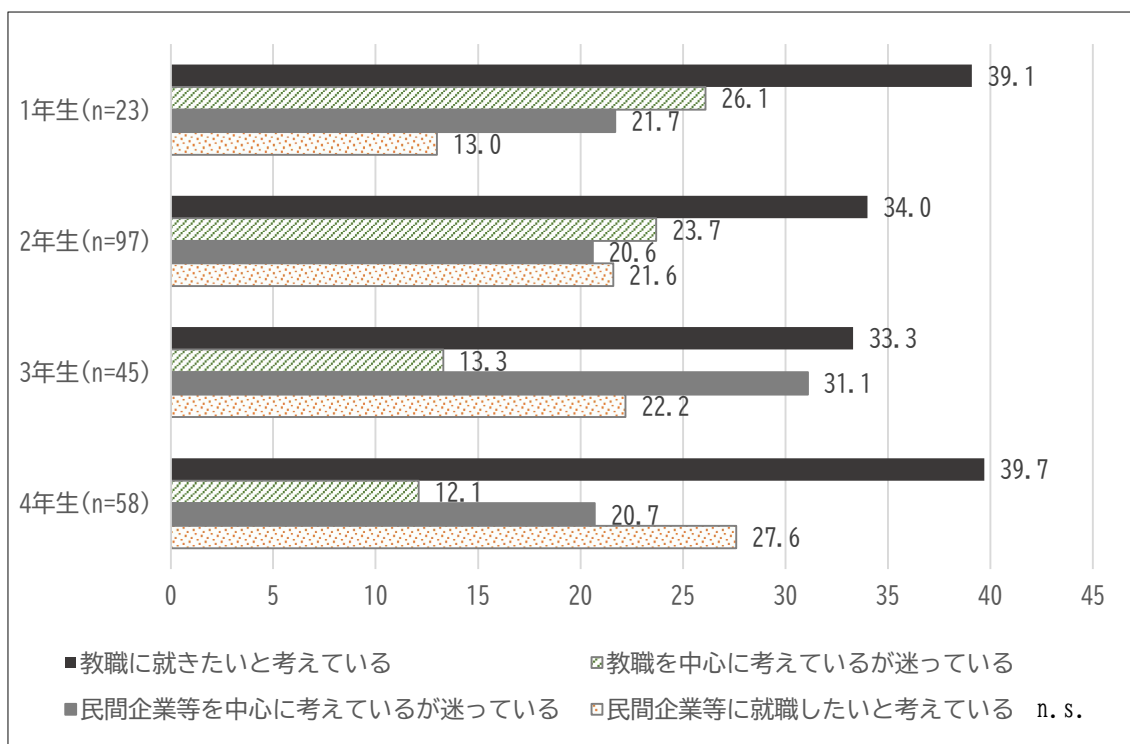


図 29 学年別の教職希望の度合い (%)

まず、図28を見ると、普通科出身者、職業学科出身者のいずれにおいても35%前後の学生が「教職に就きたい」と考えている一方、24%弱の学生が「民間企業等に就職したい」と考えており、有意な差は見られません。

図29を見ると、各学年いずれにおいても35%前後の学生が「教職を考えている」と回答しています。母数の少ない1年生で「民間企業等に就職したいと考えている」の割合が若干低くなっていますが、学年間で有意な差は見られません。

本調査は、教職課程を選択している学生、すなわち教員免許取得に対するモチベーションを持っている学生のみを対象としたものであるため、学年間で差が見られないのは当然の結果であると考えられます。

ここで留意する点として、出身学科や学年に関わらず、教職と民間企業等との間で職業選択を「迷っている」という学生が一定数存在することです。表6からも分かるとおり、教職課程を履修している学生の4割以上が「迷っている」と回答しています。

教職希望者の裾野を広げるという観点からすると、この「迷っている」という層が教職をどのように捉え、何を情報源としているのか確認する必要があります。

以下の分析では、「教職課程の希望度合い」を軸にして、教職を希望する学生としない学生がそれぞれ何を見ているのか、検討していきます。

表6 教職をどの程度希望しているか（全体）

	教職に就きたいと考えている	教職を中心に考えているが迷っている	民間企業等を中心に考えているが迷っている	民間企業等に就職したいと考えている
度数（人数）	81	42	51	51
割合（%）	36.0	18.7	22.7	22.7

図30は、職業選択全般において重視する事項について、教職の希望度合い別に整理したものです。「3つまで回答可」で、全体として「意義ややりがいを感じることができる」と「収入が安定している」に対する回答が5割前後と相対的に高くなっています。

- 11項目中4項目に有意差が、1つの項目に10%水準の傾向差が見られ、
- ▶ 「自分の能力やスキルを生かすことができる」と「自分が成長できる」において、「教職に就きたいと考えている」学生の割合が有意に高い一方、
 - ▶ 「ワークライフバランスがとれる」と「転勤がない、または少ない」において、「民間企業等に就職を考えている」及び「民間企業等を中心に考えている」学生の割合が高くなっています。
 - ▶ また、10%水準ですが、「意義ややりがいを感じることができる」において、民間企業等への就職希望者の割合が低くなっています。

「迷っている」学生に着目すると、特に「ワークライフバランスが取れるかどうか」という点で、教職希望の学生と異なる傾向を示していることが分かります。

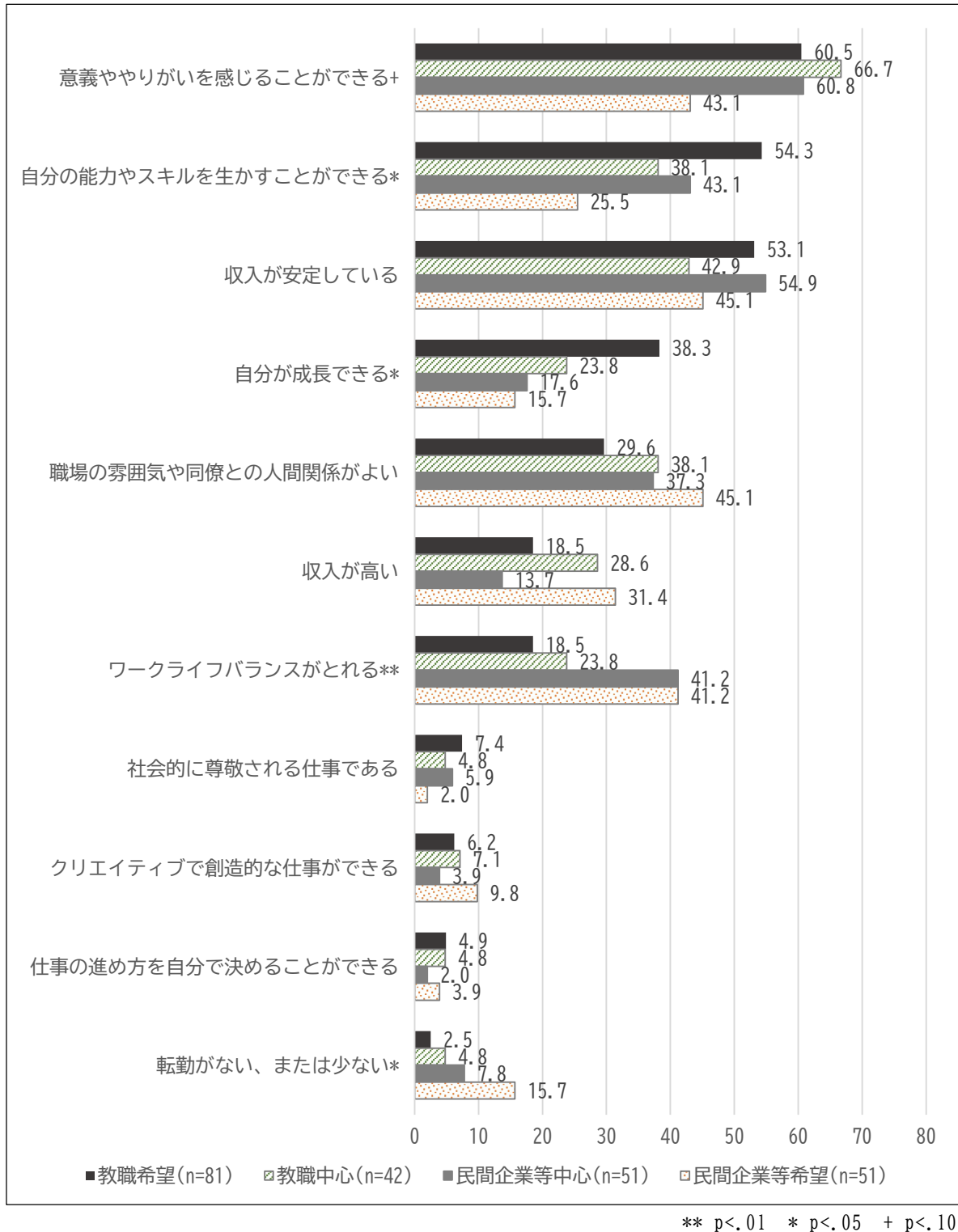


図 30 職業選択において重視する事項（％）

図31は、就職活動全般において重視している情報源について、教職の希望度合い別に示したものです。「複数回答可」で、11項目中4項目に有意な差が見られます。つまり、「大学の教職課程の教員」と「出身高校の教員」については、「教職希望」と「教職中心」の割合がいずれも有意に高い一方、「就活イベントや企業の説明会など」と「大学のキャリアセンターや就職支援室など」については、「民間企業等希望」と「民間企業等中心」の割合がいずれも有意に高くなっています。

この結果から、「教職希望」・「教職中心」と、「民間企業等希望」・「民間企業等中心」との間で、就職活動の際に重視する情報源に明確な違いがあることを確認することができます。

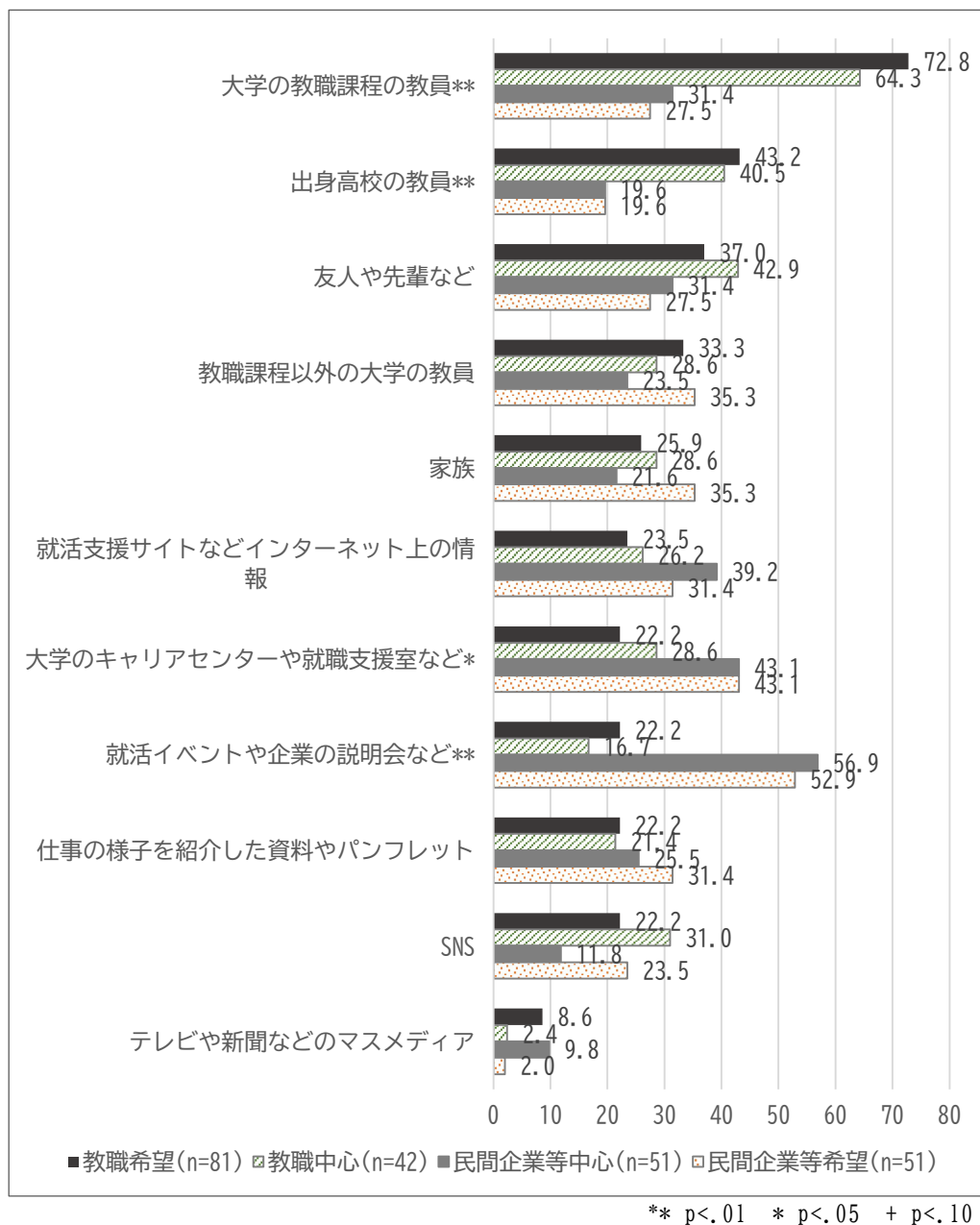
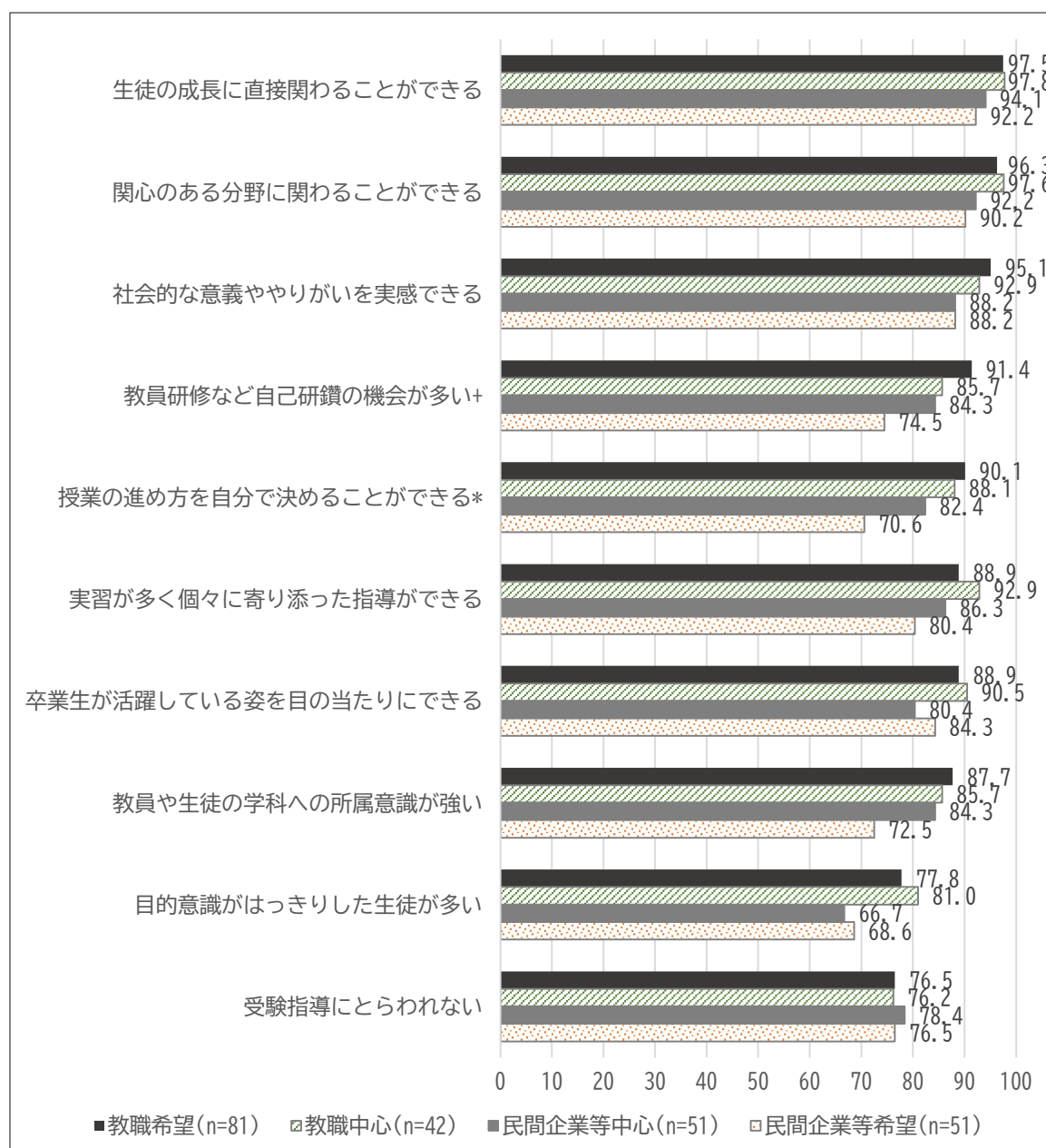


図 31 教職希望の度合い別の就職活動全般に関する情報源（％）

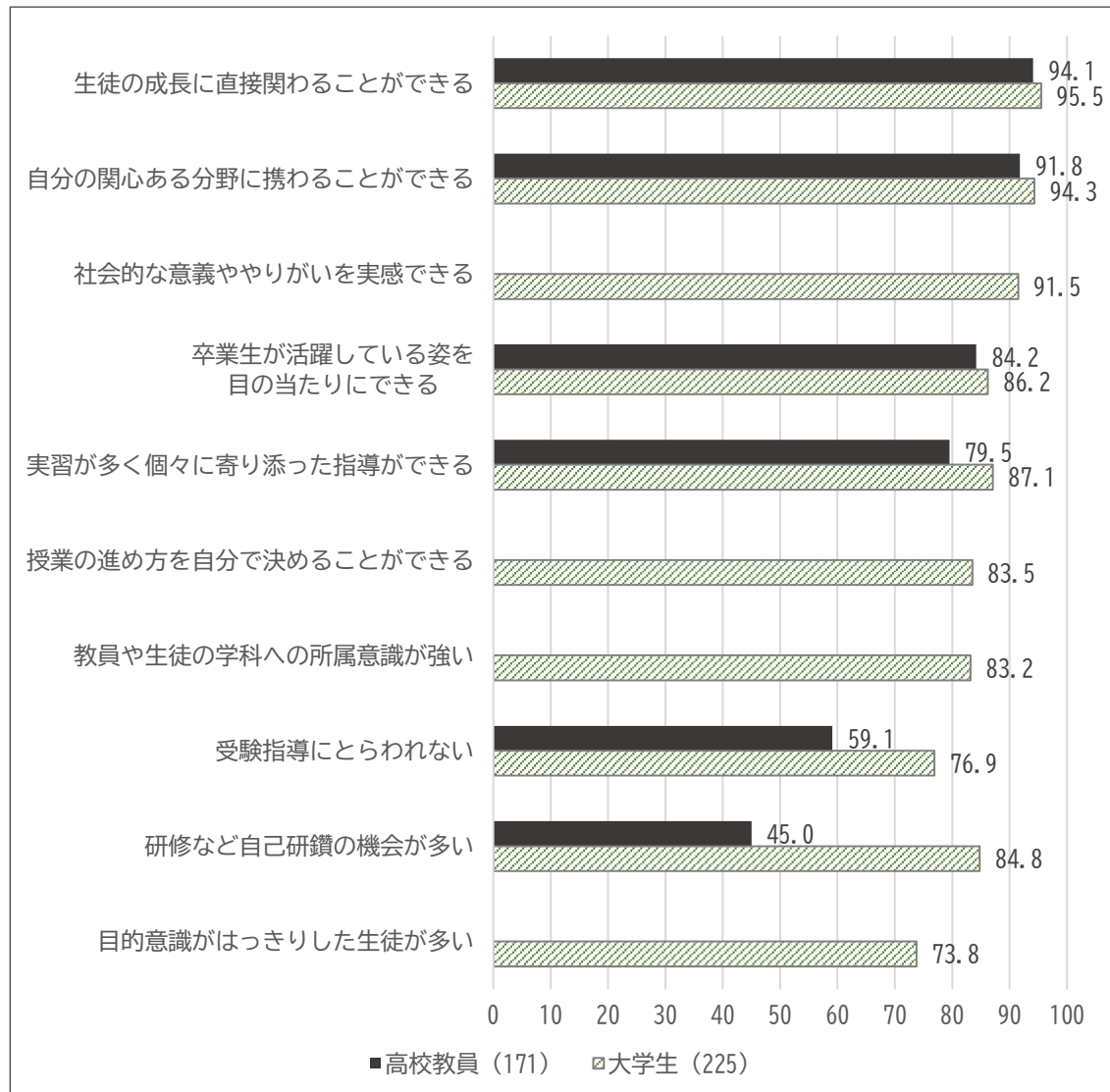
図32は、「職業学科の教員として働くことの魅力」について、教職希望の度合い別に示したものです。全ての項目について「とても思う」から「全く思わない」の4件法で尋ねていますが、10項目中1つの項目で有意差を、1つの項目で10%水準の傾向差を見いだすことができました。つまり、「授業の進め方を自分で決めることができる」において、「民間企業等中心」の学生の割合が相対的に低くなっています（70.6%）が、いずれの項目においても65%以上の学生が肯定的な回答を示しており、各グループ間に顕著な違いを見いだすことは困難です。



(注)「とても当てはまる」「まあ当てはまる」に回答したものの合計 * $p < .05$ + $p < .10$

図 32 職業学科の教員の魅力 (%)

この点に関連して、「職業学科の教員の魅力」について、教職課程の大学生と職業学科の現職教員との間における認識の違いに着目します。図33は、職業学科で教員として働くことの魅力について、職業学科の現職教員と大学生・大学院生に尋ねた結果です。



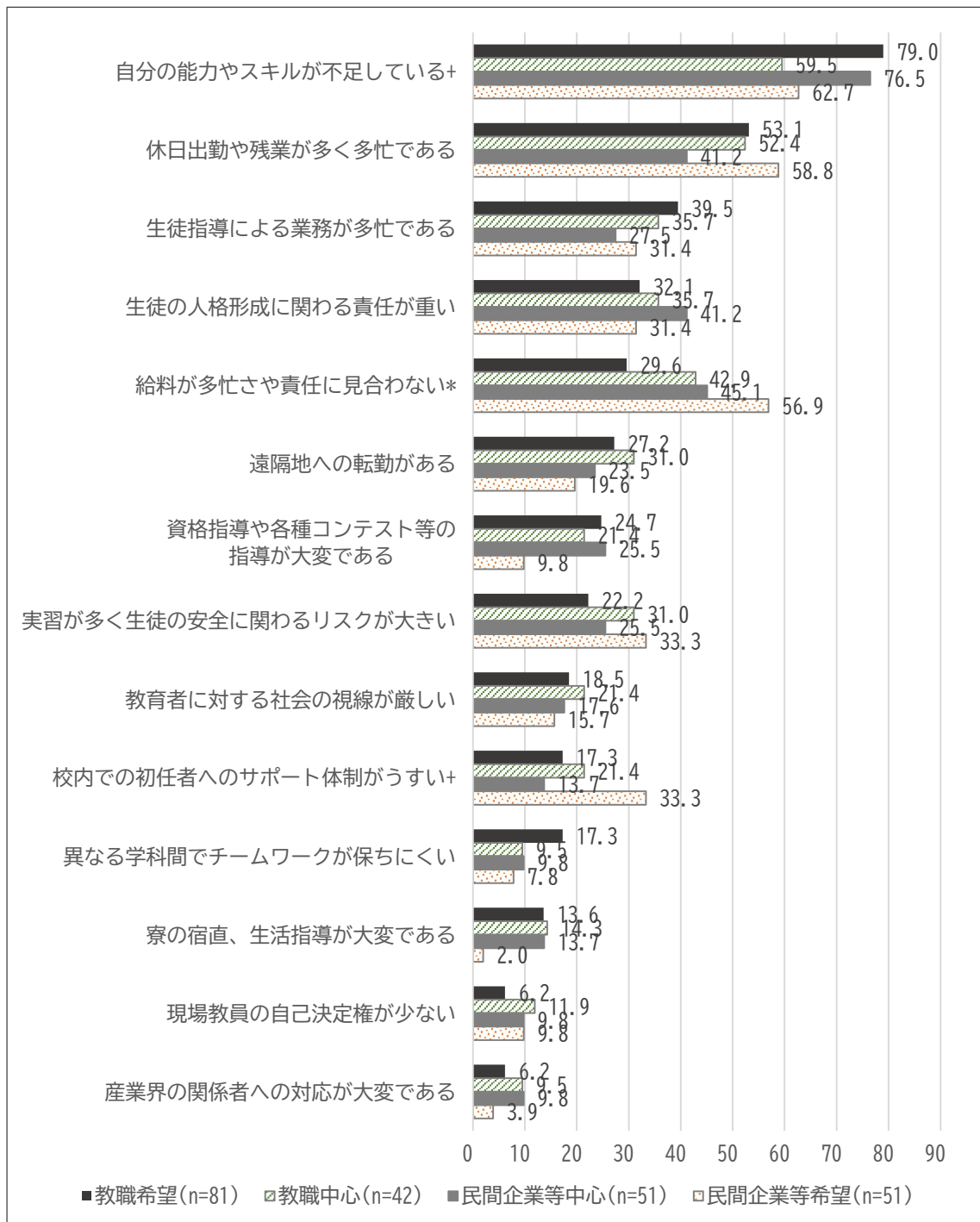
(注)「とても思う」「まあ思う」に回答したものの合計

図 33 職業学科の教員の「魅力」(%)

全ての項目について「とても思う」から「全く思わない」の4件法で尋ねていますが、

- ▶ 「生徒の成長に直接関わることができる」、「卒業生の活躍している姿を目の当たりにできる」といった人間形成的側面
- ▶ 「自分の関心ある分野に携わることができる」といった専門職的な側面において肯定的な回答が高くなっている点で、大きな差異は見られません。

一方で、「研修など自己研鑽の機会が多い」、「受験指導にとらわれない」において、現職教員の肯定的な回答の割合が大学生と比べて低くなっていることが分かります。特に、調査対象の現職教員の半数以上が、研修機会の確保について課題を感じている点には留意する必要があります。



* p<.05 + p<.10

図 34 職業学科の教員として働く上での不安（％）

図34は、職業学科の教員として働く上で不安に思うことについて、大学生の教職希望の度合い別に示したものです。「5つまで回答可」ですが、

- ▶ 「自分の能力やスキルが不足している」
- ▶ 「休日出勤や残業が多く多忙である」
- ▶ 「生徒指導による業務が多忙である」
- ▶ 「生徒の人格形成に関わる責任が重い」
- ▶ 「給料が多忙さや責任に見合わない」

が上位5項目であり、「多忙」に言及した項目が多く含まれています。

14項目中1つの項目で有意差が見られ、「給料が多忙さに見合わない」において「民間企業等希望」の割合が有意に高く、「教職希望」の割合が有意に低くなっています。

また、2つの項目で10%水準の傾向差があり、

- ▶ 「自分の能力やスキルが不足している」において、「教職希望」と「民間企業等中心」の割合が高く、
- ▶ 「校内での初任者へのサポート体制がうすい」において、「民間企業等希望」の割合が相対的に高くなる

という傾向が見られました。

自身のスキル不足に対する不安と、初任者に対するサポート体制への不安は、相互に関連していることが考えられます。多忙さとのバランスに配慮しつつ、研修機会の確保等のサポート体制を構築することが求められます。

それでは、「職業学科の教員として働く上での不安／課題」について、教職課程の大学生と職業学科の現職教員との間における認識の違いに着目します。図35は、職業学科で働く上で課題に思うこと（職業学科の現職教員）、不安に思うこと（大学・大学院生）を整理したものです。

両者とも「給料が多忙さや責任に見合わない」、「休日出勤や残業が多く多忙である」といった待遇面に課題や不安を感じている割合が高くなっています。

先の図34において、大学生が最も不安に感じている事項となっていた「自分のスキルが不足している」については、大学生の7割強に対して、現職教員では5割弱となっています。不安意識を持つ大学生の割合の高さが顕著である一方、現職教員においても半数以上の調査対象者が自身のスキルについて課題意識を抱えていることが分かります。

また、「生徒の人格形成に関わる責任が重い」について不安を感じる大学生の割合が高くなっている点は、現職教員と比較した大学生の特徴です。

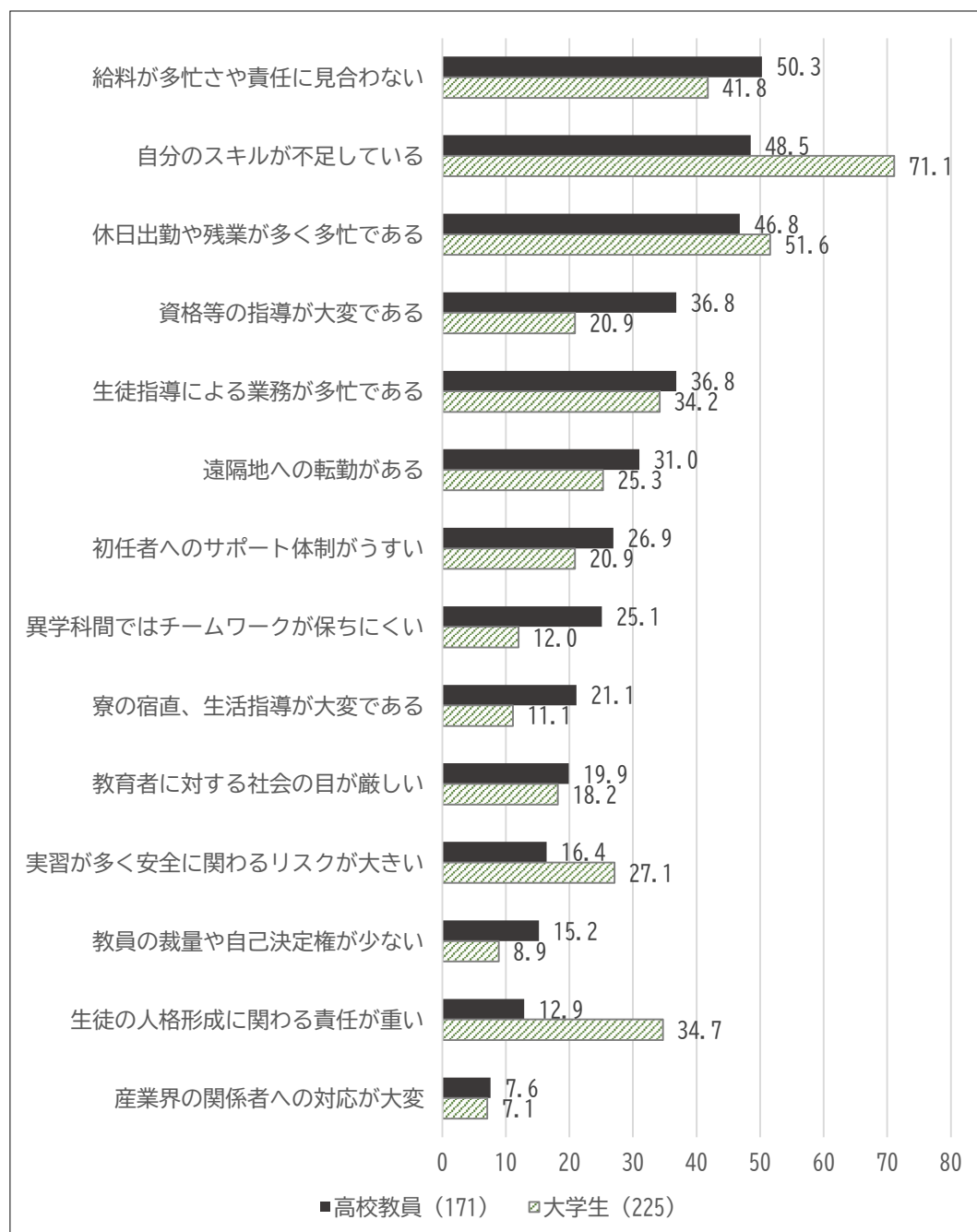
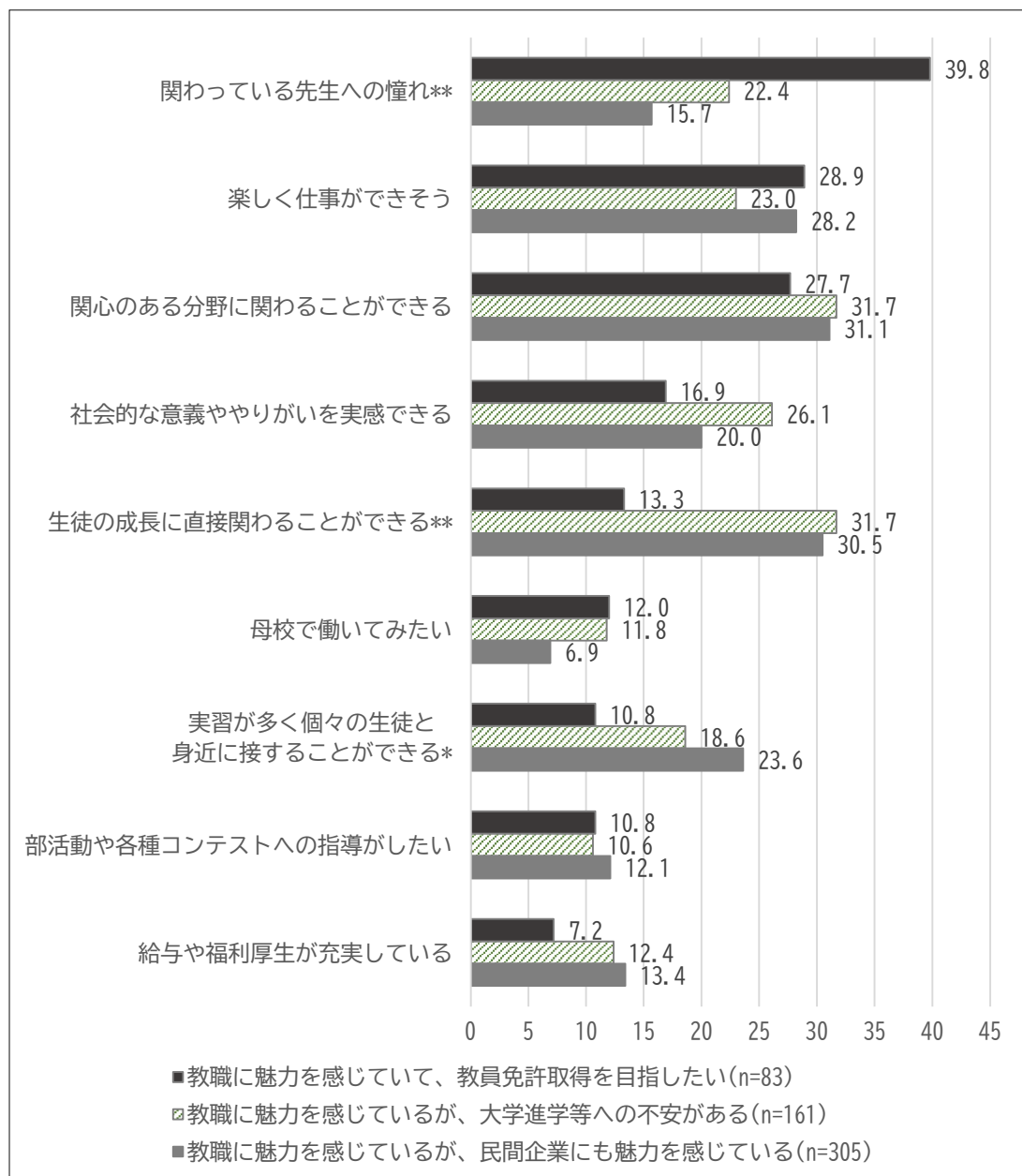


図 35 職業学科で働く上での課題／不安（％）

教員養成と関連して、本調査では、「専門高校が専門高校の教員を輩出してきた」という観点から、職業学科に在籍する高校生にも「職業学科の教員の魅力」について尋ねました。表 7 は「職業学科の教員の仕事に魅力を感じているか」についての回答結果ですが、約半数の在校生が何らかの形で「魅力を感じている」と答えています。

表7 職業学科の教員の仕事に魅力を感じているか（職業学科在校生）

	魅力を感じており、教員免許の取得を目指したい	魅力は感じるが、大学進学等への不安がある	魅力は感じるが、民間企業にも魅力を感じている	魅力は感じない
度数（人数）	83	161	305	594
割合（％）	7.3	14.1	26.7	52.0



** p<.01 * p<.05

図 36 職業学科の教員の魅力（職業学科在校生、％）

図36は、「教職に魅力を感じている」と回答した在校生に、職業学科の教員の魅力について尋ねた結果です。「3つまで回答可」の質問ですが、ここでは具体的に教員免許の取得を目指している度合い別に比較を行いました。9項目中3項目で有意差が見られ、

- ▶ 「関わっている先生への憧れ」においては、「教員免許取得を目指したい」という生徒の割合が有意に高い一方、
- ▶ 「生徒の成長に直接関わることができる」と「実習等が多く個々の生徒と身近に接することができる」において、「大学進学等への不安がある」、「民間企業にも魅力を感じている」という生徒の割合が高くなっています。

先の図25と図26、図27において、職業学科出身の大学生の教員免許取得理由、職業学科の情報源、さらには就職活動全般に関する情報源として、出身高校の教員とのつながりが関わっていることが示唆されました。結果の解釈については慎重でなければなりませんが、図36からはこれと同様の傾向を読み取ることができます。

第3章 今後の取組の在り方

1 専門高校の魅力発信に関する取組

中学生の進路選択における意識として、約40%の中学生が、専門高校を選択肢に入れていることが分かりました。さらに、普通科を希望している中学生であっても、そのうち約35%が進学先として専門高校に一定の関心を示していることも分かりました。

また、中学生の進路活動における相談相手は、中学校教員が約64%、保護者が約77%となっていることから、専門高校に関する情報を提供する対象として、中学校教員と保護者は重要であることが分かりました。

このことから、中学生と保護者が専門高校を知る機会の提供に加え、学校祭の一般公開や、地域住民や小中学生を対象とした学校開放講座を積極的に行うなど、専門高校に足を運び実感してもらう機会を創出することが大切です。

(1) 発信内容

これまでも専門高校では、企業や大学等と緊密に連携し、最先端の技術に触れるなど、実践的な学習活動に取り組んできており、科目「課題研究^{*6}」等では、探究学習^{*7}やPBL（プロジェクトベースドラーニング）^{*8}の先駆けとなるような、専門性の高い調査研究等を長年にわたり実践してきました。

例えば、「課題研究」においては、学科の特性に応じて、高度な研究や地域課題の解決などをテーマに探究的な学びに取り組むなど、専門高校は、地域産業の振興やまちづくりを担う人材育成の役割を担っています。特に、近年では、分野横断的、教科等横断的なテーマ^{*9}を設定して研究に取り組んでいる学校もあるなど、生徒は実践的な課題解決につながる資質・能力を身に付けることができます。

また、「課題研究」では、他の生徒や産業界の方々と意思疎通して協力する機会も多く、コミュニケーション能力や他者を理解し協働する力が育まれます。加えて、専門性が高まると同時に、多様な価値観と幅広い知識に触

*6 平成元年3月告示の学習指導要領において新設された。農業科、工業科、商業科、水産科、家庭科では、原則履修科目として位置付けられており、生徒が各教科の見方・考え方を働かせ、調査や研究、作品製作などの実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、社会を支え産業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成している。

*7 生徒が自ら課題を設定し、情報を収集・整理・分析し、まとめ・表現する一連の活動を通して、自らの生き方を考えていく学習のこと。

*8 「Project Based Learning」の略称で、課題解決型学習や問題解決型学習のこと。生徒が自ら課題を見付け、解決に向けて主体的に取り組むことで、問題解決能力や探究心などを育成することを目的とした教育方法。

*9 例えば、農業科と工業科の生徒が協働したスマート農業に関する研究、農業科と水産科の生徒が協働した廃棄予定の貝殻を利用した有機石灰肥料に関する学習など。

れることができます。こうした学びを通じて、生徒が獲得できる課題解決能力や非認知能力は、自身の学科に関連する産業はもとより、多様な分野で生かすことのできる汎用性を有しており、これが専門高校における学びの裾野を広げ、結果として進路の選択肢や将来の可能性を広げることにつながります。

例えば、水産高校では水産関連分野として、漁業関係だけでなく、食品製造、電気通信、海洋土木、海洋スポーツなど幅広い進路が開かれています。また、進学を含め水産関連分野以外の進路を選択する生徒も多くいます。

つまり、専門高校には、生徒の可能性を大きく広げる学びの幅があり、多様な進路への選択肢が開かれています。各学校と道教委は、専門高校が持つこうした「学びの広がり」と進路の可能性を強調しながら、魅力を発信することが必要です。

さらに、中学生とその保護者が、専門高校における学びと将来の働く姿がつながり、高校卒業後の姿をイメージできるような工夫が必要であり、専門高校と小中学校との連携や交流をより一層充実させる必要があります。

例えば、中学生やその保護者が、産業構造の変化に加え、専門高校での学びと将来のキャリアとのつながりをイメージできるように、「スマート化」や「テクノロジー」などといったキーワードを効果的に活用することや、AIやVRなどの先端技術に触れる機会が多いこと、地域の未来を創るまちづくりに関する学習に取り組める点などを発信することが有効と考えられます。

専門高校の学習の軸となる実習や「課題研究」においては、班を編制して展開するなど、少人数教育が実行されており、教員が一人一人の生徒に寄り添った指導を行うことができます。また、専門高校の学びは、商品開発、ものづくり、成果発表、資格取得など、生徒自身が目標を明確化しやすい教育活動が多く、学びのモチベーションを高く保つことができます。とりわけ定時制においては、一学級当たりの生徒数が少ない傾向にあることから、教員が生徒に寄り添ったきめ細やかな指導や関わりが可能となっています。

また、専門高校の卒業生の多くが、よい先生や友人がいたことを魅力として挙げており、大学等に進学した卒業生の多くが、進路選択などの場面で出身高校の教員に相談するなど、卒業後も母校とのつながりが深いことが分かりました。

こうしたことから、専門高校は、教員それぞれの専門分野における経験や指導力が強みといえます。専門高校は、こうした一人一人に寄り添った指導について、広く発信することが有効です。

(2) 発信方法

これまでも専門高校では、学校の取組等を紹介した資料やパンフレット

を充実させ、積極的に中学生やその保護者に魅力を発信してきました。こうした中、多くの中学生は「自分の興味や関心に合ったことが学べるのか」について知りたがっています。このことを踏まえて、専門高校の魅力をより一層発信していくためには、学校における日々の実習の様子など、最新の情報をタイムリーに地域や中学校に発信することが重要です。

その際、発信情報がAIの学習リソースとなる可能性も考慮し、各学校のwebサイトが確かな情報源となるよう、更新や内容をより充実させていくことが大切です。また、中学生のSNS活用の実態等に応じて、noteやInstagramなどで、生徒の日常的な活躍を広く発信することや、生徒自身が学校生活について発信することなどが考えられます。

こうしたwebサイトやSNSを適切に運用し、活性化させるためには、情報リテラシーや、セキュリティに関する知識などが必要となります。そのため、道教委は、各学校の情報発信を促すため、例えば専門高校の魅力を発信する広報活動のサポート人材を配置したり、情報発信に関する講習を開催したりするなどの工夫が考えられます。

また、道教委は、専門高校と中学校が接する機会として、令和7年度に実施した「専門高校魅力発見ミーティング^{*10}」などの機会を継続的に設けるなど、専門高校が持つ価値や魅力を中学生やその保護者に広く発信し続けることが必要です。

(3) 魅力を実感できる工夫

中学生の多くが、高校について情報を得る際に参考としているのは、高校が開催する体験入学や見学会であることが分かりました。そのため、専門高校は、中学校やその保護者が、専門高校の生徒と触れ合い、専門高校の魅力を実感できるよう工夫することが重要です。

例えば、中学校やその保護者が生徒と触れ合い、専門高校の魅力を実感できるよう、学校祭や地域におけるイベントなどの機会を効果的に活用することが考えられます。

また、先端技術に触れることができるなどの学びの魅力に加え、学科ごとの特色ある実習等を見える化することが大切です。

例えば、中学生に普段の実習の様子を見学してもらい、高校生と直接触れ合う機会を設けることや、体験入学の実習体験等において、高校生が講師を務めて積極的に中学生と関わることなどが考えられます。

^{*10} 中学生保護者や中学校教員を対象に、オンラインで専門高校の価値や魅力を発信した道教委の取組。7つの学科ごとに、専門高校の在校生と卒業生それぞれ一名が、産学連携コーディネーターとともにトークセッションを実施した。

2 専門高校の教員確保に関する取組

教職課程を履修している学生の約55%が、教員免許を将来生かせる資格の一つとして捉えていることが分かりました。また、教職課程を履修している学生の約42%が、就職先として、民間企業と教職とで迷っていると回答しています。

学生にとって、教職は数ある職業選択の一つであることから、道教委は、**職業に関する教科**の教職課程を有する大学と連携し、専門高校の教員の魅力発信や確保に向けた持続可能な事業を興すなどの取組が重要です。

(1) 教職の魅力の発信

教職課程を履修している多くの学生が、専門高校における教職の魅力として、「生徒の成長に直接関わることができる」や「関心のある分野に関わることができる」、「社会的な意義ややりがいを実感できる」と考えていることが分かりました。

このうち、教職に就きたいと考えている学生は、「自分の能力やスキルを生かすことができる」と「自分が成長できる」ことを職業選択において重視していることが分かりました。

また、教職に就きたいと考えている学生と、民間企業に就職したいと考えている学生を比べると、教職志望の学生の方が、教職に「意義ややりがいを感じる」と考えている割合が高い結果となりました。

こうしたことから、教職課程を履修している学生には、専門高校の教職の魅力ややりがいが、ある程度は伝わっていることが分かりました。

一方で、専門高校の教員に特化した広報などは十分とは言えない現状があります。そのため、道教委は、民間企業等から専門高校の教員にキャリアチェンジした事例を紹介している文部科学省の取組^{*11}を参考にするなどして、専門高校の教員の魅力をより一層発信していくことが必要です。

その際、専門高校の教員には、大学や企業等で身に付けてきた知識や技術を生かせる機会が日常的にあることなど、専門高校ならではの魅力を発信することが有効です。

(2) 教職の魅力発信の方法

教職課程を履修している学生のうち、民間企業を就職の選択肢に考えている学生ほど、就職活動に関する情報を、就活イベントや企業説明会、大学のキャリアセンターなどから得ていることが分かりました。

そのため、道教委は、**職業に関する教科**の教職課程を有する大学と連携し、民間企業における採用活動のスケジュールに合わせて、就活イベントや公務員説明会、大学のキャリアセンター等を通じた情報発信などに取り組むこと

^{*11} 文部科学省では、専門的な知識や経験を持った社会人を対象に、専門高校の教員の魅力を発信する web サイトを開設した。銀行員や看護師から転職した専門高校教員のインタビュー動画などを掲載している。(https://www.mext.go.jp/vocational_education/)

が有効です。加えて、教員採用試験の実施時期の見直しなど、根本的な採用スケジュールの検討が求められます。

また、学生の多くは、専門高校に関する情報を大学教員や出身高校の教員から得ていることが分かりました。このうち普通科等出身の学生は、専門高校の教員から情報を得る機会が少ないと考えられます。

このことから、普通科等出身の学生にも専門高校の教員の魅力を理解してもらうため、専門高校は、大学のキャリアセンターと連携し、大学1、2年生での教員インターンシップや高校教員による出前講義などに取り組むことが有効と考えられます。

そのため、道教委は、専門高校及び教職課程を有する大学と連携を密にし、情報交換に努めることが重要です。

(3) 教職の魅力向上につながる取組

多くの学生が、教員として働く上での不安として、「自分の能力やスキルが不足している」と考えていることが分かりました。このうち、民間企業に就職したいと考えている学生は、教職に就きたいと考えている学生よりも、校内での初任者へのサポート体制に不安を感じている傾向がありました。

このことから、学生には、初任者へのサポート体制や教員研修の充実についてアピールしていくことが大切です。例えば、実習等の指導においては、経験豊富な教員が、初任段階の教員とともに指導に当たっていることなどを、積極的に発信していくことが有効です。

また、専門高校の教員には、学科の特徴に応じて、実習における安全管理や安全指導の徹底などの高い専門性や指導力が求められており、多くの教員が働く上での課題として、「自分の能力やスキルが不足している」や、研修の時間や旅費を確保しづらいと考えていることも分かりました。

このため、専門高校の教員は、これまで以上に産業界等と連携し、最先端の知識やスキルを持つ職業人による出前授業等を効果的に活用するなど、高度で幅広い指導内容を自分だけで抱え込まないように意識することが大切です。

また、道教委には、実際の産業現場と高校とをオンラインで接続した教員研修の充実を図るとともに、産業教育振興法^{*12}に基づき、専門高校の教員が、希望するスキルを長期にわたって身に付けることができるよう「北海道教職

*12 産業教育の振興を図ることを目的として、昭和26年に国が定めた法律。地方公共団体が、産業教育に従事する教員又は指導者の現職教育又は養成の計画を樹立し、及びその実施を図るなど、産業教育の振興を図ることを奨励しなければならないことなどが示されている。

員研修計画^{*13}」に位置付けるほか、専門高校の実習助手等に対するスキル向上策を事業化することが求められます。

次に、専門高校の生徒のうち、教員の仕事に関心を持っている生徒は、教職の魅力として、「関わっている先生への憧れ」や「楽しく仕事ができそう」と考えている生徒が多いことが分かりました。

このことから、専門高校の教員は、生徒にとって教員という一つの職業の身近なロールモデルと言えます。道教委は、専門高校の教員がやりがいを実感して生き生きと働くことができるよう、専門高校の教員から意見聴取を行うなどして環境の整備に努める必要があります。

他方、ワークライフバランスを理由に、民間企業へ進路希望を変更する学生が一定数いることから、道教委は、教員のワークライフバランスの向上につながる取組やその成果を効率的に学生に伝えることなどの取組を一層推進することが求められます。

3 産業界との連携に関する取組

多くの企業が、専門高校との連携について、何らかの形で積極的に連携したいと考えていることが分かりました。その中で、企業と専門高校の双方が、産学連携に期待する効果として、生徒が先端技術に触れて業界や技術への興味が高まることを挙げていました。

また、連携したことがない企業においても、約2割は積極的に連携したい、約3割は依頼があれば連携したいと考えていることが分かりました。

さらに、企業の回答では、将来の人材確保につながることはもとより、生徒に業界や自社をPRできることや、企業に対する教員の理解が深まることなどが多く挙げられました。

次に、産学連携に当たって重視する点として、企業と専門高校の教員に共通して、双方の信頼関係とコミュニケーションが挙げられました。

また、産学連携において、教員の多くは、交通費や経費などの予算の確保が課題と考えている一方で、企業の多くは、経費や謝礼を課題とは考えていないことが分かりました。

このように、産学連携に関する考え方には、学校と企業で隔たりもあることから、企業との連携における導入段階においては、お互いにスケジュールを調整し、双方にとって顔が見える形でコミュニケーションを取りはじめることが重要です。この連携は、属人的なつながりや信頼を基盤として、双方の異動で

*13 道教委が、本道の教員一人一人が資質・能力を着実に高めていくことができるよう、体系的かつ効果的・効率的な教員研修の実施に向けて、例年策定している計画のこと。

失われることのないよう、持続可能な連携体制を構築していくことが最も必要なこととなります。

(1) つながる機会の創出

これまでの本審議会における答申や建議では、例えば、学校と企業との交流会の事例を示すなど、産業界と専門高校の出会いの機会の創出について提言してきました。こうした経緯を踏まえて、道教委では、令和6年度から「北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト^{*14}」に取り組み、産学連携を推進し、一定の成果を挙げつつあります。

今回の調査では、産学連携の推進において地域間格差が大きいといった課題が浮き彫りになりました。そのため、道教委は、オンラインの積極的な活用を含め、各種研修や会議等で産業界の人材を呼ぶなど、学校と地域の産業界がつながる機会を創出することが大切です。例えば、産学連携シンポジウム^{*15}のような取組を圏域ごとに充実することで、特に連携実績の少ない地域における学校と地域の産業界とをつなぐ機会の創出に努めることが求められます。

現在、高校教育課に配置している産学連携コーディネーターは、各種セミナーやイベントの開催などを通じて「産業界と専門高校がつながるきっかけづくり」に取り組んでおり、道教委は、本プロジェクトで築いた実績や成果を踏まえ、今後の事業や施策につなげていくことが重要です。

また、道教委が作成している「産業実務家教員リスト^{*16}」には、交通費や謝礼が不要で出前授業や現場見学等の連携が可能な企業が数多く登録されており、学校は教育課程に取り入れることが必要と考える外部からの指導について、企業等に直接連絡を取ることができます。

各学校が産学連携を充実させる上では、学科や地域の実情に応じて、こうした外部人材を掲載したリストを活用することや、マイスター・ハイスクール事業^{*17}、高等学校DX加速化推進事業(DXハイスクール)^{*18}の成果などを参考にすることも有効です。

*14 文部科学省の「マイスター・ハイスクール普及促進事業」を活用した道教委の令和6年度からの2か年事業。専門高校が学科の垣根を越えて連携するとともに、企業や中学校との縦の連携を促進し、専門高校の価値や魅力を広く発信している。参考資料4を参照。

*15 専門高校の教員や産業界関係者が、産学連携の意義や方法等について理解を深める道教委主催のイベント。令和7年度は道内4会場で開催した。

*16 旅費や謝金が必要で、専門高校との連携が可能な職業人等をデータベース化したもの。令和6年度から作成し、令和7年度もアップデートを予定している。

*17 産業界と専門高校等関係者が一体となった教育課程の刷新・実践などに取り組む文部科学省の事業。道内では静内農業高校（令和3～5年度）、厚岸翔洋高校（令和4～6年度）の2校が指定校。

*18 高校段階におけるデジタル等成長分野を支える人材育成の抜本的強化を図るため、情報、数学等の教育を重視するカリキュラムを実施するとともに、ICTを活用した文理横断的・探究的な学びを強化する学校などに対して、必要な環境整備の経費を支援する文部科学省の事業。

さらに、広域分散型の本道においては、生徒や教員の移動に必要な交通費等の確保を含め、産学連携がより促進される環境の整備も求められています。

（２）連携における協働とコミュニケーション

産学連携に当たって重視する点として、企業と専門高校の教員に共通して、双方の信頼関係とコミュニケーションが挙げられました。また、専門高校との関係づくりにおいては、年数回でも「対面」によるコミュニケーションが必要と考えている企業が多くありました。さらに、高校との連携による効果について、連携実績がある企業ほど、連携の効果を実感する機会を求めていることが分かりました。

企業が連携に期待する効果として回答の割合が多かったのは、将来の人材確保、生徒への自社のPR、企業のイメージアップでした。実際に連携で得られた効果として、連携実績のある企業の回答では、「自社のPRができた」と「企業のイメージアップ」が挙げられました。また、半数以上（53％）の企業が「人材確保につながった」と回答しており、専門高校との連携に期待している効果が実際に得られていることが分かります。

このことから、連携には顔の見える関係づくりが大切であり、各学校は、連携におけるこうした「属人性」を前提として、コミュニケーションと協働関係の構築に努めることが大切です。例えば、出前授業や現場見学などの実施においては、企業と一体となって事前指導や事後指導を行うなど、企業と専門高校とで「一緒に人を育てていく」という意識で、連携を進めていくことが求められます。

そのため、学校は、生徒の変容や成長を企業に伝えたり、アンケートや感想文のほか、学習成績の向上や「実習」におけるスキル向上の具体的な程度を共有したりするなどして、企業の方が教育実践に携わっていると実感できるよう努めることが大切です。

企業は、専門高校との連携に当たって、高校側の情報やニーズの把握を重視していることが分かりました。そして、情報はつながりのある高校教員から得ていることが最も多く、次いで、高校や道教委が開催するイベント等、ホームページからが多いことが分かりました。

このため、道教委は、企業との連携において、専門高校がどのようなことを期待しているかを具体的に発信することが必要です。

これまで、連携は属人的なつながりを土台とすることを確認してきましたが、同時に、異動などで担当者が変わると連携が継続しないといった課題もあります。このため、担当者が変わっても引継ぎがスムーズにいくよう、資料の整備や担当者同士による顔合わせの機会の確保などの体制づくりが重要です。

各学校においては、連携のコーディネートを担当教員の発掘、育成、活用、そのための環境整備が重要となります。連携の担当者は、企業の担当者との連絡調整や事業の企画運営、校内調整など、多様な役割を担います。

そのため、例えばコーディネートに関わる業務を各学科の業務や校務分掌に位置付けるなど、業務の見える化を図るとともに、連携先や連携内容などに応じて、担当者が臨機応変に対応できるよう、校内体制を整えることも有効です。

(3) 連携の見直しと発展的解消の可能性

連携においては、同じことを継続したり踏襲したりすることが本質ではありません。前例踏襲型の連携ではなく、生徒の変容や企業からのフィードバックによる振り返りなどを踏まえて、連携を見直したり発展的に解消することも必要です。

そのため、各学校は、連携の目的や効果等などについて問い直す機会を定期的に設け、年度途中でも必要に応じて、連携を解消したり、逆にチャンスがあれば連携に乗り出したりするなど、主体性を持って取り組むことが重要です。

また、道教委は、日頃から知事部局や産業界等との情報交換に努め、生徒の成長につながる産学連携の機会がある場合は、年度途中においても、学校に対して速やかに情報提供することが重要です。

4 今後の実現に向けて

本道においては、技術革新やテクノロジーの進展に伴い、先端半導体や洋上風力発電、スマート農業・水産業やデータセンターなどの産業の創造が進んでいます。こうした産業構造の変化を含め、予測が難しい社会においては、子どもたちが新しい時代を切り拓くための資質・能力を獲得することが必要です。専門高校には、こうした新しい時代を切り拓くための教育的な価値や可能性があります。

専門高校は、特色ある学習内容や進路先などが見える化し、「学びの広がり」と進路の可能性」を強調しながら、専門高校が持つ価値や魅力を、中学生やその保護者に広く発信し続けることが必要です。そのため、道教委には今後、各学校の情報発信がより活性化するよう、必要な人材の配置や、適切な予算措置について検討することが求められます。

また、道教委は、専門高校の教員確保に向け、大学のキャリアセンター等との連携や、教員採用試験の実施時期の見直しなど、教職課程を履修する学生の実態に応じた工夫に取り組むことが必要です。加えて、実習助手等を含めた専門高校の教職員へのスキル向上策の事業化や、ワークライフバランスの向上につながる取組など、根本的な教員の魅力向上を図る工夫が求められます。

さらに、専門高校は、産業界等と連携し、例えば「課題研究」において、生徒が先端技術に触れる機会を確保するなど、実践的・体験的な学習活動の一層の充実を図ることが重要です。その際、多様な知見を持つ地域の方々との対話や協働を通じて「一緒に人を育てていく」という意識を醸成することが大切となります。

こうした地域や産業界と一体となった各学校の取組を促進するため、道教委には、連携コーディネーターの戦略的な配置など、他県の事例を参考にした予算措置について検討することが求められます。

これらの取組を通じて本道産業教育の一層の充実が図られるよう、道教委は、専門高校はもとより、企業や経済団体等の産業界、大学や中学校等の関係者にも、本建議の趣旨などを広く周知して理解を得ることが必要です。

また、新しい時代に向けて、本道産業教育の振興を着実に図る上で、道教委は、知事部局や産業界等との緊密な連携により一層注力する必要があります。子どもたちを真ん中に、大人たちが立場や使命の垣根を越えて確実に連携し、豊かな教育を実現することが望まれます。

第4章 調査結果

1 職業学科在校生

【調査実施校】18校

（内訳）農業科3校、工業科5校、商業科6校、
水産科・家庭科・看護科・福祉科各1校

【回答者数】1,143名（3年生373名、2年生377名、1年生393名）

○ 在籍学科についてお聞きます。【1つのみ選択】

項 目	回答数	回答者数に対する割合
農業科	212	19%
工業科	312	27%
商業科	407	36%
水産科	87	8%
家庭科	68	6%
看護科	56	5%
福祉科	1	0.1%

回答者数：1,143名

設問1 中学3年生1学期の段階で、進学を希望する高校について、どのように考えていましたか。【1つのみ選択】

項 目	回答数	回答者数に対する割合
1 現在の職業学科に進むことを希望していた	555	49%
2 別の職業学科に進むことを希望していた	79	7%
3 普通科に進むことを希望していた	160	14%
4 総合学科に進むことを希望していた	31	3%
5 学科にこだわりはなかった	318	28%

回答者数：1,143名

中学3年生1学期の段階で、進学を希望する高校についての考えとして、「現在の職業学科に進むことを希望していた」と回答した割合が約49%と最も高く、次いで「学科にこだわりはなかった」が約28%、「普通科に進むことを希望していた」が約14%となっている。

設問2 現在の学校・学科を選んだ理由として、当てはまるのは、次のうちどれですか。【3つまで回答可】

項 目	回答数	回答者数に対する割合
1 自分の興味や関心に合ったことを学べる	466	41%
2 専門的な知識・技術を学べる	579	51%
3 実験や実習の施設・設備が充実している	171	15%
4 進学指導が充実していて、進学実績が高い	27	2%
5 就職率が高く、就職に有利	441	39%
6 自分の成績や学力に合っている	380	33%
7 部活動が充実している	125	11%
8 先生や在校生の雰囲気がよさそう	59	5%
9 自宅から通いやすい	314	27%
10 学費などが安く、経済的な負担が少ない	52	5%
11 校則が厳しくない	26	2%
12 制服が好みに合っている、または、私服で通学できる	65	6%

回答者数：1,143名

現在の学校・学科を選んだ理由として、「専門的な知識・技術を学べる」と回答した割合が約51%と最も高く、次いで「自分の興味や関心に合ったことを学べる」が約41%、「就職率が高く、就職に有利」が約39%、「自分の成績や学力に合っている」が約33%となっている。

設問3 中学時代、高校について情報を得る際に参考となったのは、次のうちどれですか。【複数回答可】

項 目	回答数	回答者数に対する割合
1 高校が開催する体験入学や見学会	795	70%
2 高校が開催する出前授業	44	4%
3 高校の学校祭などのイベント	86	8%
4 中学校で開催される高校説明会	310	27%
5 高校の取組などを紹介した資料やパンフレット	380	33%
6 高校のホームページ	500	44%
7 SNS (Instagram、X、Facebook など)	77	7%
8 その他	68	6%

回答者数：1,143名

中学時代、高校について情報を得る際に参考となったのは、「高校が開催する体験入学や見学会」と回答した割合が約70%と最も高く、次いで「高校のホームページ」が約44%、「高校の取組などを紹介した資料やパンフレット」が約33%、「中学校で開催される高校説明会」が約27%となっている。

[1 職業学科在校生]

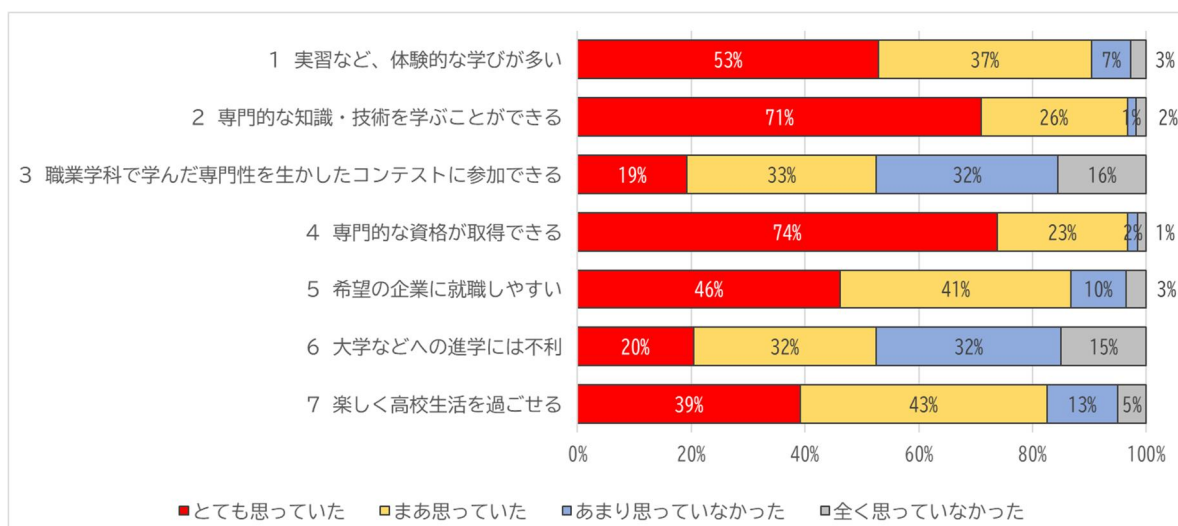
設問4 中学時代、中学校卒業後の進路や高校での学習内容などについて相談する際に、誰の意見を参考にしましたか。【複数回答可】

項 目	回答数	回答者数に対する割合
1 中学校の先生	826	72%
2 保護者	840	73%
3 きょうだい、親戚	293	26%
4 進学しようと思っている高校の在校生や卒業生	153	13%
5 進学しようと思っている高校の先生	25	2%
6 塾の先生や家庭教師	138	12%
7 同級生や友人	285	25%
8 テレビや新聞などのマスメディア	10	1%
9 インターネット上にある情報	103	9%
10 オンライン上の知人	13	1%
11 その他	14	1%

回答者数：1,143名

中学時代、中学校卒業後の進路や高校での学習内容などについて相談する際に、誰の意見を参考にしたかについて、「保護者」と回答した割合が約73%と最も高く、次いで「中学校の先生」が約72%、「きょうだい、親戚」が約26%となっている。

設問5 中学時代に抱いていた職業学科への印象として、次の1～7について、どのように思っていましたか。【それぞれについて4段階で回答】



中学時代に抱いていた職業学科への印象として、「専門的な資格が取得できる」について「とても思う」と回答した割合が最も高い。このほか、「専門的な知識・技術を学ぶことができる」、「実習など、体験的な学びが多い」、「希望の企業に就職しやすい」などで肯定的な回答の割合が高くなっている。

[1 職業学科在校生]

設問6 現在の学校・学科に入学してよかったと思いますか。【1つのみ選択】

項 目	回答数	回答者数に対する割合
1 よかった	552	48%
2 どちらかといえばよかった	481	42%
3 どちらかといえばよくなかった	76	7%
4 よくなかった	34	3%

回答者数：1,143名

現在の学校・学科に入学してよかったと思うかについて、「よかった」と回答した割合が約48%と最も高く、次いで「どちらかといえばよかった」が約42%となっている。

(設問6で1又は2と答えた人のみ回答)

設問7 入学してよかったと思う理由として近いのは、次のうちどれですか。

【3つまで回答可】

項 目	回答数	回答者数に対する割合
1 専門的な知識・技術が学べる	675	59%
2 実験・実習などの体験的な学習ができる	417	36%
3 授業に興味を持てる	142	12%
4 進学指導が充実していて、進学実績が高い	37	3%
5 就職率が高く、就職に有利	337	29%
6 部活動やクラブ活動が楽しい	226	20%
7 よい先生がいる	123	11%
8 よい友人や先輩がいる	423	37%
9 校則が厳しくない	29	3%
10 施設・設備が充実している	26	2%
11 その他	13	1%

回答者数：1,033名

入学してよかったと思う理由として近いのは、「専門的な知識・技術が学べる」と回答した割合が約59%と最も高く、次いで「よい友人や先輩がいる」が約37%、「実験・実習などの体験的な学習ができる」が約36%となっている。

（設問 6 で 3 又は 4 と答えた人のみ回答）

設問 8 入学してよくなかったと思う理由として近いのは、次のうちどれですか。【3 つまで回答可】

項 目	回答数	回答者数に対する割合
1 実験・実習の負担が大きい	22	20%
2 授業に興味を持てない	58	53%
3 思っていたより進学の選択肢が狭い	22	20%
4 思っていたより就職に有利ではない	5	5%
5 部活動やクラブ活動が楽しくない	17	15%
6 よい先生がいない	47	43%
7 よい友人や先輩がいない	19	17%
8 校則やマナー指導が厳しい	45	41%
9 施設・設備が充実していない	14	13%
10 その他	9	8%

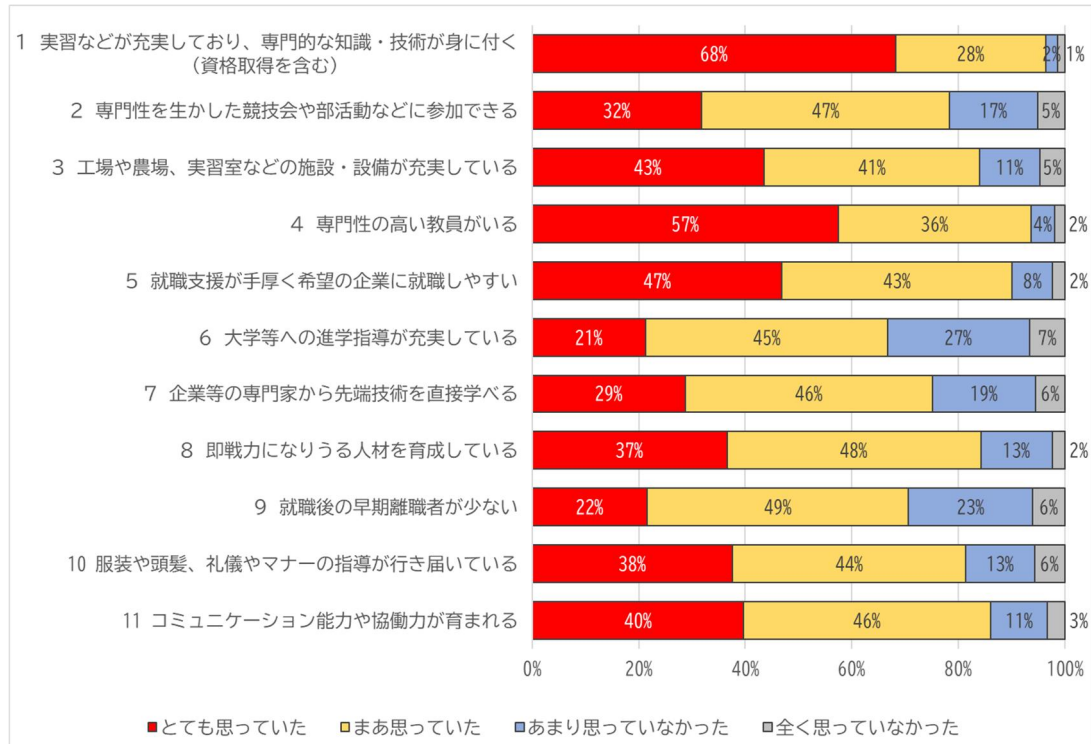
回答者数：110名

入学してよくなかったと思う理由として近いのは、「授業に興味を持てない」と回答した割合が約53%と最も高く、次いで「よい先生がいない」が約43%、「校則やマナー指導が厳しい」が約41%となっている。

(全ての方が回答)

設問9 職業学科(農業、工業、商業、水産、家庭、看護、福祉)の強みや魅力として、あなたの考えに近いのはどれですか。

【それぞれについて4段階で回答】



職業学科の強みや魅力として、「実習などが充実しており、専門的な知識・技術が身に付く(資格取得を含む)」について「とても思う」と回答した割合が最も高い。このほか、「専門性の高い教員がいる」、「就職支援が手厚く希望の企業に就職しやすい」、「工場や農場、実習室などの施設・設備が充実している」などで肯定的な回答が高くなっている。

設問 10 あなたが高校在学中に学んでみたい内容は、次のうちどれですか。

【複数回答可】

項 目	回答数	回答者数に対する割合
1 大量のデータを分析して、これまでにない新たなサービスなどを作り出していく方法	231	20%
2 人工知能（AI）や仮想現実（VR）などのデジタル技術	306	27%
3 精密な電子部品を作ったり、それらを使って新しい製品を作り出す方法	157	14%
4 洋上風力発電など、地球に優しいエネルギーの作り方	77	7%
5 自分で生産した農作物などを、加工、商品化する方法	236	21%
6 GPSやドローンなどの先端技術を駆使した農業や水産業の方法	122	11%
7 これまでにない新たな仕事を生み出し、会社を経営する方法	206	18%
8 まちづくりや地域の課題を解決する方法	317	28%
9 その他	66	6%

回答者数：1,143名

高校在学中に学んでみたい内容は、「まちづくりや地域の課題を解決する方法」と回答した割合が約28%と最も高く、次いで「人工知能（AI）や仮想現実（VR）などのデジタル技術」が約27%、「自分で生産した農作物などを、加工、商品化する方法」が約21%となっている。

設問 11 職業選択において重視するものは、次のうちどれですか。

【3つまで回答可】

項 目	回答数	回答者数に対する割合
1 自分の能力やスキルを生かすことができる	562	49%
2 自分が成長できる	309	27%
3 意義ややりがいを感じることができる	500	44%
4 仕事の進め方を自分で決めることができる	50	4%
5 クリエイティブで創造的な仕事ができる	86	8%
6 収入が安定している	476	42%
7 収入が高い	257	22%
8 仕事とプライベートが両立できる	327	29%
9 社会的に尊敬（感謝）される仕事である	35	3%
10 職場の雰囲気や同僚との人間関係がよい	347	30%
11 転勤がない、または少ない	65	6%
12 クレームへの対応がない、または少ない	20	2%
13 その他	7	1%

回答者数：1,143名

職業選択において重視するものは、「自分の能力やスキルを生かすことができる」と回答した割合が約49%と最も高く、次いで「意義ややりがいを感じることができる」が約44%、「収入が安定している」が約42%となっている。

設問 12 職業学科の教員の仕事について、あなたの考えに最も近いものは、次のうちどれですか。【1つのみ選択】

項 目	回答数	回答者数に対する割合
1 魅力を感じており、教員免許の取得を目指したい	83	7%
2 魅力を感じるが、大学進学等への不安がある	161	14%
3 魅力を感じるが、民間企業にも大きな魅力を感じている	305	27%
4 魅力は感じない	594	52%

回答者数：1,143名

職業学科の教員の仕事について、自身の考えに最も近いものは、「魅力は感じない」と回答した割合が約52%と最も高く、次いで「魅力を感じるが、民間企業にも大きな魅力を感じている」が約27%、「魅力を感じるが、大学進学等への不安がある」が約14%となっている。

（設問 12 で 1、2、3 と答えた人のみ回答）

[1 職業学科在校生]

設問 13 職業学科の教員の魅力として、あなたの考えに当てはまるものは、次のうちどれですか。【3つまで回答可】

項 目	回答数	回答者数に対する割合
1 関わっている先生への憧れ	117	21%
2 母校で働いてみたい	50	9%
3 自分の関心のある分野に携わることができる	169	31%
4 社会的な意義や、やりがいを実感できる	117	21%
5 生徒の成長に直接関わることができる	155	28%
6 実習が多く、一人一人の生徒と身近に接することができる	111	20%
7 部活動や各種コンテストへの指導がしたい	63	11%
8 給与や福利厚生が充実している	67	12%
9 楽しく仕事ができそう	147	27%

回答者数：549名

職業学科の教員の魅力として、自身の考えに当てはまるものは、「自分の関心のある分野に携わることができる」と回答した割合が約31%と最も高く、次いで「生徒の成長に直接関わることができる」が約28%、「楽しく仕事ができそう」が約27%となっている。

(全ての方が回答)

設問 14 今、あなたが学んでいる職業学科の魅力を、小・中学生や地域の方などに知ってもらうには、どのように発信していくことが効果的だと思いますか。【複数回答可】

項 目	回答数	回答者数に対する割合
1 小・中学校での出前授業	542	48%
2 地域のイベントでの販売会やものづくり教室など	375	33%
3 複数回の体験入学の実施	476	42%
4 学校ホームページの充実	432	38%
5 SNS (Instagram、X、Facebookなど) での発信	408	36%
6 社会における卒業生の活躍	212	19%
7 その他	9	1%

回答者数：1,130名

職業学科の魅力を、小・中学生や地域の方などに知ってもらうには、どのように発信していくことが効果的だと思うかについて、「小・中学校での出前授業」と回答した割合が約48%と最も高く、次いで「複数回の体験入学の実施」が約42%、「学校ホームページの充実」が約38%、「SNS (Instagram、X、Facebookなど) での発信」が約36%となっている。

[1 職業学科在校生]

2 職業学科卒業生

【調査対象】 職業学科を設置している全ての道立高校（卒業後満1～5年）
 【回答者数】 556 名

- あなたの高校卒業後の進路を教えてください。【1つのみ選択】

項 目	回答数	回答者数に対する割合
就職	377	68%
進学	175	31%
その他	4	1%

回答者数：556名

- あなたの現在の状況を教えてください。【1つのみ選択】

項 目	回答数	回答者数に対する割合
社会人	384	69%
学生	161	29%
その他	11	2%

回答者数：556名

- 設問1 卒業した学校・学科に入学してよかったと思いますか。【1つのみ選択】

項 目	回答数	回答者数に対する割合
1 よかった	412	74%
2 どちらかといえばよかった	123	22%
3 どちらかといえばよくなかった	18	3%
4 よくなかった	3	1%

回答者数：554名

卒業した学校・学科に入学してよかったと思うかについて、「よかった」と回答した割合が約74%と最も高く、次いで「どちらかといえばよかった」が約22%となっている。

(設問1で1又は2と答えた人のみ回答)

設問2 入学してよかったと思う理由として近いのは、次のうちどれですか。

【3つまで回答可】

項 目	回答数	回答者数に対する割合
1 専門的な知識・技術が学べた	315	59%
2 実験・実習などの体験的な学習ができた	268	50%
3 授業に興味を持てた	50	9%
4 進学指導が充実していた	18	3%
5 就職指導が充実していた	115	21%
6 部活動やクラブ活動が楽しかった	123	23%
7 よい先生がいた	222	41%
8 よい友人や先輩がいた	226	42%
9 校則が厳しくなかった	26	5%
10 施設・設備が充実していた	12	2%
11 その他	22	4%

回答者数：535名

入学してよかったと思う理由として近いのは、「専門的な知識・技術が学べた」と回答した割合が約59%と最も高く、次いで「実験・実習などの体験的な学習ができた」が約50%、「よい友人や先輩がいた」が約42%、「よい先生がいた」が約41%となっている。

(設問1で3又は4と答えた人のみ回答)

設問3 入学してよくなかったと思う理由として近いのは、次のうちどれですか。

【3つまで回答可】

項 目	回答数	回答者数に対する割合
1 実験・実習の負担が大きかった	5	24%
2 授業に興味を持てなかった	7	33%
3 思っていたより進学の実選択肢が狭かった	7	33%
4 部活動やクラブ活動が楽しくなかった	2	10%
5 よい先生がいなかった	6	29%
6 よい友人や先輩がいなかった	3	14%
7 校則やマナー指導が厳しかった	6	29%
8 施設・設備が充実していなかった	4	19%
9 その他	3	14%

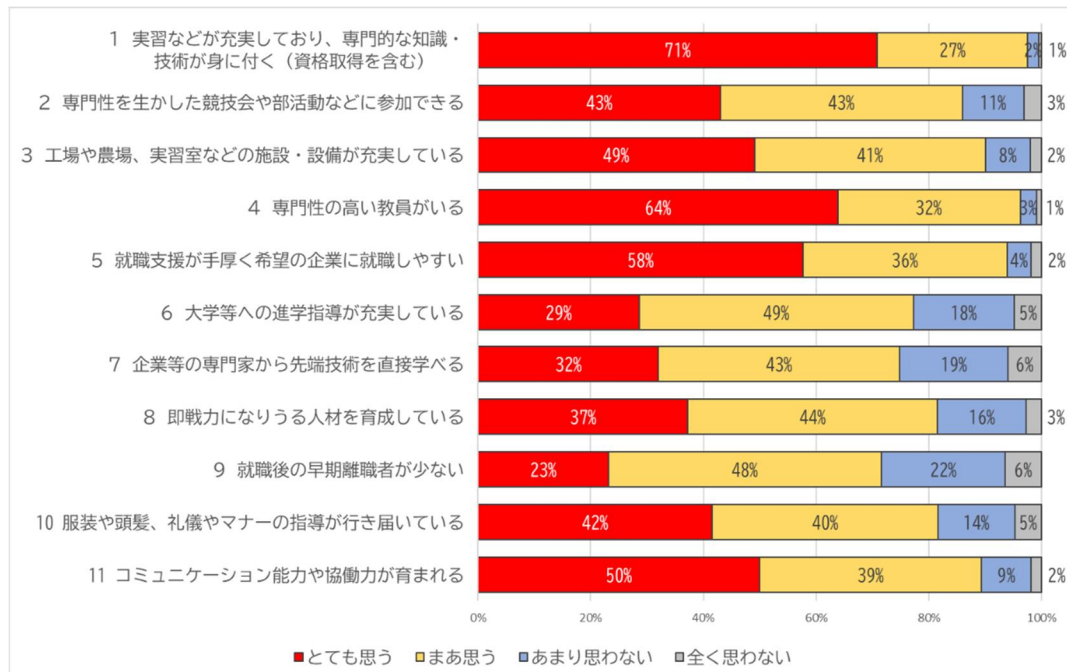
回答者数：21名

入学してよくなかったと思う理由として近いのは、「授業に興味を持てなかった」、「思っていたより進学の実選択肢が狭かった」と回答した割合が約33%と最も高く、次いで「よい先生がいなかった」、「校則やマナーが厳しかった」が約29%となっている。

(以下、全ての方が回答)

設問4 職業学科(農業、工業、商業、水産、家庭、看護、福祉)の強みや魅力として、あなたの考えに近いのはどれですか。

【それぞれについて4段階で回答】



職業学科の強みや魅力として、「実習などが充実しており、専門的な知識・技術が身に付く(資格取得を含む)」について「とても思う」と回答した割合が最も高い。このほか、「専門性の高い教員がいる」、「就職支援が手厚く希望の企業に就職しやすい」、「コミュニケーション能力や協働力が育まれる」などで肯定的な回答の割合が高くなっている。

設問5 あなたが高校で学んできた職業学科の魅力を、小・中学生や地域の方などに知っていただくには、どのように発信していくことが効果的だと思いますか。【複数回答可】

項 目	回答数	回答者数に対する割合
1 高校が開催する体験入学や見学会	395	71%
2 高校が開催する出前授業等	163	29%
3 高校の学校祭などのイベント	288	52%
4 中学校で開催される高校説明会	202	36%
5 高校の取組などを紹介した資料やパンフレット	170	31%
6 高校のホームページ	144	26%
7 SNS (Instagram、X、Facebookなど)	251	45%
8 その他	11	2%

回答者数：556名

職業学科の魅力を小・中学生や地域の方などに知ってもらうための効果的だと思う発信として、「高校が開催する体験入学や見学会」と回答した割合が約71%と最も高く、次いで「高校の学校祭などのイベント」が約52%、「SNS (Instagram、X、Facebookなど)」が約45%となっている。

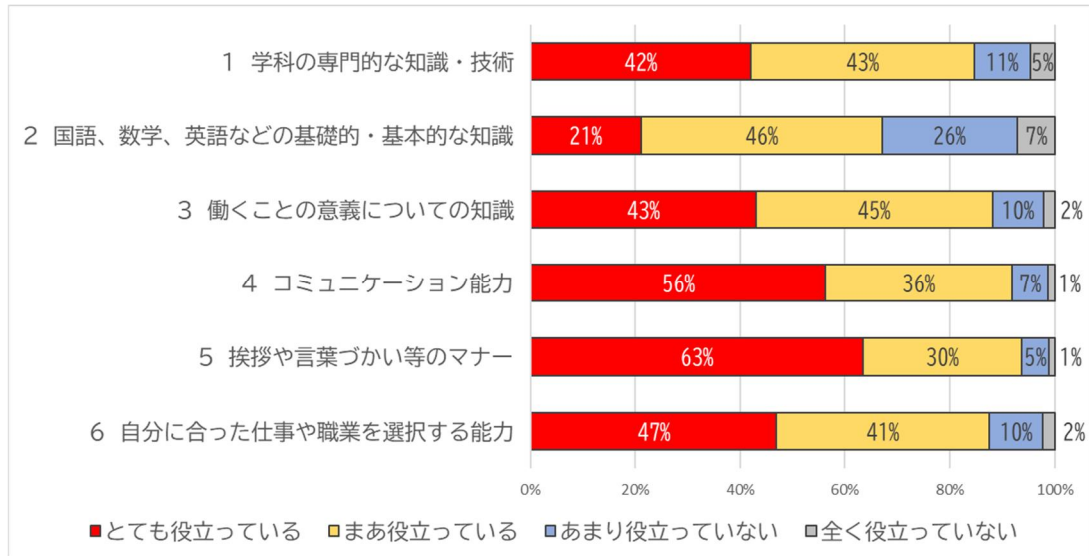
設問6 今後、職業学科の生徒が高校在学中に学んでほしい内容は、次のうちどれですか。【複数回答可】

項 目	回答数	回答者数に対する割合
1 大量のデータを分析して、これまでにない新たなサービスなどを作り出していく方法	159	29%
2 人工知能 (AI) や仮想現実 (VR) などのデジタル技術	137	25%
3 精密な電子部品を作ったり、それらを使って新しい製品を作り出す方法	87	16%
4 洋上風力発電など、地球に優しいエネルギーの作り方	61	11%
5 自分で生産した農作物などを、加工、商品化する方法	164	29%
6 GPSやドローンなどの先端技術を駆使した農業や水産業の方法	112	20%
7 これまでにない新たな仕事を生み出し、会社を経営する方法	134	24%
8 まちづくりや地域の課題を解決する方法	243	44%
9 その他	55	10%

回答者数：556名

今後、職業学科の生徒が高校在学中に学んでほしい内容は、「まちづくりや地域の課題を解決する方法」と回答した割合が約44%と最も高く、次いで「自分で生産した農作物などを、加工、商品化する方法」と「大量のデータを分析して、これまでにない新たなサービスなどを作り出していく方法」とが約29%となっている。

設問7 職業学科で学んだことで、どのようなことが現在の仕事や学習に役立っていますか。【それぞれについて4段階で回答】



職業学科で学んだことで、現在の仕事や学習に役立っていることとして、「挨拶や言葉づかい等のマナー」について「とても思う」と回答した割合が最も高い。このほか、「コミュニケーション能力」や「自分に合った仕事や職業を選択する能力」などで肯定的な回答の割合が高くなっている。

<卒業生> 設問8における556名の回答から136名の記述を抜粋

No	学科	高校卒業後の進路	職業学科での学校生活や出会いを通じて自分が成長したと思うことや、高校卒業後の生活において役立っていると思うことを自由にお書きください。
1	農業	就職	寮生活で早朝からの実習があったので、責任を持って仕事に取り組むことを学べた。社会人になった時、自分の強みとしてその経験が生かされた。高校で出会った友人や先生とも良好な関係を築けてよかった。
2	農業	就職	自分達で行う販売実習や、意見発表大会に向けた校内発表会など、様々な行事のおかげで、幅広い年代の方と話したり、人前に立って話すことの抵抗が少なくなった。
3	農業	就職	様々な考えの人達と出会い、共に学校生活を送ることで、自分の中で色々な選択肢や考え方が増えた。実習で農家を訪問し、経営や栽培技術を学ぶことができ、こうした学びが参考になった。
4	農業	就職	酪農経営を学んだことによって、地域で盛んな酪農の仕事に携わっても困ることがほばない。
5	農業	就職	間違いなくコミュニケーション能力が成長したと思っている。職業学科に入ったことで、勉強だけでなく実習などを通して、色々な人達と話せる機会が多くあった。今も職場では「コミュニケーション能力が高いね。」と言われていて、本当に成長できたのだと実感している。
6	農業	就職	授業で聞いている時は正直ピンとこなかったキーワードも、仕事に就くと獣医や人工授精師から聞くことがあるので、イメージがとても湧きやすい。
7	農業	就職	周りの人達がずっと付き合ってくれたり何度も相談させてもらって、自分の感情や気持ちを整理することを学んだ。就職した今は、周りの方に相談することや、普段のコミュニケーションを取ることに苦労していないので、高校時代の学びが役に立っている。
8	農業	就職	社会人になり責任感が増し、自己判断する能力が高校時代と比べてより身に付いた。
9	農業	就職	高校生活は周りの助けがあり、色々な行事や資格にチャレンジすることができた。卒業後はその経験を生かし、積極的に企画の発案や行事の運営等の仕事ができている。
10	農業	就職	実習などで農業を体験的に学べるので、自分に合った仕事や職業を選択して就職先を決めることができた。今は自分の興味のある職種の会社で働くことができています。
11	農業	就職	食品加工・販売について、専門的な知識を持った教員や外部講師から質の高い教育を受けることができた。また、周りの生徒とともに協力して実習・演習などを行い、協働する力やコミュニケーション能力を育むことができた。充実した教育、そして実習などで外部との交流が多かったことで、仕事で重要となる考え方を学ぶことができた。
12	農業	就職	先生方のおかげでよい就職先が見付かり、自分に自信を持つことができ、とても楽しい人生を送らせてもらっている。
13	農業	就職	高校時代に学んだこと全てが生かしてはいないが、コミュニケーション能力や食品関係の知識が高校生活で学べた分、今とても役に立っている。
14	農業	就職	テレビの取材やコンテストなどで、コミュニケーション能力が身に付いた。
15	農業	就職	産業界の方々による出前授業などでは、専門的な内容も分かりやすく説明してくれ、理解しやすかった。学んだことの全てを吸収できてはいないが、貴重な機会が多かった。3年生になってからは、「今まで受けてきた授業はとても貴重なもので、先生方が一生懸命準備してくれた時間」であることにも気づき、先生方には感謝してもしきれない。社会人になって半年経った今でも、人前で緊張することはなく、色々な人と話し、上司の方々への礼儀も忘れずに過ごすことができています。部活動の経験や、農業クラブ三大会の一つである意見発表大会に出場し、大勢の前で何度も発表しているので、人前で話すのが楽しくなってきた。農業高校で多くのチャンスをもらって、よい先生方に囲まれて仲間に出会えたことが、私の大きな財産である。

16	農業	就職	担任の先生から「素直になれ」という言葉を習っていたので、社会人になってからもその言葉を忘れずに仕事に励んでいる。そのおかげで「報告・連絡・相談」にとても役立っている。また、就職してからExcelやWordを使うことが多いので、授業で習ったことを生かしている。
17	農業	就職	高校生活で意欲的に取り組むということに力を入れ、多くの知識を身に付けてきた。それが現在の生活にも役立ち、様々なことに積極的に取り組むことができています。
18	農業	就職	専門高校での学びは、学科の学習内容に興味を持っている仲間が多く、お互いを高め合うことができたのでとてもよかった。また、就職した際は、高校で学んできたことが生かされており、0からのスタートではなかったので気持ちが楽だった。
19	農業	就職	専門的な知識や技術を学んだことで、自分の進路を決めることができた。座学だけではなく、実習をしながら学ぶことで、大人とのコミュニケーションや礼儀なども身に付けることができ、この学校に通っていたからこそ成長できた点だと感じている。
20	農業	進学	学校生活を通じて、農作業でのコミュニケーション能力が培われた。また、専門的な知識や体力を身に付けることができた。
21	農業	進学	栽培を高校時代に学んでいたおかげで、大学での学びにアドバンテージを得ることができた。
22	農業	進学	知識はもちろん、挨拶やマナーを徹底的に学べたおかげで、周囲の人達からの印象がよくなり、仕事を任せてもらえることも多くなった。
23	農業	進学	中学時代は欠席が多かったが、農業高校に入学し、卒業までしっかり出席することができた。自分にとっては大きな成長を感じた。
24	農業	進学	他の学科ではなかなかできない体験ができ、とても充実していた。
25	農業	進学	高校時代に多くの大人と関わり、今でも一緒に仕事をさせてもらったり、困った時の頼れる存在になっている。
26	農業	進学	普通科では経験できない専門的な学習を10代のうちに経験できた。現在は大学で栄養学を学んでいるが、高校時代に学んだことの応用が多く、深く知識を吸収することができている。今後は、農業高校への関心が高まり、農業や食に興味を持つ人が増えることを望む。
27	農業	進学	進学先の学校の授業は、農業高校の授業と似ている部分があり、おかげでテストでよい点数を取ることができた。実習の際、ゴムベラなどを周りの人より上手く使えたので、高校でやってきてよかったと感じた。
28	農業	進学	外部の方と関わる機会が多くあったため、そういった方との関わり方を学べた。今通っている学校では違う分野のことを学んでいるが、栄養について学ぶ授業もあるので、高校で覚えていたところが役に立っている。
29	農業	進学	農業科で身に付けた自分の強みを発揮し、人の力になりたいと思って行動している。
30	農業	進学	積極性や協調性を持てたことに成長を感じる。実習を通して、自らできることを見付けて積極的に行動できたことや、友人と協力して作業の効率を上げるなど、大切なことを身に付けることができた。
31	農業	進学	高校生活の中では、作業に対する取り組み方や考え方、自己を分析する力などが成長したと感じており、今の生活に役立っている。
32	農業	進学	育てた野菜の品質特性を覚えていたことで、今も献立を立てる際に非常に役立っている。高校生活は農業がとても楽しく、色々な料理を作ることが大好きであることが分かった。今後も、相手が最大限満足できるような料理を作れるように、残りの学生生活を悔いのないように過ごしたい。
33	農業	進学	共通教科は他校と比べて詳しく学べない印象だったが、進学先での専門的な知識の面ではより理解がしやすかった。これからは職業学科においては、生徒に専門的な知識を多く教えてほしい。
34	農業	進学	農業について深く知ることができることや、農業をする人達と就農した後も交流ができることが大きい。
35	農業	進学	高校で食品について学んでいたことで、進学先で学ぶ時も理解しやすかった。1回学んでおくことが大事だと感じた。

36	農業	進学	人として基本的な礼儀について、部活や寮生活を通じて学ぶことができ、高校卒業後も外部の方から褒められることが多々あった。実習や部活動などで自分のやるべきことを考えて、周りの状況判断をして行動する力が身に付いた。この力はどこに行っても通用すると思っている。
37	農業	進学	現在は、農業科で学んできたこととは違うことを学んでおり、就職しようと考えているが、農業科で学んだことも今後の人生において一つの選択肢となるので、この高校を選んでよかった。滅多に経験できないことを経験できた。
38	農業	進学	全国から生徒が集まる学校に通えてたくさんの人に出会い、その人達に引っ張られるようにコミュニケーションを取ったり、自分から行動することができるようになり、今の学校ではそのことがとても生かしている。
39	農業	進学	体験的な学習が多く、得た知識を実践に結び付けることによって、非常に充実した学びを得ることができた。また、学習だけでなく農業クラブ活動、部活動などでも多くの学びを得ることができた。小学校への出前授業や意見発表大会など、普通科では経験できないような素晴らしい経験を得ることができた。さらに、小規模校ならではの友人や先生とのつながりが強く、生涯の仲間や人と出会うことができた。農業高校に入って本当によかったと思っている。
40	農業	進学	振り返ってみると、自分が憧れる教員に出会えたこと、また、仲間思いの友人や学べる最高の環境が、今の自分にとても役立っていると感じている。今だから思えるこの気持ちを可能であれば高校生に伝えたいと思っている。自分がたまたま素晴らしい人達に出会えた奇跡ではあるかもしれないけど、この小さな奇跡にしっかり気付けるようになったことが成長できたなと思っている。
41	農業	進学	高校で楽しく学べた授業や思い出に残っているクラブ活動などを思い浮かべながら進学先を探した。進学先でも、自分が好きでやっていることは、知識や技術として身に付きやすいと実感することがあった。好きなことでなければ勉強しても理解に時間がかかるし、自分の力になりにくいと思う。そのため、学校は興味が湧くような授業や実習を生徒に提供してほしい。高校生の時から農業に興味を持ってもらい、心から農業をしたいという生徒を増やすことができれば、農業の担い手育成につながるのではないかなと思う。
42	農業	進学	普通科出身者に比べ、農業に関する知識や技術が相当に高いのは事実。一方、進学者の視点では、農業科における学びが、一般教養の多い大学1年次に十分に生かされていなく、高校時代に5教科の学習時間が少なかったデメリットもある。高校時代に興味を持って学ぶことができる分野が見つかったという意味ではよかった。
43	農業	進学	農業といった未知の領域のことを少しでも理解できたことで、見方が変わった。現在、農業の学びが直接的に役立ってはいないが、進路を考える際の材料にはなった。
44	農業	進学	農業科の学びを生かせる職業について、幅広い範囲で学ぶことができ、資格取得へのサポートが手厚かったため、大学進学後の就職活動でも生かすことができる。
45	農業	進学	農業クラブ活動での経験が、今の大学生活に役立っている。例えば、プロジェクト活動や意見発表大会でのスライドの作成や発表などは、大学でも同様の機会があるため、高校での経験を生かすことができている。
46	農業	進学	課題研究や販売会における経験から、グループワークで円滑に行動することやレポートでまとめる力が養えた。
47	農業	進学	農業クラブなど、色々な販売会や大会に出場したことで、人前に出て発表する力が身に付いた。進学先の研究プロジェクト発表会でも、堂々と発表することができたので、そこが一番成長につながっていたと思う。
48	農業	進学	実習日誌を毎回行が埋まるまで書かなくてはいけず、当時の自分は「書くことないよ」と思っていたが、短大進学後、レポートや履歴書の文章を書く時に、行を埋めて書くということが自然とでき、「高校時代のそういった些細な経験もこんなところで生きている。普通科では経験できていないな。」と感じた。また、宿泊付きで酪農家への実習、外部の方や他校との関わりが多くあり、年齢や性別など様々な人達との関わりで、人との距離感、コミュニケーション能力を身に付けることができた。

49	農業	進学	微生物利用や食品製造の授業で学んだことに加え、普段の実習における衛生管理が、現在の職場でとても役立っており、これらを覚えておいて本当によかったと感じている。また、同期や職場の方との円滑な人間関係を築くために、コミュニケーション能力を身に付けておいてよかった。
50	農業	進学	社会人になってから専門的な知識を学ぶことは難しいので、高校時代に専門的な技術を学ぶことはとてもよい経験だと思う。地域と連携した学習は「縁づくり」という意味でも重要だと思う。
51	農業	進学	社会人生活2年目となるが、社会には色々な個性を持った人がいるということを改めて実感した。高校生活でも、今まで自分が出会ったことのない人達が多くいたが、そうした出会いを大切に自分自身の成長につなげられたことは、今でもよかったと思っている。
52	工業	その他	勉強が嫌いだったため、高校時代に学習で成長できたと思う機会は少なかったが、友人はある程度できた。卒業後は工業と直接の関係はない仕事をしており、高校で学んだ知識を活用する機会は少ない。
53	工業	就職	工業の専門的な知識を学んだことで、仕事で用いる言葉の意味が分かる。
54	工業	就職	自分自身に合った仕事はなかなか見つからないが、一度就職したら離職しないというのが個人としての強みとなっている。
55	工業	就職	勉強や学ぶことについての苦手意識がなくなり、マイナスだった思考が、少しずつプラス思考に変わってきたのは、先生方が向き合ってくれた結果だと思っている。
56	工業	就職	資格取得や部活動、生徒会活動を通して成功体験が増え、ものすごい自信につながった。その自信によって、先輩、上司との雑談(コミュニケーションを取る)や仕事など、高校生活で養った力を社会で使うことができていていると感じている。
57	工業	就職	高校生活を通してコミュニケーション能力が高まったことで、電話対応が主な業務である部署に配属になっても、人と話すことに対してあまり苦と感じなかった。
58	工業	就職	身だしなみや礼儀などの指導はとても役に立っている。就職先では、高校で学んだ知識や技能が生きる場面がいくつかあるので入学してよかった。
59	工業	就職	高校卒業後に工場で働いてるが、工業高校で学んだ専門的なことが役に立っており、教科書は今でも参考にしている。働くことの意義やコミュニケーションに関しては、専門高校と普通科の高校で比較があまりできないのでよく分からなかった。
60	工業	就職	高校時代のグループ活動などを通じて、周りの人との協調性やコミュニケーション能力が身に付いた。就職してみて、一人で仕事をするにも限界があり、周りの人との協力が必要不可欠と感じたので、そういったことを高校生活を通じて学べたらよいと思う。
61	工業	就職	目上の人に対する言葉遣いや礼儀を学んだほか、コミュニケーション能力が高まり、初対面の方でもスムーズにやり取りできるようになった。
62	工業	就職	高校生活を通して様々な人と関わることで、自分の気持ちと折り合いを付け、相手を受け入れて理解する努力ができるようになり、社会の中で過ごしやすくなった。
63	工業	就職	一人で行動を決断することができるようになった。
64	工業	就職	様々な機械系の実習があり、高校卒業後に専門職に就いた自分のような人は、工業科で勉強していたよかったと思っている。
65	工業	就職	質問することの重要性を学べた。気になったことを相手に聞くことで、物事に対する興味も湧いてくるのでより理解を深めることができる。今後も継続していきたい。
66	工業	就職	学校で教わったことをそのまま教える立場になったので、3年間で教わったことを自分なりに分かりやすく解釈し、即戦力となる人材の育成に役立っている。
67	工業	就職	社会人になっても資格の勉強は続いており、高校で学んだ専門的な知識はとても役立っている。
68	工業	就職	高校で勉強したことが直接的に役立つ場面は多くないが、それがベースとなって様々なことが吸収しやすいのでよかった。勉強面だけでなく部活動や人間関係も学んだことが社会で役立っている。

69	工業	就職	機械や電子制御などの技術を学ぶことができ、電子化が進んでいる現在の社会で、進路の幅が大きく広がった。
70	工業	就職	部活動を通じて、他人のために自分から行動することができるようになった。
71	工業	進学	薬品を使用した実験や加工など、多くのことを学ぶことができ、知識を蓄えることができた。現在は、救急救命士を目指しており、工業科で学んだことが直接役立つ場面は多くはないが、化学技術を使用している多くの器具を見ると、よい学科で勉強できたと感じている。
72	工業	進学	高校で学んだ専門的な知識は、大学進学後もとても役立っている。高校では専門的な知識の基礎的な部分を広く浅く学ぶ（建築に関しての座学などは深い学びであったが）ため、大学の講義において、内容が理解しやすく、学びを深めやすいと感じた。また、測量や木工などの実習経験も役立っていると感じる。
73	工業	進学	よい先生がいて、授業や学校生活が充実していた。また、よい友人ができ、学校生活やプライベートを楽しく過ごせ、コミュニケーション能力が上がった。
74	工業	進学	3年間を通して同じ分野について学んだことで、自分の興味の向く先が建築であることを知れたので、進学後も不安を持つことなく全力で建築分野を学べている点が、現在の生活で役立っている。
75	工業	進学	最も成長を実感できたのはコミュニケーション能力である。高校3年生に生活習慣などを見直したことで、周囲の人達が多く話しかけてくれ、人間関係の構築の仕方や、コミュニケーションの大切さに気付けた。
76	工業	進学	現在はIT系の学校で学んでいるが、工業科で基本となる技術を学んだことで、ものがどう動くのかやどこで使われているかなどについて、周りの人よりも想像しやすくなった。
77	商業	就職	パソコンについて多くを学ぶことができ、実際に仕事で役に立っている。職場には年上の方が多く、コミュニケーションを取ることができており、学校生活で培った力が生きている。
78	商業	就職	接客マナーや言葉遣いなどの人との接し方から、パソコンでのプリントやプレゼン作成などの社内業務のほか、経営に最も必要なお金の仕訳で使う簿記なども学べる。就職して社会に出たら役立つことが多く学べ、コミュニケーション、コンピュータ、簿記など、自分が何が得意なのかが見付かるのでとてもよいと思う。
79	商業	就職	WordやExcelを活用した授業が多く、就職先でも不便なく使えている。ビジネスマナーが身に付いているので、周囲から「しっかりしているね。」と言われることが多く、商業高校で学べてよかった。
80	商業	就職	高校を卒業してからパソコンを使う機会がとて多く、商業科で学んだ知識等がとても役立っている。また、販売の実習等で身に付けた接客マナーなどは、接客業に就いている私にとって役立っており、今後も生かしていけると感じている。高校には様々な人の中で、今現在も関わっている友人がいることは、私にとって一つの財産になっている。
81	商業	就職	社会人になり、高校時代の担任の先生の存在はかなり大きいと思った。今でも地元に戻れば会いに行くし、相談したいことがあるときは先生の顔が浮かぶ。
82	商業	就職	就職先が金融機関なので、高校で習得した電卓の技術が生きている。
83	商業	就職	今興味がないと思っていることでも、一度取り組んでみるととても面白いことや、高校を卒業してから役に立つことも多くあるので、高校生は色々なことに挑戦して、充実した高校生活を送ってほしい。
84	商業	就職	部活動を通じて自分の考えや気持ちを伝えることが苦手ではなくなり、社会人になった今でも自信を持って仕事ができている。PC業務では生産性が上がっており、高校でのタイピング練習の成果を感じている。高校時代の友人や恩師とは卒業後も付き合いがあり、皆の近況を知り自分も頑張れている。
85	商業	就職	実習販売会など、切り取った仕事ではなく、調達から会計、損益計算書までを行うことで仕事を目先のものだけでなく流れとして意識することが自然とできるようになった。仕事をする上で全体を捉える意識を持てるのは強みである。

86	商業	就職	学校生活で挨拶や言葉遣いのほか、自分から何事にも積極的に取り組んで、周りと協力しながら物事を進めていく力が身に付いた。誰かに相談したり相談されたり、人と毎日関わるからこそ、社会人になっても自分が困ったら遠慮なく周りの人を頼る力も身に付いた。
87	商業	就職	電卓やPC等の操作では、資格を取得しておいて役立っている。しかし、社会人としての基本的なマナーが未熟なため、ビジネスマナーなどの資格を取得してから就職すればよかったと思った。また、仕事をするには様々な能力が必要なため、色々なアルバイトを経験しておけばよかったと思っている。
88	商業	就職	パソコンや電卓の使用頻度が高いため、高校時代、検定取得のために早く打てるよう努力したことは無駄にはなかった。ビジネスマナーについても、なんとなく頭に残っていたため、職場の研修があった時もスムーズに理解できた。
89	商業	就職	挨拶や言葉遣いなど、社会人として必要なことを身に付けることができた。また、資格取得に向けて自主的に勉強することで、目標に向けて計画的に物事を進める力を身に付けることができた。
90	商業	就職	高校3年間で学んだことのうち、社会人として一番生かしていることは、人との関わり方だと感じた。言葉遣い、マナー、コミュニケーションの取り方など、より専門的に学習したことで仕事のレベルアップにつながっている。
91	商業	就職	商業の授業を学ぶことができたので、仕事をする上で必要となるパソコンの技術を身に付けたり、職業体験を通した礼儀など、様々なことを学べたことが卒業後に役立っている。
92	商業	就職	学科に関係なく、横並びの人間関係において重要なのは、他人と自分とを割り切って考える思考であり、「他人は他人、自分は自分」と軸がブレない思考を学んだ。
93	商業	就職	商業高校での電卓、ExcelやWordの知識は社会人になってとても役立っている。また、高校生のうちからパソコンに数多く触れていたため、タイピング技術が身に付き、仕事の効率が上がっている。
94	商業	進学	中国語と韓国語の基礎を学んだことで、外国語により興味を持つことができた。こうした学びがなかったら、人生で興味を持つことがなかったかもしれないので嬉しい。
95	商業	進学	ビジネスマナーは社会人として重要であり、進学先の学校でも試験を受けている。自分は普通だと思ってやっていることも、周りにはできていない人も多く、高校時代に学んでいたことが自分のアドバンテージになっている。
96	商業	進学	簿記を学習する専門学校に進学したため、高校で勉強した簿記の知識を生かして資格を取得することができた。
97	商業	進学	部活動が高校時代の主な思い出だが、周りに多くの先生や友人がいてくれ、途中で諦めなくなる時も多くあったが、最後まで諦めずに続けられた。そのおかげで、来春から働く就職先を見付けることができた。先生方は親身になり助けてくれ、友人も楽しむ時は楽しむ、やる時はやるとメリハリが付いており、それぞれの目標を持った素敵な人達ばかりで、今でも交友関係がある。高校時代にこのような出会いがなければ、全く違う道に進んでいて、今のような目標を持っている自分はいなかったと思う。
98	商業	進学	高校で学んだことを今後の社会活動にどのように生かしていくべきかを考え、行動できるようになった。さらに、新たな進路へ意欲的に進むことにつながった。
99	商業	進学	授業やアルバイトなどで教わった言葉遣いやマナーだけでなく、Microsoft officeやAdobeソフトの使い方なども、進学した現在もとても役に立っている。また、先輩や後輩、同学年の友人達にも恵まれ、卒業後も関係が続いている人が多い。
100	商業	進学	ビジネスマナーについて3年間で厳しく指導を受けたおかげで、大学生になり、色々な方と関わる機会が増えた今、自分に自信を持って接することができている。とても役に立っていると実感している。
101	商業	進学	高校生活でたくさんの人と出会ってコミュニケーションを取ってきた。今の学校では、最初はほとんどが知らない人ばかりで大変だったが、コミュニケーション能力を生かして今の学校生活を楽しくすることができている。

102	商業	進学	成人年齢が18歳になり、法律や詐欺、クレーム対応などについて、先生方が授業で教えてくれ、とても感謝している。その時はあまり実感が湧かなかったが、高校の時に教えられていなかったら卒業後に困っていたかもしれない。本当に感謝している。
103	商業	進学	韓国語を学んでいたおかげで、大学での韓国語の授業が理解しやすい。
104	商業	進学	ExcelやWordの使い方が身に付き、現在も役立っている。
105	商業	進学	基本的なマナーや言葉遣いなどの常識的なところを学べたほか、進学先の専門学校と就職先では、パソコンを多く使用するため、Excelやタイピングなどの技術などを学べて資格を取得できたのがとてもよかった。
106	商業	進学	高校3年間の学校生活を通して、特に挨拶が身に付いたと感じている。他にも部活動を通して、精神面でも強くなった。
107	商業	進学	部活動や資格取得を通じて、努力し続けることの大切さなどのかなりの学習計画でどのくらいの知識の習得が可能か知ることができた。大学在学中や社会人生活でも、資格取得などの際に、計画を立てて学習する方法が身に付いていたのであまり苦労しなかった。
108	商業	進学	礼儀作法やマナーについての授業を十分に受けたことで、社会に出て恥ずかしくない対応ができています。基本的なパソコン操作なども、進学後や就職後にとても役立っている。
109	水産	就職	水産業で必要とされるスキルを習得するための実習や授業が充実していて、現在働いている職場でも学んだことが役立っていると感じた。
110	水産	就職	専門高校は誰もが0からのスタートなので、全員にチャンスがある。それにより、新しく何かを学ぶ際に抵抗が少ないことが魅力である。
111	水産	就職	高校入学前の私はそれほど人と話すことや、上手くコミュニケーションを交わすことが得意ではなかったが、高校生活を過ごしていく中で、気の合う仲間や優しい先輩方のおかげでよりハキハキと積極的に話せるようになった。さらに、卒業後に就職した職場では、高校生活の中で学んだ技術や知識などがとても役に立ち、改めてこの高校で学ぶことができてよかったと実感している。
112	水産	就職	機会は少ないが、家で魚を捌けるようになった。
113	水産	就職	話が合う同級生や先生方が多く、コミュニケーション能力がとても成長できた。おかげで今の部署の先輩方とも上手く話や連携ができています。高校で取り組んできたこともアピールできるので、高校の先生方や友人にはとても感謝している。
114	水産	就職	エアシャワーやローラー掛け、アルコール消毒など、実習でやってきたことがそのまま仕事の延長線上になっている。
115	水産	就職	最先端の技術を学ぶことができ、漁師として即戦力になることができた。
116	水産	就職	高校時代は資格の必要性に気付いていなかったが、就職して思いがけないところで資格が役立ち、色々な資格をもっと取得しておけばよかったと感じた。
117	水産	進学	多くの専門的知識を学ぶことができ、充実した高校生活を送ることができた。また、実習が多くあるので、クラスメイトとの絆も深まった。
118	水産	進学	人に助けを求めることが苦手だったが、よき友人のおかげで困ったときに手助けを求めることや、困っている人がいた場合に自分が力になれる範囲で手助けするようになった。
119	家庭	就職	料理や裁縫の基礎的なものが学べたのでよかった。高校時代は何も考えていなかったからしっかり勉強していなかったけど、英語などの語学や簿記は真面目にやるべきだった。
120	家庭	就職	就職してから携わることの少ない集団調理や地域との授業は、今後も体験することはないと思うから高校時代に体験できてよかった。
121	家庭	就職	工場に勤めているので食中毒やウイルス関連のことが役立っている。
122	家庭	就職	調理実習で、周りを見て自分ができるとは何か、効率よく作業を進めるにはどうしたらよいか考える力を身に付けることができた。高校卒業後は給食の仕事に就いており、大量調理を時間内に終わらせるため、調理実習で身に付けた力を発揮することができている。

123	家庭	就職	過去は指導が厳しかったと聞いているが、今はそこまで厳しい指導ではないと感じる。
124	家庭	進学	調理や裁縫は生活でよく使う技術であり、家庭科の授業で一通りの基礎を習えたのは、一人暮らしにおいてとても役に立った。
125	家庭	進学	家庭科では一人暮らしに役立つことを多く学べた。周りの人が知らないような知識を持っているので頼りにされることも多く、今では充実した生活が送れている。
126	看護	就職	将来を見据えて学ぶことができるようになった。実際に実習があることで座学では学べないようなことを深く学ぶことができる。
127	看護	就職	専門性のある知識を学ぶことには、それなりの難しさが伴うが、努力して知識を得ることができ、成長を実感できた。
128	看護	就職	看護の勉強を通して、疾患や看護援助など将来に直結する知識を得ることができた。
129	看護	就職	同じ夢を目指して入学している人ばかりなので、自分の勉強に対するモチベーションがとて高くなった。また、道内各地から生徒が集まってきており、初めは知らない人ばかりの中で生活していくので、人との関わり方やコミュニケーションの取り方を学べた。
130	看護	就職	実習先の病院に就職できるので、就職後がイメージしやすい。学校の友人と就職できるので心強い。
131	看護	就職	看護師として働く上で、高校時代の実習の経験や人とのコミュニケーションは、とても役立っている。
132	看護	進学	高校のうちから専門教科を学習することで、国家試験受験後の進路について真剣に考える時間が多く、自分のやりたいことを見付けられた。
133	福祉	就職	福祉分野に就職したが、コミュニケーション、点字や手話など、学校で習った内容が生きている。中学校までは人と話すのが苦手だったが、高校では仲間や先生方に恵まれ、コミュニケーションも克服できたので、母校を卒業できて本当によかった。
134	福祉	就職	先輩や目上の方に対しての礼儀など、人とのコミュニケーションの方法や関わり方を学ぶことができた。就職してからも高校で学んだ礼儀を生かすことができおり、福祉科を卒業できてよかった。
135	福祉	就職	学校生活での学びや出会いによってコミュニケーション能力が向上し、現在の職場でも円滑なコミュニケーションを取れている。
136	福祉	進学	福祉の学習を通して、ものの見方や様々な価値観を身に付けることができた。

3 職業学科教員

【調査実施校】18校

(内訳) 農業科3校、工業科5校、商業科6校、
水産科・家庭科・看護科・福祉科各1校

【回答者数】171名

- あなたの担当教科を選択してください。【1つのみ選択】

項 目	回答数	回答者数に対する割合
農業科	36	21%
工業科	66	39%
商業科	43	25%
水産科	6	4%
家庭科	5	3%
看護科	10	6%
福祉科	5	3%

回答者数：171名

- あなたの年齢を選択してください。【1つのみ選択】

項 目	回答数	回答者数に対する割合
20代	11	6%
30代	24	14%
40代	55	32%
50代	66	39%
60代	15	9%

回答者数：171名

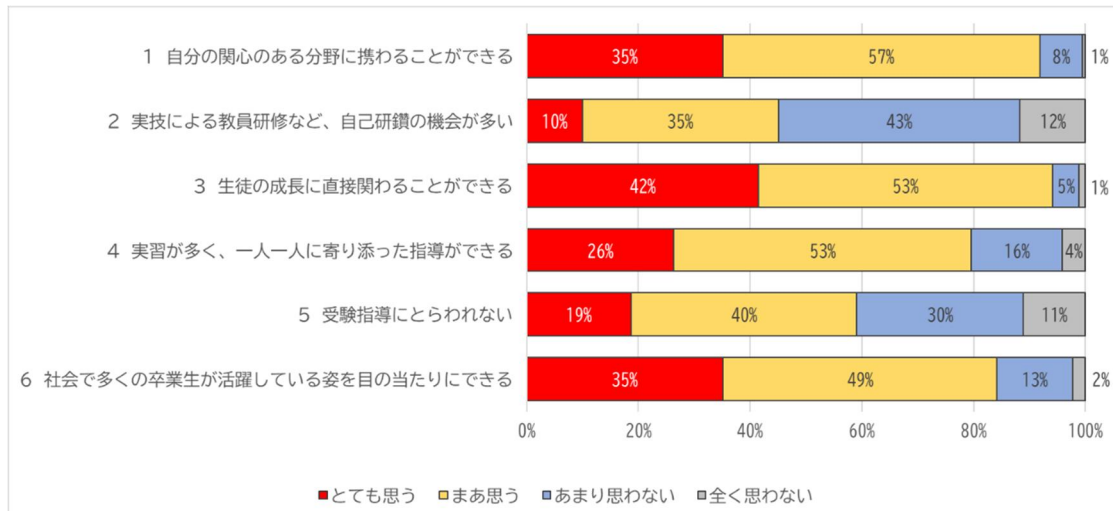
- あなたの教員経験年数（期限付きを含む）を選択してください。

【1つのみ選択】

項 目	回答数	回答者数に対する割合
5年以内	14	8%
6～10年	9	5%
11～20年	43	25%
21～30年	71	42%
31～40年	31	18%
40年以上	3	2%

設問1 職業学科の教員の魅力として、あなたの考えに近いのはどれですか。

【それぞれについて4段階で回答】



職業学科の教員の魅力として、自身の考えに近いのは、「生徒の成長に直接携わることができる」と回答した割合が最も高い。このほか、「自分の関心のある分野に携わることができる」、「社会で多くの卒業生が活躍している姿を目の当たりにできる」などで肯定的な回答の割合が高くなっている。

設問2 職業学科の教員として働く上で課題と思うことは、次のうちどれですか。【5つまで回答可】

項 目	回答数	回答者数に対する割合
1 自分のスキルが不足している	83	49%
2 校内における初任者へのサポート体制がうすい	46	27%
3 教育者に対する社会の目線が厳しい	34	20%
4 現場の教員の裁量や自己決定権が少ない	26	15%
5 生徒の人格形成に関わる責任が重い	22	13%
6 実習が多く、生徒の安全に関わるリスクが大きい	28	16%
7 資格指導や各種コンテスト等の指導が大変である	63	37%
8 産業界の関係者への対応が大変である	13	8%
9 生徒指導による業務が多忙である	63	37%
10 休日出勤や残業が多く多忙である	80	47%
11 異なる学科間ではチームワークが保ちにくい	43	25%
12 給料が多忙さや責任に見合わない	86	50%
13 遠隔地への転勤がある	53	31%
14 寮の宿直、生活指導が大変である	36	21%

回答者数：171名

職業学科の教員として働く上で課題と思うことは、「給料が多忙さや責任に見合わない」と回答した割合が約50%と最も高く、次いで「自分のスキルが不足している」が約49%、「休日出勤や残業が多く多忙である」が約47%となっている。

設問3 職業学科の教員の魅力を、高校生や大学生などに対して、どのように発信していくことが効果的だと思いますか。【複数回答可】

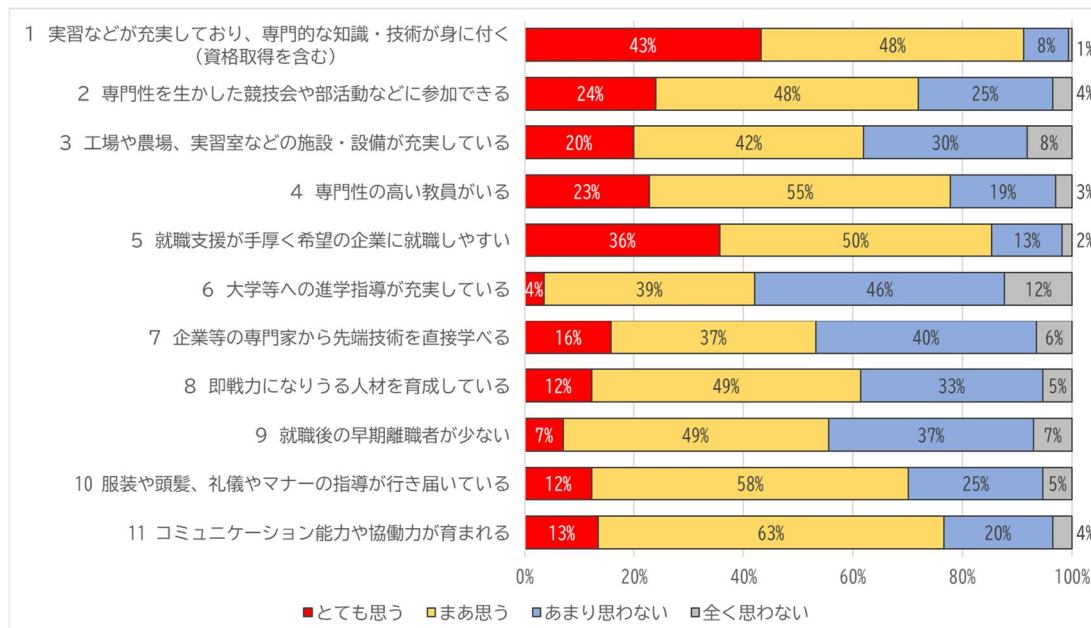
項 目	回答数	回答者数に対する割合
1 高校教員による大学生に向けた出前授業など	50	29%
2 大学の教職課程における具体的な魅力発信	60	35%
3 教育実習や教員インターンシップの充実	72	42%
4 SNS（Instagram、X、Facebookなど）での発信	41	24%
5 設置者（道教委）によるPR活動	56	33%
6 その他	22	13%

回答者数：171名

職業学科の教員の魅力を、高校生や大学生などに対して、どのように発信していくことが効果的だと思うかについて、「教育実習や教員インターンシップの充実」と回答した割合が約42%と最も高く、次いで「大学の教職課程における具体的な魅力発信」が約35%、「設置者（道教委）によるPR活動」が約33%となっている。

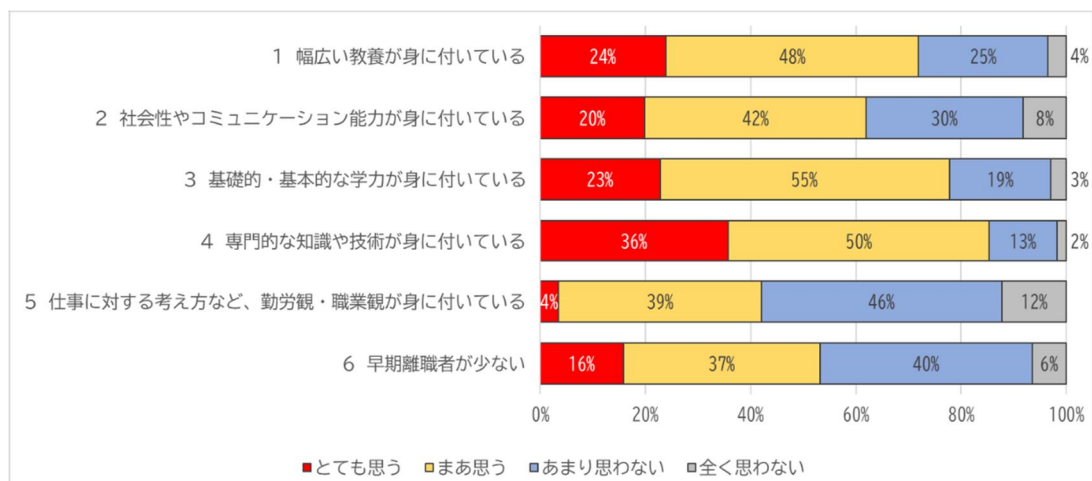
設問4 職業学科の強みや魅力として、あなたの考えに近いのはどれですか。

【それぞれについて4段階で回答】



職業学科の強みや魅力として、自身の考えに近いのは、「実習などが充実しており、専門的な知識・技術が身に付く（資格取得を含む）」と回答した割合が最も高い。このほか、「就職支援が手厚く希望の企業に就職しやすい」、「専門性の高い教員がいる」などで肯定的な回答の割合が高くなっている。

設問5 職業学科の卒業生が、社会的にどのような点で評価されていると思いますか。【それぞれについて4段階で回答】



職業学科の卒業生が、社会的にどのような点で評価されていると思うかについて、「専門的な知識や技術が身に付いている」と回答した割合が最も高い。このほか、「幅広い教養が身に付いている」、「基礎的・基本的な学力が身に付いている」などで肯定的な回答の割合が高くなっている。

設問6 本道の職業学科の魅力を、小・中学生や地域などに対して、どのように情報発信していくことが効果的だと思いますか。【複数回答可】

項 目	回答数	回答者数に対する割合
1 高校が開催する体験入学や見学会	136	80%
2 高校が開催する出前授業	81	47%
3 高校の学校祭などのイベント	82	48%
4 中学校で開催される高校説明会	92	54%
5 高校の取組などを紹介した資料やパンフレット	67	39%
6 高校のホームページ	84	49%
7 SNS (Instagram、X、Facebookなど)	88	51%
8 その他	13	8%

回答者数：171名

本道の職業学科の魅力を、小・中学生や地域などに対して、どのように発信していくことが効果的だと思うかについて、「高校が開催する体験入学や見学会」と回答した割合が約80%と最も高く、次いで「中学校で開催される高校説明会」が約54%、「SNS (Instagram、X、Facebookなど)」が約51%となっている。

設問7 企業等の専門家による授業や企業等での現場実習など、高校と産業界等との連携による効果として期待するものは、次のうちどれですか。

【複数回答可】

項 目	回答数	回答者数に対する割合
1 勤労観・職業観の育成	120	70%
2 専門教科・科目の学習意欲の向上	90	53%
3 専門的な知識や技術の習得	92	54%
4 言葉遣いやマナーの習得	78	46%
5 伝える力や聴く力など、コミュニケーション能力の向上	81	47%
6 生徒が最新の設備や先端技術に触れることができる	98	57%
7 職業や企業に対する教員の理解が深まること	60	35%
8 その他	2	1%

回答者数：171名

企業等の専門家による授業や企業等での現場実習など、高校と産業界等との連携による効果として期待するものは、「勤労観・職業観の育成」と回答した割合が約70%と最も高く、次いで「生徒が最新の設備や先端技術に触れることができる」が約57%、「専門的な知識や技術の習得」が約54%、「専門教科・科目の学習意欲の向上」が約53%となっている。

設問8 高校と企業等が連携する上での課題として、当てはまるものは、次のうちどれですか。【3つまで回答可】

項 目	回答数	回答者数に対する割合
1 連携可能な企業等の情報が得にくい	50	29%
2 企業の担当者とのコミュニケーションが円滑に進まない	11	6%
3 企業等が学校の状況を理解していない	31	18%
4 スケジュール調整が難しい	92	54%
5 生徒の意欲や態度に不安がある	52	30%
6 生徒の安全管理に不安がある	4	2%
7 連携による効果を実感しにくい	10	6%
8 連携に充てる教員や時間を確保できない	70	41%
9 交通費や経費などの確保	86	50%
10 近隣で連携できる企業等がない	8	5%
11 その他	5	3%

回答者数：171名

高校と企業等が連携する上での課題として、当てはまるものは、「スケジュール調整が難しい」と回答した割合が約54%と最も高く、次いで「交通費や経費などの確保」が約50%、「連携に充てる教員や時間を確保できない」が約41%、「生徒の意欲や態度に不安がある」が約30%となっている。

設問9 企業等との連携に当たって、何が必要だと思いますか。【複数回答可】

項 目	回答数	回答者数に対する割合
1 高校側の情報やニーズの積極的な発信	42	25%
2 双方の信頼関係やコミュニケーション	92	54%
3 スケジュール調整における高校側の柔軟性	53	31%
4 生徒の意欲や態度	60	35%
5 生徒の安全管理体制	24	14%
6 連携による効果の検証と見える化	30	18%
7 連携に携わる人材の確保	63	37%
8 連携に充てる時間の確保	83	49%
9 予算の確保	99	58%
10 取組の継続性	55	32%
11 その他	4	2%

回答者数：171名

企業等との連携に当たって、何が必要だと思うかについて、「予算の確保」と回答した割合が約58%と最も高く、次いで「双方の信頼関係やコミュニケーション」が約54%、「連携に充てる時間の確保」が約49%、「連携に携わる人材の確保」が約37%となっている。

設問10 産業構造が変化するとともに技術が高度化する中、産業教育を担当する教員として指導力向上を図るため、研修（自己研修を含む）をどの程度実施していますか。【1つのみ選択】

項 目	回答数	回答者数に対する割合
1 十分実施している	14	8%
2 ある程度実施している	69	40%
3 少しだけ実施している	66	39%
4 実施していない	22	13%

回答者数：171名

産業教育を担当する教員として指導力向上を図るため、研修（自己研修を含む）をどの程度実施しているかについて、「ある程度実施している」と回答した割合が約40%と最も高く、次いで「少しだけ実施している」が約39%、「実施していない」が約13%となっている。

設問11 指導力向上を図るための研修を受講するに当たって、どのような課題がありますか。【複数回答可】

項 目	回答数	回答者数に対する割合
1 研修の機会が少ない	42	25%
2 研修に関する情報が少ない	43	25%
3 旅費が確保できない	81	47%
4 時間が確保できない	140	82%
5 希望する分野の研修がない	33	19%
6 学校の理解が得られない	9	5%
7 その他	3	2%

回答者数：171名

指導力向上を図るための研修を受講するに当たって、どのような課題があるかについて、「時間が確保できない」と回答した割合が約82%と最も高く、次いで「旅費が確保できない」が約47%、「研修に関する情報が少ない」と「研修の機会が少ない」が約25%となっている。

設問12 あなたが研修等で学んでみたい内容は、次のうちどれですか。

【複数回答可】

項 目	回答数	回答者数に対する割合
1 大量のデータを分析して、これまでにない新たなサービスなどを作り出していく方法	40	23%
2 人工知能（AI）や仮想現実（VR）などのデジタル技術	71	42%
3 精密な電子部品を作ったり、それらを使って新しい製品を作り出す方法	27	16%
4 洋上風力発電など、地球に優しいエネルギーの作り方	21	12%
5 自分で生産した農作物などを、加工、商品化する方法	26	15%
6 GPSやドローンなどの先端技術を駆使した農業や水産業の方法	29	17%
7 これまでにない新たな仕事を生み出し、会社を経営する方法	41	24%
8 まちづくりや地域の課題を解決する方法	82	48%
9 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善	56	33%
10 授業等での効果的なICTの活用	79	46%
11 観点別学習評価等の評価方法	50	29%

回答者数：171名

自身が研修等で学んでみたい内容として、「まちづくりや地域の課題を解決する方法」と回答した割合が約48%と最も高く、次いで「授業等での効果的なICTの活用」が約46%、「人工知能（AI）や仮想現実（VR）などのデジタル技術」が約42%となっている。

4 大学生・大学院生

【調査対象】 職業学科の教職課程を履修している道内の学生
 【回答者数】 225 名

- あなたが取得予定の教員免許の教科について教えてください。【複数回答可】

項 目	回答数	回答者数に対する割合
農業科	105	46.7%
工業科	22	9.8%
商業科	27	12.0%
水産科	1	0.4%
家庭科	30	13.3%
看護科	0	0%
福祉科	20	8.9%
その他の学科	52	23.1%

回答者数：225名

- あなたの高校（出身学科）について教えてください。【1つのみ選択】

項 目	回答数	回答者数に対する割合
普通科	92	41%
総合学科	10	4%
農業科	72	32%
工業科	17	8%
商業科	19	8%
水産科	0	0%
家庭科	0	0%
看護科	12	5%
福祉科	2	1%
その他の学科	0	0%
高専	2	1%

回答者数：225名

- あなたの学年について教えてください。【1つのみ選択】

項 目	回答数	回答者数に対する割合
1 年	23	10.2%
2 年	97	43.1%
3 年	45	20.0%
4 年	58	25.8%
修士課程 1 年	1	0.4%
修士課程 2 年	1	0.4%

回答者数：225名

設問1 職業選択において重視するものは、次のうちどれですか。

【3つまで回答可】

項 目	回答数	回答者数に対する割合
1 自分の能力やスキルを生かすことができる	95	42%
2 自分が成長できる	58	26%
3 意義ややりがいを感じることができる	130	58%
4 仕事の進め方を自分で決めることができる	9	4%
5 クリエイティブで創造的な仕事ができる	15	7%
6 収入が安定している	112	50%
7 収入が高い	50	22%
8 ワークライフバランスがとれる	67	30%
9 社会的に尊敬（感謝）される仕事である	12	5%
10 職場の雰囲気や同僚との人間関係がよい	82	36%
11 転勤がない、または少ない	16	7%
12 クレームへの対応がない、または少ない	2	1%
13 その他	0	0%

回答者数：225名

大学生・大学院生が職業選択において重視するものは、「意義ややりがいを感じることができる」と回答した割合が約58%と最も高く、次いで「収入が安定している」が約50%、「自分の能力やスキルを生かすことができる」が約42%となっている。

設問2 就職活動全般において、情報収集や相談をする際に重視している情報源は、次のうちどれですか。【複数回答可】

項 目	回答数	回答者数に対する割合
1 大学の教職課程の教員	116	52%
2 ゼミ教員など、教職課程以外の教員	69	31%
3 大学のキャリアセンターや就職支援室など	74	33%
4 就活イベントや企業の説明会など	81	36%
5 就活支援サイトなどのインターネット上の情報	66	29%
6 仕事の様子を紹介した資料やパンフレット	56	25%
7 SNS（Instagram、X、Facebookなど）	49	22%
8 家族	62	28%
9 友人や先輩など	78	35%
10 出身高校の教員	72	32%
11 テレビや新聞などのマスメディア	14	6%
12 その他	0	0%

回答者数：225名

大学生・大学院生が就職活動全般において、情報収集や相談をする際に重視している情報源は、「大学の教職課程の教員」と回答した割合が約52%と最も高くなっている。

[4 大学生・大学院生]

設問3 現時点での教職に就きたい気持ちとして当てはまるものは、次のうちどれですか。【1つのみ選択】

項 目	回答数	回答者数に対する割合
1 教職に就きたいと考えている	81	36%
2 教職を中心に考えているが、民間企業等にも魅力があり迷っている	42	19%
3 民間企業等を中心に考えているが、教職にも魅力があり迷っている	51	23%
4 民間企業等に就職したいと考えている	51	23%

回答者数：225名

現時点で教職に就きたい気持ちとして、「教職に就きたいと考えている」と回答した割合が約36%と最も高く、次いで「民間企業等を中心に考えているが、教職にも魅力があり迷っている」と「民間企業等に就職したいと考えている」が約23%となっている。

設問4 教員免許を取得しようと思った理由として当てはまるものは、次のうちどれですか。【3つまで回答可】

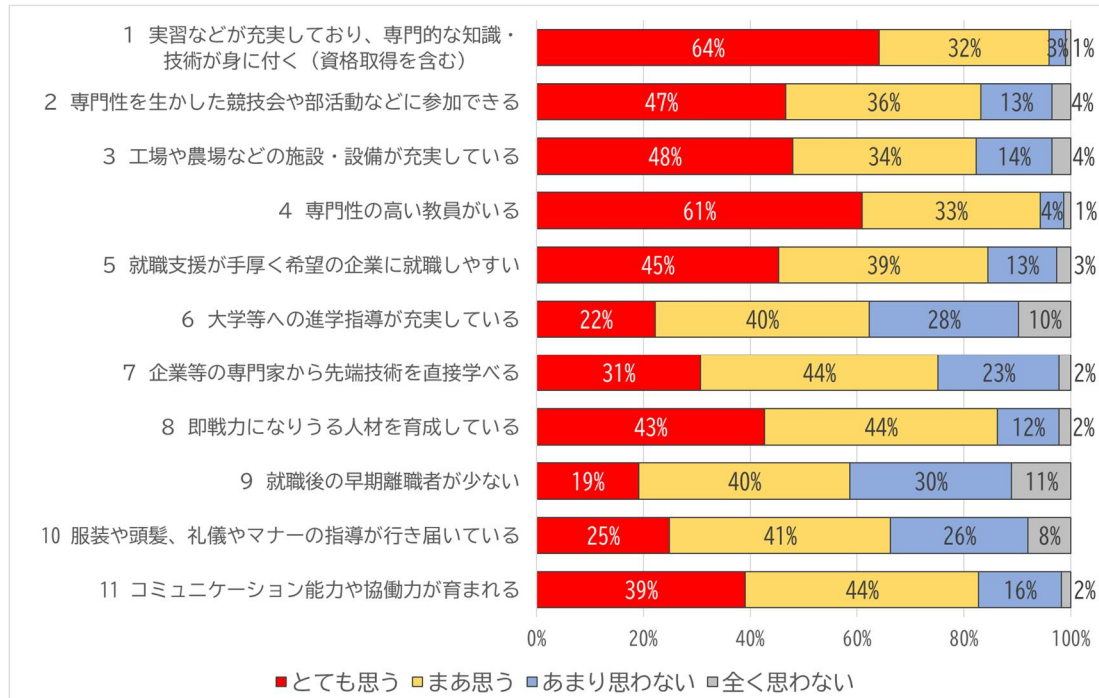
項 目	回答数	回答者数に対する割合
1 資格とし、将来どこかで生かせるかもしれないから	124	55%
2 職業選択を広げるため	90	40%
3 教員の仕事に魅力を感じ、教員を目指しているから	85	38%
4 職業教育に携わる仕事に魅力を感じ、教員を目指しているから	39	17%
5 給与や福利厚生に魅力を感じ、教員を目指しているから	19	8%
6 自分の強みや能力を生かせると感じ、教員を目指しているから	37	16%
7 今まで出会った先生への憧れがあり、教員を目指しているから	76	34%
8 大学の教員のすすめ	2	1%
9 保護者のすすめ	31	14%
10 出身高校の教員のすすめ	34	15%
11 友人・先輩のすすめ	4	2%
12 なんとなく	16	7%
13 その他	5	2%

回答者数：225名

大学生・大学院生が教員免許を取得しようと思った理由として、「資格とし、将来どこかで生かせるかもしれないから」と回答した割合が約55%と最も高く、次いで「職業選択を広げるため」が約40%、「教員の仕事に魅力を感じ、教員を目指しているから」が約38%となっている。

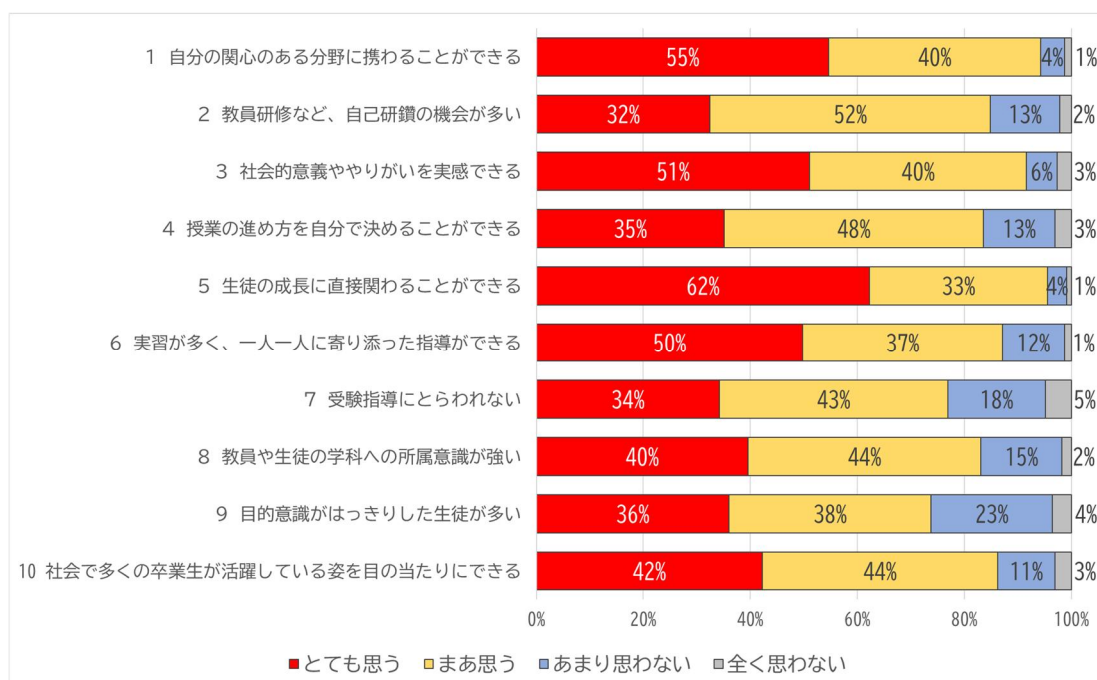
設問5 職業学科（農業、工業、商業、水産、家庭、看護、福祉）のイメージとして、あなたの考えに近いのはどれですか。

【それぞれについて4段階で回答】



職業学科のイメージとして、「実習などが充実しており、専門的な知識・技術が身に付く（資格取得を含む）」について「とても思う」と回答した割合が最も高い。このほか、「専門性の高い教員がいる」、「工場や農場などの施設・設備が充実している」、「専門性を生かした競技会や部活動などに参加できる」、「就職支援が手厚く希望の企業に就職しやすい」などで肯定的な回答が高くなっている。

設問6 職業学科の教員の魅力として、あなたの考えに近いものは、次のうちどれですか。【それぞれについて4段階で回答】



職業学科の教員の魅力としては、「生徒の成長に直接関わることができる」について「とても思う」と回答した割合が最も高い。このほか、「自分の関心のある分野に携わることができる」や「社会的意義ややりがいを実感できる」などで肯定的な回答が高くなっている。

設問7 職業学科の教員として働く場合、あなたが不安に思うこととして当てはまるものは、次のうちどれですか。【5つまで回答可】

項 目	回答数	回答者数に対する割合
1 自分の能力やスキルが不足している	160	71%
2 校内における初任者へのサポート体制がうすい	47	21%
3 教育者に対する社会の目線が厳しい	41	18%
4 現場の教員の自己決定権が少ない	20	9%
5 生徒の人格形成に関わる責任が重い	78	35%
6 実習が多く、生徒の安全に関わるリスクが大きい	61	27%
7 資格指導や各種コンテスト等の指導が大変である	47	21%
8 産業界の関係者への対応が大変である	16	7%
9 生徒指導による業務が多忙である	77	34%
10 休日出勤や残業が多く多忙である	116	52%
11 異なる学科間ではチームワークが保ちにくい	27	12%
12 給料が多忙さや責任に見合わない	94	42%
13 遠隔地への転勤がある	57	25%
14 寮の宿直、生活指導が大変である	25	11%

回答者数：225名

職業学科の教員として働く場合、不安に思うこととして当てはまるものは、「自分の能力やスキルが不足している」と回答した割合が約71%と最も高く、次いで「休日出勤や残業が多く多忙である」が約52%、「給料が多忙さや責任に見合わない」が約42%となっている。

設問8 あなたにとって、職業学科に関する情報源となっているものは、次のうちどれですか。【複数回答可】

項 目	回答数	回答者数に対する割合
1 自分が職業学科の出身者である	99	44%
2 大学の教職課程の教員	124	55%
3 ゼミ教員など、教職課程以外の教員	45	20%
4 教育実習	55	24%
5 大学のキャリアセンターや就職支援室など	27	12%
6 高校のホームページなどのインターネット上の情報	34	15%
7 仕事の様子を紹介した資料やパンフレット	16	7%
8 SNS (Instagram、X、Facebookなど)	32	14%
9 家族	21	9%
10 友人や先輩など	50	22%
11 出身高校の教員	68	30%
12 テレビや新聞などのマスメディア	10	4%
13 その他	5	2%

回答者数：225名

大学生・大学院生にとって、職業学科に関する情報源となっているものは、「大学の教職課程の教員」と回答した割合が約55%と最も高く、次いで「自分が職業学科の出身者である」が約44%、「出身高校の教員」が約30%となっている。

[4 大学生・大学院生]

5 企業

【調査対象】道内の企業関係者

【回答者数】244 名

- あなたの事業所の産業分類を教えてください。【1つのみ選択】

項 目	回答数	回答者数に対する割合
A 農業、林業	6	2.7%
B 漁業	0	0%
C 鉱業、採石業、砂利採取業	0	0%
D 建設業	116	51.8%
E 製造業	29	12.9%
F 電気・ガス・熱供給・水道業	6	2.7%
G 情報通信業	5	2.2%
H 運輸業、郵便業	3	1.3%
I 卸売業、小売業	23	10.3%
J 金融業・保険業	3	1.3%
K 不動産業・物品賃貸業	2	0.9%
L 学術研究、専門・技術サービス業	2	0.9%
M 宿泊業、飲食サービス業	4	1.8%
N 生活関連サービス業、娯楽業	1	0.4%
O 教育、学習支援業	1	0.4%
P 医療、福祉	11	4.9%
Q 複合サービス事業	0	0%
R サービス業（他に分類されないもの）	11	4.9%
S 公務（他に分類されるものを除く）	0	0%
T 分類不能の産業	1	0.4%

回答者数：224名

※日本標準産業分類（令和5年7月告示）による

- 事業所の従業員数を教えてください。【1つのみ選択】

項 目	回答数	回答者数に対する割合
1 1～20人	29	13%
2 21人～100人	115	51%
3 101人～300人	43	19%
4 301人以上	37	17%

回答者数：224名

設問1 専門高校（職業学科を設置する高校）と連携したことはありますか。

【1つのみ選択】

項 目	回答数	回答者数に対する割合
1 連携している、またはしたことがある	121	54%
2 連携したことはない	103	46%

回答者数：224名

約54%の企業が「専門高校と連携している、または連携したことがある」と回答した。

（設問1で1を選択した人のみ回答）

設問2 専門高校との連携において、これまでの取組で当てはまるものは、次のうちどれですか。【複数回答可】

項 目	回答数	回答者数に対する割合
1 生徒への出前授業、講話、意見交換会など	71	59%
2 高校教員への技術指導、研修、情報提供	13	11%
3 共同研究や商品開発	10	8%
4 各種大会・コンテスト等の事前指導、審査員など	9	7%
5 高校生や教員を受け入れての施設・設備の見学会	52	43%
6 実習機器等の提供や貸し出し	6	5%
7 就業体験活動（インターンシップ）、長期実習の受入れ	96	79%
8 体験的な学習の場を提供（施設の改修、実習販売会など）	12	10%
9 その他	5	4%

回答者数：121名

専門高校と連携したこれまでの取組としては、「就業体験活動（インターンシップ）、長期実習の受入れ」と回答した割合が約79%と最も高く、次いで「生徒への出前授業、講話、意見交換会など」が約59%、「高校生や教員を受け入れての施設・設備の見学会」が約43%となっている。

(設問 1 で 1 を選択した人のみ回答)

設問 3 専門高校と連携して得られた効果として、当てはまるものは、次のうちどれですか。【複数回答可】

項 目	回答数	回答者数に対する割合
1 生徒が先端技術に触れ、業界や技術への興味が高まった	50	41%
2 職業や企業に対する高校教員の理解が深まった	45	37%
3 企業のイメージアップにつながった	60	50%
4 学校の教育活動に対する社員（従業員）の理解が深まった	28	23%
5 生徒のアイデアや発想が参考になった	14	12%
6 生徒に業界や自社をPRできた	80	66%
7 人材確保につながった	64	53%
8 その他	3	2%

回答者数：121名

専門高校と連携して得られた効果としては、「生徒に業界や自社をPRできた」と回答した割合が約66%と最も高く、次いで「人材確保につながった」が約53%、「企業のイメージアップにつながった」が約50%となっている。

(設問 1 で 1 を選択した人のみ回答)

設問 4 専門高校との連携のきっかけについて、当てはまるものは、次のうちどれですか。【複数回答可】

項 目	回答数	回答者数に対する割合
1 もともと高校の教員とつながりがあった	42	35%
2 従業員による出身高校の紹介	33	27%
3 教育委員会による紹介や主催事業	3	2%
4 経済団体や自治体等による紹介	26	21%
5 学校訪問や教員による企業訪問	52	43%
6 学校（教員、PTA、同窓会）からの依頼	42	35%
7 自社（事業所）からの高校への働きかけ	47	39%
8 その他	2	2%

回答者数：121名

専門高校との連携のきっかけとして当てはまるものは、「学校訪問や教員による企業訪問」と回答した割合が約43%と最も高く、次いで「自社（事業所）からの高校への働きかけ」が約39%、「もともと高校の教員とつながりがあった」と「学校（教員、PTA、同窓会）からの依頼」が約35%となっている。

(全ての方が回答)

設問5 専門高校と連携したいと思いますか。【1つのみ選択】

項 目	回答数	回答者数に対する割合
1 積極的に連携したい	100	45%
2 依頼があれば連携したい	55	25%
3 特定の条件を満たせば連携したい	37	17%
4 関心はあるが連携までは難しい	21	9%
5 連携したくない、または連携の必要性を感じていない	2	1%
6 分からない	9	4%

回答者数：224名

専門高校との連携について、「積極的に連携したい」と回答した割合が約45%と最も高く、次いで「依頼があれば連携したい」が約25%、「特定の条件を満たせば連携したい」が約17%となっている。

(設問5で1～4を選択した人のみ回答)

設問6 連携の効果として期待するものとして、当てはまるものは、次のうちどれですか。【複数回答可】

項 目	回答数	回答者数に対する割合
1 生徒が先端技術に触れ、業界や技術への興味が高まること	87	41%
2 職業や企業に対する教員の理解が深まること	103	48%
3 企業のイメージアップにつながる	112	53%
4 学校の教育活動に対する社員の理解が深まること	38	18%
5 生徒のアイデアや発想を参考にできること	28	13%
6 生徒に業界や自社をPRできること	137	64%
7 将来の人材確保につながる	184	86%
8 その他	4	2%

回答者数：213名

専門高校との連携による効果として期待するものは、「将来の人材確保につながる」と回答した割合が約86%と最も高く、次いで「生徒に業界や自社をPRできること」が約64%、「企業のイメージアップにつながる」が約53%、「職業や企業に対する教員の理解が深まること」が約48%となっている。

(以下、全ての方が回答)

設問7 連携する上での課題や、連携に躊躇する理由として、当てはまるものは、次のうちどれですか。【3つまで回答可】

項 目	回答数	回答者数に対する割合
1 高校側のニーズが分かりにくい	61	27%
2 高校側の担当教員とのコミュニケーション	29	13%
3 高校側が企業の状況を理解していない	23	10%
4 高校側の都合に合わせたスケジュール調整	63	28%
5 生徒の意欲や態度	60	27%
6 生徒の安全管理	33	15%
7 連携による効果を実感しにくい	41	18%
8 連携に携わる人材を確保できない	56	25%
9 連携に充てる時間を確保できない	42	19%
10 交通費や経費などの確保が難しい	10	4%
11 謝礼が支給されない	0	0%
12 近隣に連携できる専門高校がない	31	14%
13 その他	22	10%

回答者数：224名

専門高校と連携する上での課題や、連携に躊躇する理由として、「高校側の都合に合わせたスケジュール調整」と回答した割合が約28%と最も高く、次いで「高校側のニーズが分かりにくい」と「生徒の意欲や態度」が約27%となっている。

設問8 専門高校との連携に当たって、何が必要だと思いますか。【複数回答可】

項 目	回答数	回答者数に対する割合
1 高校側の情報やニーズの把握	110	49%
2 担当教員との信頼関係やコミュニケーション	108	48%
3 スケジュール調整における高校側の柔軟性	59	26%
4 生徒の意欲や態度	90	40%
5 生徒の安全管理体制	37	17%
6 連携による効果の検証と見える化	48	21%
7 連携に携わる人材の確保	95	42%
8 連携に充てる時間の確保	68	30%
9 経費（材料費や旅費等）の確保	16	7%
10 高校側が用意する謝礼	2	1%
11 企業側の広報や採用活動におけるメリット	52	23%
12 高校との連携を社会貢献の一環として位置付けること	49	22%
13 その他	5	2%

回答者数：224名

専門高校との連携に当たって必要だと思うものは、「高校側の情報やニーズの把握」と回答した割合が約49%と最も高く、次いで「担当教員との信頼関係やコミュニケーション」が約48%、「連携に携わる人材の確保」が約42%となっている。

設問9 専門高校との関係づくりについて、あなたの考えに最も近いものは、次のうちどれですか。【1つのみ選択】

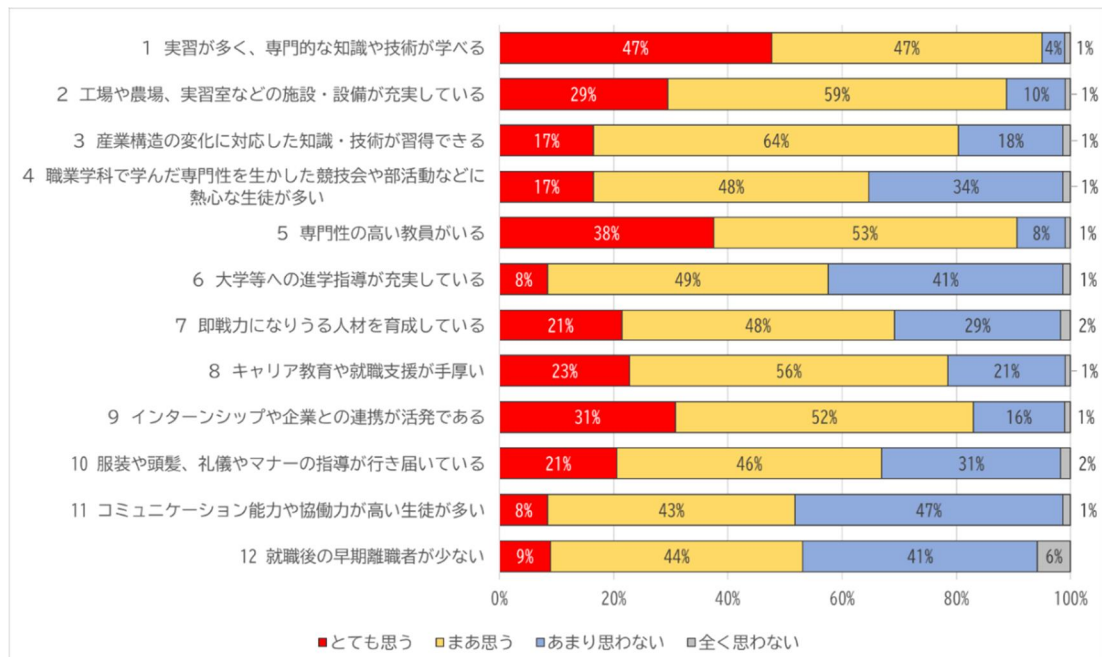
項 目	回答数	回答者数に対する割合
1 頻繁な対面によるコミュニケーションが必要	18	8%
2 年数回でも定期的な対面によるコミュニケーションが必要	108	48%
3 一度対面でコミュニケーションを取れば、その後はメールやオンライン打合せでも関係づくりが可能	53	24%
4 対面によるコミュニケーションが望ましいが、メールやオンライン打合せでも関係づくりが可能	40	18%
5 メールやオンライン打合せのみで十分に関係づくりが可能	5	2%

回答者数：224名

専門高校との関係づくりについて、自身の考えに最も近いものは、「年数回でも定期的な対面によるコミュニケーションが必要」と回答した割合が約48%と最も高く、次いで「一度対面でコミュニケーションを取れば、その後はメールやオンライン打合せでも関係づくりが可能」が約24%、「対面によるコミュニケーションが望ましいが、メールやオンライン打合せでも関係づくりが可能」が約18%となっている。

設問 10 専門高校のイメージとして当てはまるのは、次のうちどれですか。

【それぞれについて4段階で回答】



専門高校のイメージとして、「実習が多く、専門的な知識や技術が学べる」について「とても思う」と回答した割合が最も高い。このほか、「専門性の高い教員がいる」、「インターンシップや企業との連携が活発である」などで肯定的な回答の割合が高くなっている。

設問 11 専門高校について情報を得る際に参考となるのは、次のうちどれですか。【複数回答可】

項 目	回答数	回答者数に対する割合
1 地域や経済団体等が主催するイベントや説明会	84	38%
2 高校が開催する企業説明会や課題研究発表会等	101	45%
3 教育委員会やコーディネーターによる情報提供	24	11%
4 つながりのある高校教員からの情報提供	115	51%
5 従業員（専門高校卒業生）からの出身校に関する情報提供	65	29%
6 高校の取組などを紹介した資料やパンフレット	54	24%
7 高校のホームページ	69	31%
8 テレビや新聞などのマスメディア	19	8%
9 SNS（Instagram、X、Facebookなど）	9	4%
10 その他	0	0%

回答者数：224名

専門高校について情報を得る際に参考となるのは、「つながりのある高校教員からの情報提供」と回答した割合が約51%と最も高く、次いで「高校が開催する企業説明会や課題研究発表会等」が約45%、「地域や経済団体等が主催するイベントや説明会」が約38%となっている。

6 中学生

【調査対象】30校（全道14管内及び札幌市から各2校）の第3学年
【回答者数】1,823名

○ あなたの現在の進路希望を選択してください。【1つのみ選択】

項 目	回答数	回答者数に対する割合
普通科	1,205	67%
職業学科（農業、工業、商業、水産、家庭、看護、福祉）	229	13%
総合学科	131	7%
その他の学科（理数、体育、音楽、国際など）	73	4%
高専	54	3%
就職	4	1%
その他	43	2%
未定	84	5%

回答者数：1,823名

設問1 進学する高校を選ぶ際に重視するものは、次のうちどれですか。

【3つまで回答可】

項 目	回答数	回答者数に対する割合
1 自分の興味や関心に合ったことが学べる	852	47%
2 専門的な知識・技術を学べる	245	14%
3 実験や実習の施設・設備が充実している	161	9%
4 大学等への進学指導に力を入れている	357	20%
5 就職率が高く、就職に有利である	226	13%
6 自分の成績や学力に合っている	818	46%
7 部活動が充実している	504	28%
8 先生や在校生の雰囲気がよさそう	557	31%
9 自宅から通いやすい	644	36%
10 学費などが安く、経済的な負担が少ない	136	8%
11 校則が厳しくない	205	11%
12 制服が好みに合っている、または、私服で通学できる	121	7%

回答者数：1,823名

進学する高校を選ぶ際に重視するものは、「自分の興味や関心に合ったことが学べる」と回答した割合が約47%と最も高く、次いで「自分の成績や学力に合っている」が約46%、「自宅から通いやすい」が約36%となっている。

設問2 中学校卒業後の進路や高校での学習内容などについて相談する際に、誰の意見を参考にしますか。【複数回答可】

項 目	回答数	回答者数に対する割合
1 中学校の先生	1,171	65%
2 保護者	1,404	78%
3 きょうだい、親戚	546	30%
4 進学しようと思っている高校の在校生や卒業生	475	26%
5 進学しようと思っている高校の先生	195	11%
6 塾の先生や家庭教師	365	20%
7 同級生や友人	745	41%
8 テレビや新聞などのマスメディア	60	3%
9 インターネット上にある情報	313	17%
10 オンライン上の知人	41	2%

回答者数：1,823名

中学校卒業後の進路や高校での学習内容などを相談する際に、誰の意見を参考にするかについて、「保護者」と回答した割合が約78%と最も高く、次いで「中学校の先生」が約65%、「同級生や友人」が約41%となっている。

設問3 高校について情報を得る際に参考となるのは、次のうちどれですか。

【複数回答可】

項 目	回答数	回答者数に対する割合
1 高校が開催する体験入学や見学会	1,469	82%
2 高校が開催する出前授業	200	11%
3 高校の学校祭などのイベント	495	28%
4 中学校で開催される高校説明会	742	41%
5 高校の取組などを紹介した資料やパンフレット	792	44%
6 高校のホームページ	1,026	57%
7 SNS (Instagram、X、Facebookなど)	322	18%
8 その他	37	2%

回答者数：1,823名

高校について情報を得る際に参考となるのは、「高校が開催する体験入学や見学会」と回答した割合が約82%と最も高く、次いで「高校のホームページ」が約57%、「高校の取組などを紹介した資料やパンフレット」が約44%となっている。

設問4 働くことや将来就きたい職業について、どれくらい希望は決まっていますか。【1つのみ選択】

項 目	回答数	回答者数に対する割合
1 はっきり決まっている（具体的な職業が決まっている）	260	14%
2 ある程度決まっている（大まかな職種や分野が決まっている）	635	35%
3 あまり決まっていない（複数の職種や分野の中で迷っている）	583	32%
4 全く決まっていない（イメージがわからない、考えていない）	345	19%

回答者数：1,823名

働くことや将来就きたい職業の希望として、「ある程度決まっている（おおまかな職種や分野は決まっている）」と回答した割合が約35%と最も高く、次いで「あまり決まっていない（複数の職種や分野の中で迷っている）」が約32%、「全く決まっていない（イメージがわからない、考えていない）」が約19%となっている。

（設問4で1、2と答えた人のみ回答）

設問5 次のうち、関心のある分野はありますか。【複数回答可】

項 目	回答数	回答者数に対する割合
1 農業（農産物、酪農、園芸、農産品の食品加工、森林など）	109	12%
2 水産（船舶、漁業、水産食品加工など）	44	5%
3 工業（機械、電気、情報、建築、土木、工業化学など）	175	20%
4 商業（マーケティング、マネジメント、会計・簿記、ビジネス情報など）	184	21%
5 家庭（被服、調理 など）	112	13%
6 看護	190	22%
7 福祉	94	11%
8 その他	60	7%

回答者数：895名

関心のある分野として、「看護」と回答した割合が約22%と最も高く、次いで「商業（マーケティング、マネジメント、会計・簿記、ビジネス情報など）」が約21%、「工業（機械、電気、情報、建築、土木、工業化学など）」が約20%となっている。

(以下、全ての方が回答)

設問6 進学する高校の選択において、職業学科は選択肢に入っていますか。

【1つのみ選択】

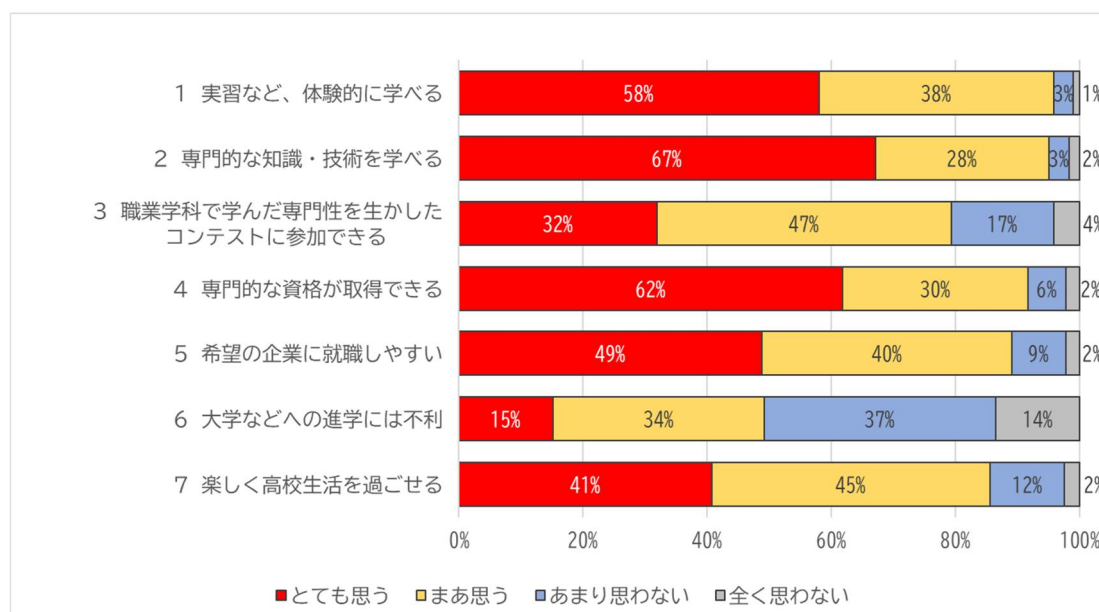
項 目	回答数	回答者数に対する割合
1 かなり入っている（進学したい職業学科が具体的に決まっている）	227	13%
2 ある程度入っている（進学したい大まかな学科は検討している）	471	26%
3 普通科等と職業学科で迷っている	192	11%
4 全く入っていない	933	52%

回答者数：1,823名

職業学科が進学する高校の選択肢に入っているかについて、「全く入っていない」と回答した割合が約52%と最も高く、次いで「ある程度入っている（進学したい大まかな学科は検討している）」が約26%、「かなり入っている（進学したい職業学科が具体的に決まっている）」が約13%となっている。

設問7 職業学科について、どのようなイメージをもっていますか。

【それぞれについて4段階で回答】



職業学科のイメージとして、「専門的な知識・技術を学べる」について「とても思う」と回答した割合が最も高い。このほか、「専門的な資格が取得できる」、「実習など、体験的に学べる」、「希望の企業に就職しやすい」などで肯定的な回答が高くなっている。

[6 中学生]

設問 8 高校に入学後、在学中に学んでみたい内容は、次のうちどれですか。

【複数回答可】

項 目	回答数	回答者数に対する割合
1 大量のデータを分析して、これまでにない新たなサービスなどを作り出していく方法	371	21%
2 人工知能（AI）や仮想現実（VR）などのデジタル技術	597	33%
3 精密な電子部品を作ったり、それらを使って新しい製品を作り出す方法	283	16%
4 洋上風力発電など、地球に優しいエネルギーの作り方	243	14%
5 自分で生産した農作物などを、加工、商品化する方法	333	19%
6 GPSやドローンなどの先端技術を駆使した農業や水産業の方法	182	10%
7 これまでにない新たな仕事を生み出し、会社を経営する方法	390	22%
8 まちづくりや地域の課題を解決する方法	528	29%
9 その他	28	2%

高校在学中に学んでみたい内容として、「人工知能（AI）や仮想現実（VR）などのデジタル技術」と回答した割合が約33%と最も高く、次いで「まちづくりや地域の課題を解決する方法」が約29%、「これまでにない新たな仕事を生み出し、会社を経営する方法」が約21%となっている。

7 中学校教員

【調査対象】30校（全道14管内及び札幌市から各2校）の第3学年
担当者（担任、副担任）

【回答者数】129名

設問1 高校について情報を得る際に参考となるのは、次のうちどれですか。

【複数回答可】

項 目	回答数	回答者数に対する割合
1 高校が開催する体験入学や見学会	106	82%
2 高校が開催する出前授業	15	12%
3 高校の学校祭などのイベント	20	16%
4 中学校で開催される高校説明会	77	60%
5 高校の取組などを紹介した資料やパンフレット	95	74%
6 高校のホームページ	108	84%
7 SNS（Instagram、X、Facebookなど）	14	11%
8 その他	6	5%

回答者数：129名

高校について情報を得る際に参考となるものとして、「高校のホームページ」と回答した中学校教員の割合が約84%と最も高く、次いで「高校が開催する体験入学や見学会」が約82%、「高校の取組などを紹介した資料やパンフレット」が約74%となっている。

設問2 高校の学習内容や卒業後の進路について情報を得る際に、誰の意見を参考にしますか。【複数回答可】

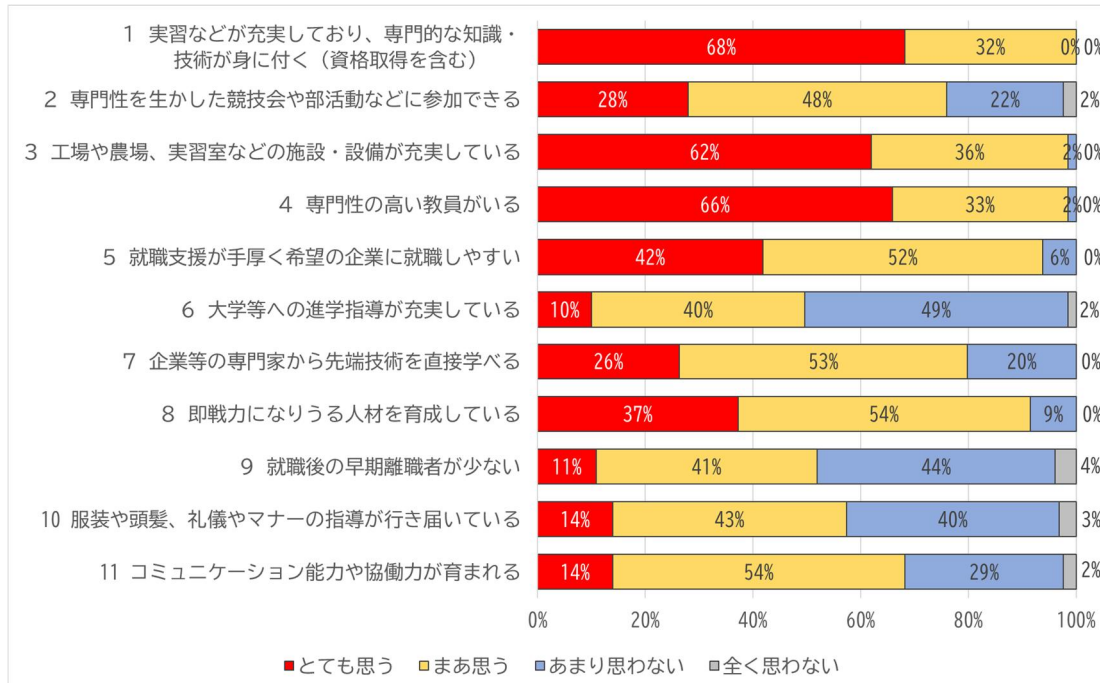
項 目	回答数	回答者数に対する割合
1 自校に在籍中の生徒	31	24%
2 自校の保護者	12	9%
3 同僚、他の中学校の教員	78	60%
4 自校の卒業生	72	56%
5 卒業生以外の高校の在校生	12	9%
6 高校の教員	76	59%
7 テレビや新聞などのマスメディア	28	22%
8 インターネット上の発言者	11	9%
9 その他	5	4%

回答者数：129名

高校の学習内容や卒業後の進路についての情報を得る際に、「同僚、他の中学校の教員」の意見を参考にしたと回答した中学校教員の割合が約60%と最も高く、次いで「高校の教員」が約59%、「自校の卒業生」が約56%となっている。

設問3 職業学科（農業、工業、商業、水産、家庭、看護、福祉）のイメージとして、あなたの考えに近いのは、どれですか。

【それぞれについて4段階で回答】



職業学科のイメージとして、「実習などが充実しており、専門的な知識・技術が身に付く（資格取得を含む）」について「とても思う」と回答した割合が最も高い。このほか、「専門性の高い教員がいる」、「工場や農場、実習室などの施設・設備が充実している」などで肯定的な回答が高くなっている。

設問4 今後、生徒が高校在学中に学んでほしい内容は、次のうちどれですか。

【複数回答可】

項 目	回答数	回答者数に対する割合
1 大量のデータを分析して、これまでにない新たなサービスなどを作り出していく方法	52	40%
2 人工知能（AI）や仮想現実（VR）などのデジタル技術	56	43%
3 精密な電子部品を作ったり、それらを使って新しい製品を作り出す方法	29	22%
4 洋上風力発電など、地球に優しいエネルギーの作り方	32	25%
5 自分で生産した農作物などを、加工、商品化する方法	56	43%
6 GPSやドローンなどの先端技術を駆使した農業や水産業の方法	46	36%
7 これまでにない新たな仕事を生み出し、会社を経営する方法	41	32%
8 まちづくりや地域の課題を解決する方法	89	69%
9 1～8の中には特にない	13	10%

回答者数：129名

生徒が高校在学中に学んでほしい内容として、「まちづくりや地域の課題を解決する方法」と回答した中学校教員の割合が約69%と最も高く、次いで「人工知能（AI）や仮想現実（VR）などのデジタル技術」と「自分で生産した農作物などを、加工、商品化する方法」が約43%となっている。

8 中学生保護者

【調査対象】中学生（調査対象）と同一世帯の保護者
【回答者数】574 名

設問1 子どもの高校選択について、あなたが重視するものは、次のうちどれですか。【3つまで回答可】

項 目	回答数	回答者数に対する割合
1 高校での学びが、子どもの興味・関心、適性に合っているか	390	68%
2 高校での学びと、高校卒業後の進路とのつながり	311	54%
3 学習に関する施設・設備の充実	46	8%
4 高校卒業後の進学実績や、進学指導のきめ細かさ	133	23%
5 高校卒業後の就職実績や、資格取得の実績	68	12%
6 子どもの成績や学力	161	28%
7 部活動の充実さ	82	14%
8 学校・在校生の雰囲気	165	29%
9 通学のしやすさ	155	27%
10 学費等の経済的負担	82	14%
11 しっかりとした生徒指導や校則	15	3%

回答者数：574名

子どもの高校選択で重視するものとして、「高校での学びが、子どもの興味・関心、適性に合っているか」と回答した割合が約68%と最も高く、次いで「高校での学びと、高校卒業後の進路とのつながり」が約54%となっている。

設問2 高校の学習内容や卒業後の進路についての情報を得る際に、どなたの意見を参考にしますか。【複数回答可】

項 目	回答数	回答者数に対する割合
1 子ども本人	387	67%
2 中学校の先生	265	46%
3 子どもの同級生の保護者	160	28%
4 家族、親戚	128	22%
5 進学を希望する高校の在校生や卒業生	210	37%
6 進学を希望する高校の先生	141	25%
7 塾の先生や家庭教師	116	20%
8 同級生や友人	60	10%
9 テレビや新聞などのマスメディア	34	6%
10 インターネット上にある情報	172	30%
11 その他	4	1%

回答者数：574名

高校の学習内容や卒業後の進路についての情報を得る際に「子ども本人」からの情報を参考にしていると回答した割合が約67%と最も高く、次いで「中学校の先生」が約46%、「進学を希望する高校の在校生や卒業生」が約37%となっている。

設問3 高校について情報を得る際に参考となるのは、次のうちどれですか。

【複数回答可】

項 目	回答数	回答者数に対する割合
1 高校が開催する体験入学や見学会	484	84%
2 高校の学校祭などのイベント	123	21%
3 中学校で開催される高校説明会	231	40%
4 高校の取組などを紹介した資料やパンフレット	260	45%
5 高校のホームページ	296	52%
6 SNS (Instagram、X、Facebookなど)	73	13%
7 その他	4	1%

回答者数：574名

高校について情報を得る際に参考となるものとして、「高校が開催する体験入学や見学会」という回答が約84%と最も高く、次いで「高校のホームページ」が約52%、「高校の取組などを紹介した資料やパンフレット」が約45%となっている。

設問4 子どもが将来働く場所や働き方について、あなたの考えに近いものは、次のうちどれですか。【複数回答可】

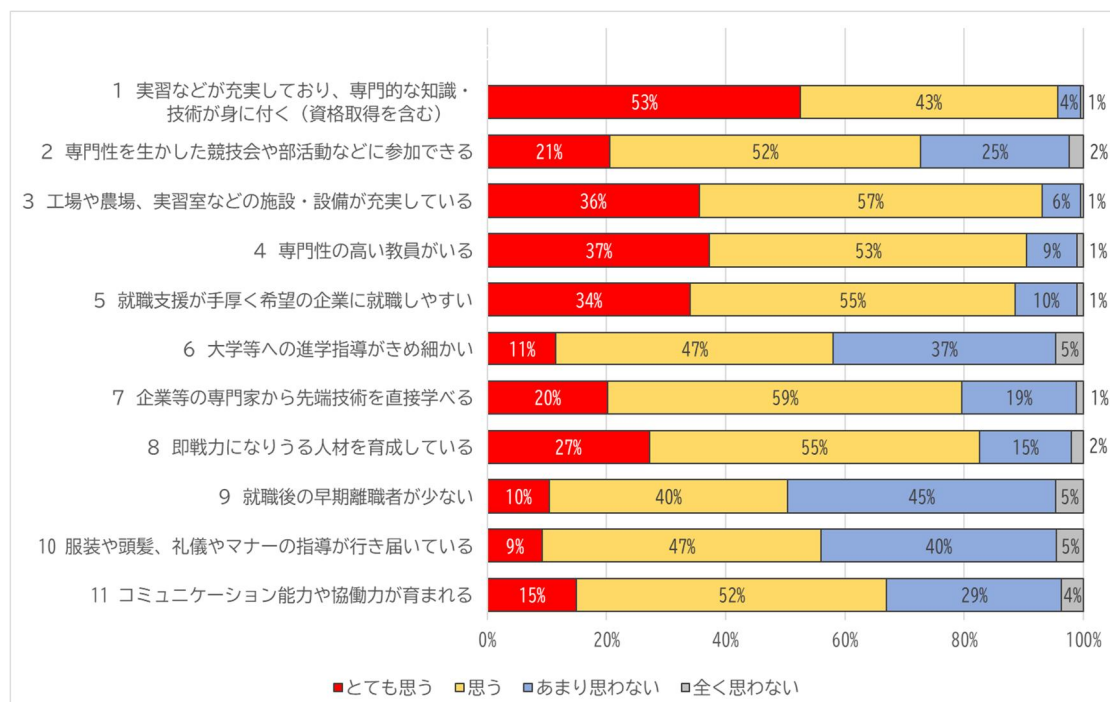
項 目	回答数	回答者数に対する割合
1 子どもが自分で決めたことを尊重する	543	95%
2 社会貢献の意識をもってほしい	72	13%
3 今後成長が見込める分野や業界で働いてほしい	106	18%
4 やりがいを感じられる仕事に就いてほしい	339	59%
5 給料や休日などの待遇のよい職場で働いてほしい	230	40%
6 家庭や趣味などのプライベートを充実させながら働いてほしい	192	33%

回答者数：574名

子どもが将来働く場所や働き方について、中学生の保護者の考えに近いものとして、「子どもが自分で決めたことを尊重する」と回答した割合が約95%と最も高く、次いで「やりがいを感じられる仕事に就いてほしい」が約59%、「給料や休日などの待遇のよい職場で働いてほしい」が約40%となっている。

設問5 職業学科（農業、工業、商業、水産、家庭、看護、福祉）のイメージとして、あなたの考えに近いのはどれですか。

【それぞれについて4段階で回答】



職業学科のイメージとしては、「実習などが充実しており、専門的な知識・技術が身に付く（資格取得を含む）」と回答した割合が最も高い。このほか、「専門性の高い教員がいる」、「工場や農場、実習室などの施設・設備が充実している」、「就職支援が手厚く希望の企業に就職しやすい」、「即戦力になりうる人材を育成している」などが高くなっている。

[8 中学生保護者]

おわりに

本審議会では、令和5年12月から約2年間にわたり、「本道産業の担い手育成に資する産業教育の在り方」について、調査、分析及び審議を重ねてきました。

専門高校はこれまでも、本道産業の担い手育成と地域社会の活性化はもとより、若者の学びと進路の可能性を広げる基盤として重要な役割を果たしてきました。しかし、こうした取組は専門高校のみで自足するものではなく、産業教育に対する社会全体の理解と支援が不可欠です。

こうした中、本建議では、専門高校と中学校、企業、大学等との関係性や連携状況を詳細に分析・検討したことで、学校が直面している課題とその対応策、さらなる発展の方向性を提示できたと考えます。

本調査の結果では、専門性の高い学びや卒業後の多様な進路といった専門高校の特性が、中学生やその保護者に必ずしも十分伝わっていないことが明らかになりました。これは、専門高校と小中学校の交流や連携、広報活動の充実の必要性を示しています。こうした交流、広報活動は、地域の教育資源に対する住民の理解の促進にとっても、重要かつ有効な対策であることが示唆されます。

また、自身の専門性やスキルに対する教員及び教職課程の大学生の懸念も、見落とすことのできない課題です。専門高校の教員及び実習助手等のスキル向上に対する支援と研修機会の充実が強く望まれます。企業等と連携した先端技術に関する教員研修は、教育の質の向上につながるだけでなく、大学生にとっても教職を目指す上での大きな魅力になると推察されます。

さらに、広域性を特徴とした本道では、学校の規模、連携可能な企業等の所在について、大きな差異が見られました。この「差異」が若者の学びの「格差」の拡大につながらないように、地域の実情に合わせた学校裁量の予算を確保するとともに、学校と企業等とをつなぐコーディネーターの複数配置と充実を図ることが求められます。

予算措置や人材確保等については、教育分野に限らず全ての部門が直面している困難な課題です。しかしながら、10年先、20年先の本道の未来像を考慮したとき、学校、産業界、大学等の垣根を越えた豊かな学びの機会の創出を目指す本建議の諸提言は、いずれも喫緊の事項であるといえるでしょう。

本建議が、北海道の産業教育の実践的かつ具体的な改革に結実することを強く期待します。

最後に、本調査に御協力いただきました全ての関係者の皆様に改めて深く感謝申し上げます。本道の未来を担う産業教育の充実・発展に向け、引き続き、御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

調査用紙

- | | | | |
|---|-----------|-------|------------|
| 1 | 在校生用 | ----- | 参考資料P2～P3 |
| 2 | 卒業生用 | ----- | 参考資料P4 |
| 3 | 職業学科教員用 | ----- | 参考資料P5～P6 |
| 4 | 大学生・大学院生用 | ----- | 参考資料P7～P8 |
| 5 | 企業用 | ----- | 参考資料P9～P10 |
| 6 | 中学生用 | ----- | 参考資料P11 |
| 7 | 中学校教員用 | ----- | 参考資料P12 |
| 8 | 中学生保護者用 | ----- | 参考資料P13 |

本道産業の担い手育成に資する産業教育の在り方に関する調査

〈在校生用〉

この調査は、高校生のみなさんが学校や進路、仕事についてどのような考えをお持ちなのか把握するためのものです。目的以外には使用しませんので、ありのままにお答えください。

〔回答方法〕 右の2次元コードを読み込むか、次の URL にアクセスして、ウェブページ上で回答してください。

(URL) <https://forms.gle/cXQ9dcaZLQwjs41CA>

〔回答〆切〕 令和6年(2024年)10月末日



◎最初に、あなた自身のことについてお聞きます。

【在籍学科】農業、工業、商業、水産、家庭、看護、福祉	【学校名】	【小学科名】	【学年】1年、2年、3年
----------------------------	-------	--------	--------------

設問1 中学3年生1学期の段階で、進学を希望する高校について、どのように考えていましたか。【1つのみ選択】

- 1 現在の職業学科に進むことを希望していた
- 2 別の職業学科に進むことを希望していた
- 3 普通科に進むことを希望していた
- 4 総合学科に進むことを希望していた
- 5 学科にこだわりはなかった

設問2 現在の学校・学科を選んだ理由として、当てはまるのは、次のうちどれですか。【3つまで回答可】

- 1 自分の興味や関心に合ったことを学べる
- 2 専門的な知識・技術を学べる
- 3 実験や実習の施設・設備が充実している
- 4 進学指導が充実していて、進学実績が高い
- 5 就職率が高く、就職に有利
- 6 自分の成績や学力に合っている
- 7 部活動が充実している
- 8 先生や在校生の雰囲気やよさそう
- 9 自宅から通いやすい
- 10 学費などが安く、経済的な負担が少ない
- 11 校則が厳しくない
- 12 制服が好みに合っている、または、私服で通学できる

設問3 中学時代、高校について情報を得る際に参考となったのは、次のうちどれですか。【複数回答可】

- 1 高校が開催する体験入学や見学会
- 2 高校が開催する出前授業
- 3 高校の学校祭などのイベント
- 4 中学校で開催される高校説明会
- 5 高校の取組などを紹介した資料やパンフレット
- 6 高校のホームページ
- 7 SNS (Instagram、X、Facebook など)
- 8 その他 (具体的に)

設問4 中学時代、中学校卒業後の進路や高校での学習内容などについて相談する際に、誰の意見を参考にしましたか。【複数回答可】

- 1 中学校の先生
- 2 保護者
- 3 きょうだい、親戚
- 4 進学しようと思っている高校の在校生や卒業生
- 5 進学しようと思っている高校の先生
- 6 塾の先生や家庭教師
- 7 同級生や友人
- 8 テレビや新聞などのマスメディア
- 9 インターネット上にある情報
- 10 オンライン上の知人
- 11 その他 (具体的に)

設問5 中学時代に抱いていた職業学科への印象として、次の1～7について、どのように思っていましたか。

【それぞれについて4段階で回答】

(とても思っていた、まあ思っていた、あまり思っていなかった、まったく思っていなかった)

- 1 実習など、体験的な学びが多い
- 2 専門的な知識・技術を学ぶことができる
- 3 職業学科で学んだ専門性を生かしたコンテストに参加できる
- 4 専門的な資格が取得できる
- 5 希望の企業に就職しやすい
- 6 大学などへの進学には不利
- 7 楽しく高校生活を過ごせる

設問6 現在の学校・学科に入学してよかったと思いますか。

【1つのみ選択】

- 1 よかった…………… (設問7へ)
- 2 どちらかといえばよかった…………… (設問7へ)
- 3 どちらかといえばよくなかった…………… (設問8へ)
- 4 よくなかった…………… (設問8へ)

(設問6で1又は2と答えた人のみ回答)

設問7 入学してよかったと思う理由として近いのは、次のうちどれですか。【3つまで回答可】

- 1 専門的な知識・技術が学べる
- 2 実験・実習などの体験的な学習ができる
- 3 授業に興味を持てる
- 4 進学指導が充実していて、進学実績が高い
- 5 就職率が高く、就職に有利
- 6 部活動やクラブ活動が楽しい
- 7 よい先生がいる
- 8 よい友人や先輩がいる
- 9 校則が厳しくない
- 10 施設・設備が充実している
- 11 その他 (具体的に)

(設問6で3又は4と答えた人のみ回答)

設問8 入学してよくなかったと思う理由として近いのは、次のうちどれですか。【3つまで回答可】

- 1 実験・実習の負担が大きい
- 2 授業に興味を持てない
- 3 思っていたより進学の選択肢が狭い
- 4 思っていたより就職に有利ではない
- 5 部活動やクラブ活動が楽しくない
- 6 よい先生がいない
- 7 よい友人や先輩がいない
- 8 校則やマナー指導が厳しい
- 9 施設・設備が充実していない
- 10 その他 (具体的に)

設問9 職業学科（農業、工業、商業、水産、家庭、看護、福祉）の強みや魅力として、あなたの考えに近いのはどれですか。

【それぞれについて4段階で回答】

（とても思う、まあ思う、あまり思わない、全く思わない）

- 1 実習などが充実しており、専門的な知識・技術が身に付く（資格取得を含む）
- 2 専門性を生かした競技会や部活動などに参加できる
- 3 工場や農場、実習室などの施設・設備が充実している
- 4 専門性の高い教員がいる
- 5 就職支援が手厚く希望の企業に就職しやすい
- 6 大学等への進学指導が充実している
- 7 企業等の専門家から先端技術を直接学べる
- 8 即戦力になりうる人材を育成している
- 9 就職後の早期離職者が少ない
- 10 服装や頭髪、礼儀やマナーの指導が行き届いている
- 11 コミュニケーション能力や協働力が育まれる

設問10 あなたが高校在学中に学んでみたい内容は、次のうちどれですか。【複数回答可】

- 1 大量のデータを分析して、これまでにない新たなサービスなどを作り出していく方法
- 2 人工知能（AI）や仮想現実（VR）などのデジタル技術
- 3 精密な電子部品を作ったり、それらを使って新しい製品を作り出す方法
- 4 洋上風力発電など、地球に優しいエネルギーの作り方
- 5 自分で生産した農作物などを、加工、商品化する方法
- 6 GPSやドローンなどの先端技術を駆使した農業や水産業の方法
- 7 これまでにない新たな仕事を生み出し、会社を経営する方法
- 8 まちづくりや地域の課題を解決する方法
- 9 その他（具体的に ）

設問11 職業選択において重視するものは、次のうちどれですか。

【3つまで回答可】

- 1 自分の能力やスキルを生かすことができる
- 2 自分が成長できる
- 3 意義ややりがいを感じることができる
- 4 仕事の進め方を自分で決めることができる
- 5 クリエイティブで創造的な仕事ができる
- 6 収入が安定している
- 7 収入が高い
- 8 仕事とプライベートが両立できる
- 9 社会的に尊敬（感謝）される仕事である
- 10 職場の雰囲気や同僚との人間関係がよい
- 11 転勤が少ない、または少ない
- 12 クレームへの対応が少ない、または少ない
- 13 その他（具体的に ）

設問12 職業学科の教員の仕事について、あなたの考えに最も近いものは、次のうちどれですか。【1つのみ選択】

- 1 魅力を感じており、教員免許の取得を目指したい
- 2 魅力は感じるが、大学進学等への不安がある
- 3 魅力は感じるが、民間企業にも大きな魅力を感じている
- 4 魅力は感じない

（設問12で1、2、3と答えた人のみ回答）

設問13 職業学科の教員の魅力として、あなたの考えに当てはまるものは、次のうちどれですか。【3つまで回答可】

- 1 関わっている先生への憧れ
- 2 母校で働いてみたい
- 3 自分の関心のある分野に携わることができる
- 4 社会的な意義や、やりがいを実感できる
- 5 生徒の成長に直接関わることができる
- 6 実習が多く、一人一人の生徒と身近に接することができる
- 7 部活動や各種コンテストへの指導がしたい
- 8 給与や福利厚生が充実している
- 9 楽しく仕事ができそう

設問14 今、あなたが学んでいる職業学科の魅力を、小・中学生や地域の方などに知ってもらうには、どのように発信していくことが効果的だと思いますか。【複数回答可】

- 1 小・中学校での出前授業
- 2 地域のイベントでの販売会やものづくり教室など
- 3 複数回の体験入学の実施
- 4 学校ホームページの充実
- 5 SNS（Instagram、X、Facebook など）での発信
- 6 社会における卒業生の活躍
- 7 その他（具体的に ）

【御協力ありがとうございました。】

本道産業の担い手育成に資する産業教育の在り方に関する調査

〔職業学科卒業生用〕

本調査は、北海道産業教育審議会が、産業構造の変化やグローバル化、少子高齢化など、社会の急激な変化に伴う生徒の変容や社会のニーズ等を把握するために実施するものです。目的以外には使用しませんので、ありのままにお答えください。

〔回答方法〕 右の2次元コードを読み込むか、次の URL にアクセスして、ウェブページ上で回答してください。

(URL) <https://forms.gle/Q7VhkvfhraekT6Lg6>

〔回答〆切〕 令和6年(2024年)10月末日



◎最初に、あなた自身のことについてお聞きます。

【卒業学科】	【卒業した高校名】	【小学科名】	【高校卒業後の進路】 就職・進学・その他	【現在の状況】 社会人・学生・その他
農業、工業、商業、水産、 家庭、看護、福祉				

設問1 卒業した学校・学科に入学してよかったと思いますか。

【1つのみ選択】

- 1 よかった……………(設問2へ)
- 2 どちらかといえばよかった……………(設問2へ)
- 3 どちらかといえばよくなかった……………(設問3へ)
- 4 よくなかった……………(設問3へ)

(設問1で1又は2と答えた人のみ回答)

設問2 入学してよかったと思う理由として近いのは、次のうちどれですか。【3つまで回答可】

- 1 専門的な知識・技術が学べた
- 2 実験・実習などの体験的な学習ができた
- 3 授業に興味を持てた
- 4 進路指導が充実していた
- 5 就職指導が充実していた
- 6 部活動やクラブ活動が楽しかった
- 7 よい先生がいた
- 8 よい友人や先輩がいた
- 9 校則が厳しくなかった
- 10 施設・設備が充実していた
- 11 その他(具体的に)

(設問1で3又は4と答えた人のみ回答)

設問3 入学してよくなかったと思う理由として近いのは、次のうちどれですか。【3つまで回答可】

- 1 実験・実習の負担が大きかった
- 2 授業に興味を持てなかった
- 3 思っていたより進学の選択肢が狭かった
- 4 部活動やクラブ活動が楽しくなかった
- 5 よい先生がいなかった
- 6 よい友人や先輩がいなかった
- 7 校則やマナー指導が厳しかった
- 8 施設・設備が充実していなかった
- 9 その他(具体的に)

設問4 職業学科(農業、工業、商業、水産、家庭、看護、福祉)の強みや魅力として、あなたの考えに近いのはどれですか。

【それぞれについて4段階で回答】

(とても思う、まあ思う、あまり思わない、全く思わない)

- 1 実習などが充実しており、専門的な知識・技術が身に付く(資格取得を含む)
- 2 専門性を生かした競技会や部活動などに参加できる
- 3 工場や農場、実習室などの施設・設備が充実している
- 4 専門性の高い教員がいる
- 5 就職支援が手厚く希望の企業に就職しやすい
- 6 大学等への進路指導が充実している
- 7 企業等の専門家から先端技術を直接学べる
- 8 即戦力になりうる人材を育成している
- 9 就職後の早期離職者が少ない
- 10 服装や頭髮、礼儀やマナーの指導が行き届いている
- 11 コミュニケーション能力や協働力が育まれる

設問5 あなたが高校で学んできた職業学科の魅力を、小・中学生や地域の方などに知っていただくには、どのように発信していくことが効果的だと思いますか。【複数回答可】

- 1 高校が開催する体験入学や見学会
- 2 高校が開催する出前授業等
- 3 高校の学校祭などのイベント
- 4 中学校で開催される高校説明会
- 5 高校の取組などを紹介した資料やパンフレット
- 6 高校のホームページ
- 7 SNS (Instagram、X、Facebook など)
- 8 その他(具体的に)

設問6 今後、職業学科の生徒が高校在学中に学んでほしい内容は、次のうちどれですか。【複数回答可】

- 1 大量のデータを分析して、これまでにない新たなサービスなどを作り出していく方法
- 2 人工知能 (AI) や仮想現実 (VR) などのデジタル技術
- 3 精密な電子部品を作ったり、それらを使って新しい製品を作り出す方法
- 4 洋上風力発電など、地球に優しいエネルギーの作り方
- 5 自分で生産した農作物などを、加工、商品化する方法
- 6 GPS やドローンなどの先端技術を駆使した農業や水産業の方法
- 7 これまでにない新たな仕事を生み出し、会社を経営する方法
- 8 まちづくりや地域の課題を解決する方法
- 9 その他(具体的に)

設問7 職業学科で学んだことで、どのようなことが現在の仕事や学習に役立っていますか。【それぞれについて4段階で回答】

(とても役立っている、まあ役立っている、あまり役立っていない、全く役立っていない)

- 1 学科の専門的な知識・技術
- 2 国語、数学、英語などの基礎的・基本的な知識
- 3 働くことの意義についての知識
- 4 コミュニケーション能力
- 5 挨拶や言葉づかい等のマナー
- 6 自分に合った仕事や職業を選択する能力

設問8 設問7の内容も含めて、職業学科での学校生活や出会いを通じて自分が成長したと思うことや、高校卒業後の生活において役立っていると思うことを自由にお書きください。

【御協力ありがとうございました。】

本道産業の担い手育成に資する産業教育の在り方に関する調査

<職業学科教員用>

本調査は、北海道産業教育審議会が、産業構造の変化やグローバル化、少子高齢化など、社会の急激な変化に伴う生徒の変容や社会のニーズ等を把握するために実施するものです。目的以外には使用しませんので、ありのままにお答えください。

[回答方法] 右の2次元コードを読み込むか、次のURLにアクセスして、ウェブページ上で回答してください。

(URL) <https://forms.gle/eEp2pqrXCmb8olzj8>

[回答〓切] 令和6年(2024年)10月末日



◎最初に、あなたのことについてお聞きします。

【担当教科】農業、工業、商業、水産、家庭、看護、福祉	【年齢】20代、30代、40代、50代、60代
【教員経験年数】5年以内、6～10年、11～20年、21～30年、31～40年、40年以上	(注) 期限付きを含む

設問1 職業学科の教員の魅力として、あなたの考えに近いのはどれですか。【それぞれについて4段階で回答】

(とても思う、まあ思う、あまり思わない、全く思わない)
 また、これ以外に魅力と感じていることがあれば、「その他」に記載してください。

- 自分の関心のある分野に携わることができる
- 実技による教員研修など、自己研鑽の機会が多い
- 生徒の成長に直接関与することができる
- 実習が多く、一人一人に寄り添った指導ができる
- 受験指導にとらわれない
- 社会で多くの卒業生が活躍している姿を目の当たりにできる
- その他(具体的に)

設問2 職業学科の教員として働く上で課題と思うことは、次のうちどれですか。【5つまで回答可】

- 自分のスキルが不足している
- 校内における初任者へのサポート体制がうすい
- 教育者に対する社会の目線が厳しい
- 現場の教員の裁量や自己決定権が少ない
- 生徒の人格形成に関わる責任が重い
- 実習が多く、生徒の安全に関わるリスクが大きい
- 資格指導や各種コンテスト等の指導が大変である
- 産業界の関係者への対応が大変である
- 生徒指導による業務が多忙である
- 休日出勤や残業が多く多忙である
- 異なる学科間ではチームワークが保ちにくい
- 給料が多忙さや責任に見合わない
- 通勤地への通勤がある
- 寮の宿直、生活指導が大変である

設問3 職業学科の教員の魅力を、高校生や大学生などに対して、どのように発信していくことが効果的だと思いますか。

【複数回答可】

- 高校教員による大学生に向けた出前授業など
- 大学の教職課程における具体的な魅力発信
- 教育実習や教員インターンシップの充実
- SNS(Instagram、X、Facebookなど)での発信
- 設置者(道教委)によるPR活動
- その他(具体的に)

設問4 職業学科の強みや魅力として、あなたの考えに近いのはどれですか。【それぞれについて4段階で回答】

(とても思う、思う、あまり思わない、全く思わない)
 1 実習などが充実しており、専門的な知識・技術が身に付く(資格取得を含む)

- 専門性を生かした競技会や部活動などに参加できる
- 工場や農場、実習室などの施設・設備が充実している
- 専門性の高い教員がいる
- 就職支援が手厚く希望の企業に就職しやすい
- 大学等への進学指導が充実している
- 企業等の専門家から先端技術を直接学べる
- 即戦力になりうる人材を育成している
- 就職後の早期離職者が少ない
- 服装や頭髪、礼儀やマナーの指導が行き届いている
- コミュニケーション能力や協働力が育まれる

設問5 職業学科の卒業生が、社会的にどのような点で評価されていると思いますか。【それぞれについて4段階で回答】

(評価されている、ある程度評価されている、あまり評価されていない、評価されていない)

- 幅広い教養が身に付いている
- 社会性やコミュニケーション能力が身に付いている
- 基礎的・基本的な学力が身に付いている
- 専門的な知識や技術が身に付いている
- 仕事に対する考え方など、勤労観・職業観が身に付いている
- 早期離職者が少ない
- その他(具体的に)

設問6 本道の職業学科の魅力を、小・中学生や地域などに対して、どのように情報発信していくことが効果的だと思いますか。

【複数回答可】

- 高校が開催する体験入学や見学会
- 高校が開催する出前授業
- 高校の学校祭などのイベント
- 中学校で開催される高校説明会
- 高校の取組などを紹介した資料やパンフレット
- 高校のホームページ
- SNS(Instagram、X、Facebookなど)
- その他(具体的に)

設問7 企業等の専門家による授業や企業等での現場実習など、高校と産業界等との連携による効果として期待するものは、次のうちどれですか。【複数回答可】

- 勤労観・職業観の育成
- 専門教科・科目の学習意欲の向上
- 専門的な知識や技術の習得
- 言葉遣いやマナーの習得
- 伝える力や聴く力など、コミュニケーション能力の向上
- 生徒が最新の設備や先端技術に触れることができる
- 職業や企業に対する教員の理解が深まること
- その他(具体的に)

設問8 高校と企業等が連携する上での課題として、当てはまるものは、次のうちどれですか。【3つまで回答可】

- 1 連携可能な企業等の情報が得にくい
- 2 企業の担当者とのコミュニケーションが円滑に進まない
- 3 企業等が学校の状況を理解していない
- 4 スケジュール調整が難しい
- 5 生徒の意欲や態度に不安がある
- 6 生徒の安全管理に不安がある
- 7 連携による効果を実感しにくい
- 8 連携に充てる教員や時間を確保できない
- 9 交通費や経費などの確保
- 10 近隣で連携できる企業等が少ない
- 11 その他（具体的に ）

設問9 企業等との連携に当たって、何が必要だと思いますか。

【複数回答可】

- 1 高校側の情報やニーズの積極的な発信
- 2 双方の信頼関係やコミュニケーション
- 3 スケジュール調整における高校側の柔軟性
- 4 生徒の意欲や態度
- 5 生徒の安全管理体制
- 6 連携による効果の検証と見える化
- 7 連携に携わる人材の確保
- 8 連携に充てる時間の確保
- 9 予算の確保
- 10 取組の継続性
- 11 その他（具体的に ）

設問10 産業構造が変化するとともに技術が高度化する中、産業教育を担当する教員として指導力向上を図るため、研修（自己研修を含む）をどの程度実施していますか。【1つのみ選択】

- 1 十分実施している
- 2 ある程度実施している
- 3 少しだけ実施している
- 4 実施していない

設問11 指導力向上を図るための研修を受講するに当たって、どのような課題がありますか。【複数回答可】

- 1 研修の機会が少ない
- 2 研修に関する情報が少ない
- 3 旅費が確保できない
- 4 時間が確保できない
- 5 希望する分野の研修がない
- 6 学校の理解が得られない
- 7 その他（具体的に ）

設問12 あなたが研修等で学んでみたい内容は、次のうちどれですか。

【複数回答可】

- 1 大量のデータを分析して、これまでにない新たなサービスなどを作り出していく方法
- 2 人工知能（AI）や仮想現実（VR）などのデジタル技術
- 3 精密な電子部品を作ったり、それらを使って新しい製品を作り出す方法
- 4 洋上風力発電など、地球に優しいエネルギーの作り方
- 5 自分で生産した農作物などを、加工、商品化する方法
- 6 GPS やドローンなどの先端技術を駆使した農業や水産業の方法
- 7 これまでにない新たな仕事を生み出し、会社を経営する方法
- 8 まちづくりや地域の課題を解決する方法
- 9 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善
- 10 授業等での効果的な ICT の活用
- 11 観点別学習評価等の評価方法

【御協力ありがとうございました。】

本道産業の担い手育成に資する産業教育の在り方に関する調査

〈大学生・大学院生用〉

本調査は、北海道産業教育審議会が、産業構造の変化やグローバル化、少子高齢化など、社会の急激な変化に伴う生徒の変容や社会のニーズ等を把握するために実施するものです。目的以外には使用しませんので、ありのままにお答えください。



【回答方法】 右の2次元コードを読み込むか、次の URL にアクセスして、ウェブページ上で回答してください。

(URL) <https://forms.gle/E45BAgyvVwAy2hmc6>

【回答〆切】 令和6年(2024年)10月末日

◎最初に、あなたが取得予定の教員免許の教科について教えてください。【複数回答可】

(農業科、工業科、商業科、水産科、家庭科、看護科、福祉科、その他の教科)

◎あなたの高校(出身学科)について教えてください。【1つのみ選択】

(普通科、総合学科、農業科、工業科、商業科、水産科、家庭科、看護科、福祉科、その他の学科、高専)

◎あなたの学年について教えてください。【1つのみ選択】

(1年、2年、3年、4年、修士課程1年、修士課程2年)

設問1 職業選択において重視するものは、次のうちどれですか。

【3つまで回答可】

- 1 自分の能力やスキルを生かすことができる
- 2 自分が成長できる
- 3 意義ややりがいを感じることができる
- 4 仕事の進め方を自分で決めることができる
- 5 クリエイティブで創造的な仕事ができる
- 6 収入が安定している
- 7 収入が高い
- 8 ワークライフバランスがとれる
- 9 社会的に尊敬(感謝)される仕事である
- 10 職場の雰囲気や同僚との人間関係がよい
- 11 転勤が少ない、または少ない
- 12 クレームへの対応が少ない、または少ない
- 13 その他(具体的に)

設問2 就職活動全般において、情報収集や相談をする際に重視している情報源は、次のうちどれですか。【複数回答可】

- 1 大学の教職課程の教員
- 2 ゼミ教員など、教職課程以外の教員
- 3 大学のキャリアセンターや就職支援室など
- 4 就活イベントや企業の説明会など
- 5 就活支援サイトなどのインターネット上の情報
- 6 仕事の様子を紹介した資料やパンフレット
- 7 SNS (Instagram、X、Facebook など)
- 8 家族
- 9 友人や先輩など
- 10 出身高校の教員
- 11 テレビや新聞などのマスメディア
- 12 その他(具体的に)

設問3 現時点での教職に就きたい気持ちとして当てはまるものは、次のうちどれですか。【1つのみ選択】

- 1 教職に就きたいと考えている
- 2 教職を中心に考えているが、民間企業等にも魅力があり迷っている
- 3 民間企業等を中心に考えているが、教職にも魅力があり迷っている
- 4 民間企業等に就職したいと考えている

設問4 教員免許を取得しようと思った理由として当てはまるものは、次のうちどれですか。【3つまで回答可】

- 1 資格とし、将来どこかで生かせるかもしれないから
- 2 職業選択を広げるため
- 3 教員の仕事に魅力を感じ、教員を目指しているから
- 4 職業教育に携わる仕事に魅力を感じ、教員を目指しているから
- 5 給与や福利厚生に魅力を感じ、教員を目指しているから
- 6 自分の強みや能力を生かせると感じ、教員を目指しているから
- 7 今まで出会った先生への憧れがあり、教員を目指しているから
- 8 大学の教員のすすめ
- 9 保護者のすすめ
- 10 出身高校の教員のすすめ
- 11 友人・先輩のすすめ
- 12 なんとなく
- 13 その他(具体的に)

設問5 職業学科(農業、工業、商業、水産、家庭、看護、福祉)のイメージとして、あなたの考えに近いのはどれですか。

【それぞれについて4段階で回答】

(とても思う、思う、少し思う、全く思わない)

- 1 実習などが充実しており、専門的な知識・技術が身に付く(資格取得を含む)
- 2 専門性を生かした競技会や部活動などに参加できる
- 3 工場や農場などの施設・設備が充実している
- 4 専門性の高い教員がいる
- 5 就職支援が手厚く希望の企業に就職しやすい
- 6 大学等への進学指導が充実している
- 7 企業等の専門家から先端技術を直接学べる
- 8 即戦力になりうる人材を育成している
- 9 就職後の早期離職者が少ない
- 10 服装や頭髮、礼儀やマナーの指導が行き届いている
- 11 コミュニケーション能力や協働力が育まれる

設問6 職業学科の教員の魅力として、あなたの考えに近いものは、次のうちどれですか。【それぞれについて4段階で回答】

(とても思う、まあ思う、あまり思わない、全く思わない)

- 1 自分の関心のある分野に携わることができる
- 2 教員研修など、自己研鑽の機会が多い
- 3 社会的意義ややりがいを実感できる
- 4 授業の進め方を自分で決めることができる
- 5 生徒の成長に直接関与することができる
- 6 実習が多く、一人一人に寄り添った指導ができる
- 7 受験指導にとらわれない
- 8 教員や生徒の学科への所属意識が強い
- 9 目的意識がはっきりした生徒が多い
- 10 社会で多くの卒業生が活躍している姿を目の当たりにできる

設問7 職業学科の教員として働く場合、あなたが不安に思うこととして当てはまるものは、次のうちどれですか。【5つまで回答可】

- 1 自分の能力やスキルが不足している
- 2 校内における初任者へのサポート体制がうすい
- 3 教育者に対する社会の目線が厳しい
- 4 現場の教員の自己決定権が少ない
- 5 生徒の人格形成に関わる責任が重い
- 6 実習が多く、生徒の安全に関わるリスクが大きい
- 7 資格指導や各種コンテスト等の指導が大変である
- 8 産業界の関係者への対応が大変である
- 9 生徒指導による業務が多忙である
- 10 休日出勤や残業が多く多忙である
- 11 異なる学科間ではチームワークが保ちにくい
- 12 給料が多忙さや責任に見合わない
- 13 遠隔地への転勤がある
- 14 寮の宿直、生活指導が大変である

設問8 あなたにとって、職業学科に関する情報源となっているものは、次のうちどれですか。【複数回答可】

- 1 自分が職業学科の出身者である
- 2 大学の教職課程の教員
- 3 ゼミ教員など、教職課程以外の教員
- 4 教育実習
- 5 大学のキャリアセンターや就職支援室など
- 6 高校のホームページなどのインターネット上の情報
- 7 仕事の様子を紹介した資料やパンフレット
- 8 SNS (Instagram、X、Facebook など)
- 9 家族
- 10 友人や先輩など
- 11 出身高校の教員
- 12 テレビや新聞などのマスメディア
- 13 その他（具体的に ）

【御協力ありがとうございました。】

北海道産業教育審議会が、産業構造の変化やグローバル化、少子高齢化など、社会の急激な変化に伴う生徒の変容や社会のニーズ等を把握するために実施するものです。目的以外には使用しませんので、ありのままにお答えください。

<企業用>

本調査は、北海道産業教育審議会が、産業構造の変化やグローバル化、少子高齢化など、社会の急激な変化に伴う生徒の変容や社会のニーズ等を把握するために実施するものです。目的以外には使用しませんので、ありのままにお答えください。

[回答方法] 右の2次元コードを読み込むか、次の URL にアクセスして、ウェブページ上で回答してください。

(URL) <https://forms.gle/gYzXsGXD9apyUqCfA>

[回答〓切] 令和6年(2024年)10月末日



◎最初に、あなたの事業所等についてお聞きます。

【産業分野】 A 農業、林業、B 漁業、C 鉱業、採石業、砂利採取業、D 建設業、E 製造業、F 電気・ガス・熱供給・水道業、 G 情報通信業、H 運輸業、郵便業、I 卸売業、小売業、J 金融業・保険業、K 不動産業・物品賃貸業、 L 学術研究、専門・技術サービス業、M 宿泊業、飲食サービス業、N 生活関連サービス業、娯楽業、 O 教育、学習支援業、P 医療、福祉、Q 複合サービス事業、R サービス業（他に分類されないもの）、 S 公務（他に分類されるものを除く）、T 分類不能の産業 ※日本標準産業分類（令和5年7月告示）による	
【従業員数】 1～20人、21～100人、101～300人、301人以上	【所在地市町村名】 市・町・村

設問1 専門高校（職業学科を設置する高校）と連携したことはありますか。【1つのみ選択】

※主な連携事例は、下記の設問2に記載

- 1 連携している、またはしたことがある
- 2 連携したことはない

（設問1で1を選択した人のみ回答）

設問2 専門高校との連携において、これまでの取組で当てはまるものは、次のうちどれですか。【複数回答可】

- 1 生徒への出前授業、講話、意見交換会など
- 2 高校教員への技術指導、研修、情報提供
- 3 共同研究や商品開発
- 4 各種大会・コンテスト等の事前指導、審査員など
- 5 高校生や教員を受け入れての施設・設備の見学会
- 6 実習機器等の提供や貸し出し
- 7 就業体験活動（インターンシップ）、長期実習の受入れ
- 8 体験的な学習の場を提供（施設の改修、実習販売会など）
- 9 その他（具体的に ）

（設問1で1を選択した人のみ回答）

設問3 専門高校と連携して得られた効果として、当てはまるものは、次のうちどれですか。【複数回答可】

- 1 生徒が先端技術に触れ、業界や技術への興味が高まった
- 2 職業や企業に対する高校教員の理解が深まった
- 3 企業のイメージアップにつながった
- 4 学校の教育活動に対する社員（従業員）の理解が深まった
- 5 生徒のアイデアや発想が参考になった
- 6 生徒に業界や自社をPRできた
- 7 人材確保につながった
- 8 その他（具体的に ）

（設問1で1を選択した人のみ回答）

設問4 専門高校との連携のきっかけについて、当てはまるものは、次のうちどれですか。【複数回答可】

- 1 もともと高校の教員とつながりがあった
- 2 従業員による出身高校の紹介
- 3 教育委員会による紹介や主催事業
- 4 経済団体や自治体等による紹介
- 5 学校訪問や教員による企業訪問
- 6 学校（教員、PTA、同窓会）からの依頼
- 7 自社（事業所）からの高校への働きかけ
- 8 その他（具体的に ）

設問5 専門高校と連携したいと思いますか。【1つのみ選択】

- 1 積極的に連携したい
- 2 依頼があれば連携したい
- 3 特定の条件を満たせば連携したい
- 4 関心はあるが連携までは難しい
- 5 連携したくない、または連携の必要性を感じていない
- 6 分からない

（設問5で1～4を選択した人のみ回答）

設問6 連携の効果として期待するものとして、当てはまるものは、次のうちどれですか。【複数回答可】

- 1 生徒が先端技術に触れ、業界や技術への興味が高まること
- 2 職業や企業に対する教員の理解が深まること
- 3 企業のイメージアップにつながること
- 4 学校の教育活動に対する社員の理解が深まること
- 5 生徒のアイデアや発想を参考にできること
- 6 生徒に業界や自社をPRできること
- 7 将来の人材確保につながること
- 8 その他（具体的に ）

設問7 連携する上での課題や、連携に躊躇する理由として、当てはまるものは、次のうちどれですか。【3つまで回答可】

- 1 高校側のニーズが分かりにくい
- 2 高校側の担当教員とのコミュニケーション
- 3 高校側が企業の状況を理解していない
- 4 高校側の都合に合わせたスケジュール調整
- 5 生徒の意欲や態度
- 6 生徒の安全管理
- 7 連携による効果を実感しにくい
- 8 連携に携わる人材を確保できない
- 9 連携に充てる時間を確保できない
- 10 交通費や経費などの確保が難しい
- 11 謝礼が支給されない
- 12 近隣に連携できる専門高校がない
- 13 その他（具体的に ）

設問8 専門高校との連携に当たって、何か必要だと思いますか。

【複数回答可】

- 1 高校側の情報やニーズの把握
- 2 担当教員との信頼関係やコミュニケーション
- 3 スケジュール調整における高校側の柔軟性
- 4 生徒の意欲や態度
- 5 生徒の安全管理体制
- 6 連携による効果の検証と見える化
- 7 連携に携わる人材の確保
- 8 連携に充てる時間の確保
- 9 経費（材料費や旅費等）の確保
- 10 高校側が用意する謝礼
- 11 企業側の広報や採用活動におけるメリット
- 12 高校との連携を社会貢献の一環として位置付けること
- 13 その他（具体的に ）

設問9 専門高校との関係づくりについて、あなたの考えに最も近いものは、次のうちどれですか。【1つのみ選択】

- 1 頻繁な対面によるコミュニケーションが必要
- 2 年数回でも定期的な対面によるコミュニケーションが必要
- 3 一度対面でコミュニケーションを取れば、その後はメールやオンライン打合せでも関係づくりが可能
- 4 対面によるコミュニケーションが望ましいが、メールやオンライン打合せでも関係づくりが可能
- 5 メールやオンライン打合せのみで十分に関係づくりが可能

設問10 専門高校のイメージとして当てはまるのは、次のうちどれですか。【それぞれについて4段階で回答】

（とても当てはまる、まあ当てはまる、あまり当てはまらない、まったく当てはまらない）

- 1 実習が多く、専門的な知識や技術が学べる
- 2 工場や農場、実習室などの施設・設備が充実している
- 3 産業構造の変化に対応した知識・技術が習得できる
- 4 職業学科で学んだ専門性を生かした競技会や部活動などに熱心な生徒が多い
- 5 専門性の高い教員がいる
- 6 大学等への進学指導が充実している
- 7 即戦力になりうる人材を育成している
- 8 キャリア教育や就職支援が手厚い
- 9 インターンシップや企業との連携が活発である
- 10 服装や頭髮、礼儀やマナーの指導が行き届いている
- 11 コミュニケーション能力や協働能力が高い生徒が多い
- 12 就職後の早期離職者が少ない
- 13 その他（具体的に ）

設問11 専門高校について情報を得る際に参考となるのは、次のうちどれですか。【複数回答可】

- 1 地域や経済団体等が主催するイベントや説明会
- 2 高校が開催する企業説明会や課題研究発表会等
- 3 教育委員会やコーディネーターによる情報提供
- 4 つながりのある高校教員からの情報提供
- 5 従業員（専門高校卒業生）からの出身校に関する情報提供
- 6 高校の取組などを紹介した資料やパンフレット
- 7 高校のホームページ
- 8 テレビや新聞などのマスメディア
- 9 SNS（Instagram、X、Facebook など）
- 10 その他（具体的に ）

【御協力ありがとうございました。】

本道産業の担い手育成に資する産業教育の在り方に関する調査

〈中学生用〉

この調査は、中学生のみなさんが学校や進路、将来の仕事についてどのような考えをお持ちなのか把握するためのものです。目的以外には使用しませんので、ありのままにお答えください。

〔回答方法〕 右の2次元コードを読み込むか、次のURLにアクセスして、ウェブページ上で回答してください。

（URL） <https://forms.gle/p4xdK6xihkcePMaB9>

〔回答〆切〕 令和6年（2024年）10月末日



◎最初に、あなたの現在の進路希望についてお聞きます。

普通科、職業学科（農業、工業、商業、水産、家庭、看護、福祉）、総合学科、その他の学科（理数、体育、音楽、国際など）、高専、就職、その他、未定

設問1 進学する高校を選ぶ際に重視するものは、次のうちどれですか。【3つまで回答可】

- 1 自分の興味や関心に合ったことが学べる
- 2 専門的な知識・技術を学べる
- 3 実験や実習の施設・設備が充実している
- 4 大学等への進学指導に力を入れている
- 5 就職率が高く、就職に有利である
- 6 自分の成績や学力に合っている
- 7 部活動が充実している
- 8 先生や在校生の雰囲気がよさそう
- 9 自宅から通いやすい
- 10 学費などが安く、経済的な負担が少ない
- 11 校則が厳しくない
- 12 制服が好みに合っている、または、私服で通学できる

設問2 中学校卒業後の進路や高校での学習内容などについて相談する際に、誰の意見を参考にしますか。【複数回答可】

- 1 中学校の先生
- 2 保護者
- 3 きょうだい、親戚
- 4 進学しようと思っている高校の在校生や卒業生
- 5 進学しようと思っている高校の先生
- 6 塾の先生や家庭教師
- 7 同級生や友人
- 8 テレビや新聞などのマスメディア
- 9 インターネット上にある情報
- 10 オンライン上の知人

設問3 高校について情報を得る際に参考となるのは、次のうちどれですか。【複数回答可】

- 1 高校が開催する体験入学や見学会
- 2 高校が開催する出前授業
- 3 高校の学校祭などのイベント
- 4 中学校で開催される高校説明会
- 5 高校の取組などを紹介した資料やパンフレット
- 6 高校のホームページ
- 7 SNS (Instagram、X、Facebook など)
- 8 その他 ()

設問4 働くことや将来就きたい職業について、どれくらい希望が決まっていますか。【1つのみ選択】

- 1 はっきり決まっている（具体的な職業が決まっている）
- 2 ある程度決まっている（おおまかな職種や分野が決まっている）
- 3 あまり決まっていない（複数の職種や分野の中で迷っている）
- 4 全く決まっていない（イメージがわからない、考えていない）

（設問4で1、2と答えた人のみ回答）

設問5 次のうち、関心のある分野はありますか。【複数回答可】

- 1 農業（農産物、酪農、園芸、農産物の食品加工、森林 など）
- 2 水産（船舶、漁業、水産食品加工 など）
- 3 工業（機械、電気、情報、建築、土木、工業化学 など）
- 4 商業（マーケティング、マネジメント、会計・簿記、ビジネス情報 など）
- 5 家庭（被服、調理 など）
- 6 看護
- 7 福祉
- 8 その他（具体的に ）

設問6 進学する高校の選択において、職業学科は選択肢に入っていますか。【1つのみ選択】

- 1 かなり入っている（進学したい職業学科が具体的に決まっている）
- 2 ある程度入っている（進学したい大まかな学科は検討している）
- 3 普通科等と職業学科で迷っている
- 4 全く入っていない

設問7 職業学科について、どのようなイメージをもっていますか。

【それぞれについて4段階で回答】

（とても当てはまる、まあ当てはまる、あまり当てはまらない、全く当てはまらない）

- 1 実習など、体験的に学べる
- 2 専門的な知識・技術を学べる
- 3 職業学科で学んだ専門性を生かしたコンテストに参加できる
- 4 専門的な資格が取得できる
- 5 希望の企業に就職しやすい
- 6 大学などへの進学には不利
- 7 楽しく高校生活を過ごせる

設問8 高校に入学後、在学中に学んでみたい内容は、次のうちどれですか。【複数回答可】

- 1 大量のデータを分析して、これまでにない新たなサービスなどを作り出していく方法
- 2 人工知能（AI）や仮想現実（VR）などのデジタル技術
- 3 精密な電子部品を作ったり、それらを使って新しい製品を作り出す方法
- 4 洋上風力発電など、地球に優しいエネルギーの作り方
- 5 自分で生産した農作物などを、加工、商品化する方法
- 6 GPS やドローンなどの先端技術を駆使した農業や水産業の方法
- 7 これまでにない新たな仕事を生み出し、会社を経営する方法
- 8 まちづくりや地域の課題を解決する方法
- 9 その他（具体的に ）

【御協力ありがとうございました。】

本道産業の担い手育成に資する産業教育の在り方に関する調査

〈中学校教員用〉

本調査は、北海道産業教育審議会が、産業構造の変化やグローバル化、少子高齢化など、社会の急激な変化に伴う生徒の変容や社会のニーズ等を把握するために実施するものです。目的以外には使用しませんので、ありのままにお答えください。

〔回答方法〕 右の2次元コードを読み込むか、次の URL にアクセスして、ウェブページ上で回答してください。

(URL) <https://forms.gle/GmaLs5FC9EAH7x2JA>

〔回答〆切〕 令和6年(2024年)10月末日



設問1 高校について情報を得る際に参考となるのは、次のうちどれですか。【複数回答可】

- 1 高校が開催する体験入学や見学会
- 2 高校が開催する出前授業
- 3 高校の学校祭などのイベント
- 4 中学校で開催される高校説明会
- 5 高校の取組などを紹介した資料やパンフレット
- 6 高校のホームページ
- 7 SNS (Instagram、X、Facebook など)
- 8 その他 ()

設問2 高校の学習内容や卒業後の進路について情報を得る際に、誰の意見を参考にしますか。【複数回答可】

- 1 自校に在学中の生徒
- 2 自校の保護者
- 3 同僚、他の中学校の教員
- 4 自校の卒業生
- 5 卒業生以外の高校の在校生
- 6 高校の教員
- 7 テレビや新聞などのマスメディア
- 8 インターネット上の発言者
- 9 その他 ()

設問3 職業学科(農業、工業、商業、水産、家庭、看護、福祉)のイメージとして、あなたの考えに近いのは、どれですか。

【それぞれについて4段階で回答】

(とても思う、まあ思う、あまり思わない、全く思わない)

- 1 実習などが充実しており、専門的な知識・技術が身に付く(資格取得を含む)
- 2 専門性を生かした競技会や部活動などに参加できる
- 3 工場や農場、実習室などの施設・設備が充実している
- 4 専門性の高い教員がいる
- 5 就職支援が手厚く希望の企業に就職しやすい
- 6 大学等への進学指導が充実している
- 7 企業等の専門家から先端技術を直接学べる
- 8 即戦力になりうる人材を育成している
- 9 就職後の早期離職者が少ない
- 10 服装や頭髪、礼儀やマナーの指導が行き届いている
- 11 コミュニケーション能力や協働力が育まれる

設問4 今後、生徒が高校在学中に学んでほしい内容は、次のうちどれですか。【複数回答可】

- 1 大量のデータを分析して、これまでにない新たなサービスなどを作り出していく方法
- 2 人工知能(AI)や仮想現実(VR)などのデジタル技術
- 3 精密な電子部品を作ったり、それらを使って新しい製品を作り出す方法
- 4 洋上風力発電など、地球に優しいエネルギーの作り方
- 5 自分で生産した農作物などを、加工、商品化する方法
- 6 GPSやドローンなどの先端技術を駆使した農業や水産業の方法
- 7 これまでにない新たな仕事を生み出し、会社を経営する方法
- 8 まちづくりや地域の課題を解決する方法
- 9 1~8の中には特にない

【御協力ありがとうございました。】

本道産業の担い手育成に資する産業教育の在り方に関する調査

〈中学生保護者用〉

この調査は、中学生の保護者のみなさまが子どもの高校選択や進路、将来の仕事についてどのような考えをお持ちなのか把握するためのものです。目的以外には使用しませんので、ありのままにお答えください。

〔回答方法〕 右の2次元コードを読み込むか、次の URL にアクセスして、ウェブページ上で回答してください。

(URL) <https://forms.gle/xpWMHXpNZNerjVY89>

〔回答〓切〕 令和6年(2024年)10月末日



設問1 子どもの高校選択について、あなたが重視するものは、次のうちどれですか。【3つまで回答可】

- 1 高校での学びが、子どもの興味・関心、適性に合っているか
- 2 高校での学びと、高校卒業後の進路とのつながり
- 3 学習に関する施設・設備の充実
- 4 高校卒業後の進学実績や、進学指導のきめ細かさ
- 5 高校卒業後の就職実績や、資格取得の実績
- 6 子どもの成績や学力
- 7 部活動の充実さ
- 8 学校・在校生の雰囲気
- 9 通学のしやすさ
- 10 学費等の経済的負担
- 11 しっかりとした生徒指導や校則

設問2 高校の学習内容や卒業後の進路についての情報を得る際に、どなたの意見を参考にしますか。【複数回答可】

- 1 子ども本人
- 2 中学校の先生
- 3 子どもの同級生の保護者
- 4 家族、親戚
- 5 進学を希望する高校の在校生や卒業生
- 6 進学を希望する高校の先生
- 7 塾の先生や家庭教師
- 8 同級生や友人
- 9 テレビや新聞などのマスメディア
- 10 インターネット上にある情報
- 11 その他 ()

設問3 高校について情報を得る際に参考となるのは、次のうちどれですか。【複数回答可】

- 1 高校が開催する体験入学や見学会
- 2 高校の学校祭などのイベント
- 3 中学校で開催される高校説明会
- 4 高校の取組などを紹介した資料やパンフレット
- 5 高校のホームページ
- 6 SNS (Instagram、X、Facebook など)
- 7 その他 ()

設問4 子どもが将来働く場所や働き方について、あなたの考えに近いものは、次のうちどれですか。【複数回答可】

- 1 子どもが自分で決めたことを尊重する
- 2 社会貢献の意識をもってほしい
- 3 今後成長が見込める分野や業界で働いてほしい
- 4 やりがいを感じられる仕事に就いてほしい
- 5 給料や休日などの待遇のよい職場で働いてほしい
- 6 家庭や趣味などのプライベートを充実させながら働いてほしい

設問5 職業学科(農業、工業、商業、水産、家庭、看護、福祉)のイメージとして、あなたの考えに近いのはどれですか。

【それぞれについて4段階で回答】

(とても思う、思う、あまり思わない、全く思わない)

- 1 実習などが充実しており、専門的な知識・技術が身に付く(資格取得を含む)
- 2 専門性を生かした競技会や部活動などに参加できる
- 3 工場や農場、実習室などの施設・設備が充実している
- 4 専門性の高い教員がいる
- 5 就職支援が手厚く希望の企業に就職しやすい
- 6 大学等への進学指導がきめ細かい
- 7 企業等の専門家から先端技術を直接学べる
- 8 即戦力になりうる人材を育成している
- 9 就職後の早期離職者が少ない
- 10 服装や頭髪、礼儀やマナーの指導が行き届いている
- 11 コミュニケーション能力や協働力が育まれる

【御協力ありがとうございました。】

第 29 期北海道産業教育審議会 委員名簿

(50 音順)

副会長	明田川 知 美	北海道武蔵女子大学経営学部専任講師
委 員	天 池 毅 裕	経済産業省北海道経済産業局産業人材政策室長 (R6.4.25～R7.4.30)
委 員	飯 田 静	株式会社JALスカイ札幌スーパーバイザー (R6.4.25～)
委 員	上 坂 マチコ	お食事のカウンセリングサロンcolan代表
委 員	近 江 栄 治	経済産業省北海道経済産業局産業人材政策室長 (～R6.3.31)
委 員	近 江 勉	北海道岩見沢農業高等学校長 (R7.4.24～)
委 員	太 田 潤 一	北海道札幌工業高等学校長 (～R6.3.31)
委 員	大 槻 由 美	北海道札幌琴似工業高等学校父母と先生の会会長
会 長	岡 部 善 平	小樽商科大学商学部教授
委 員	小 塚 隆	経済産業省北海道経済産業局産業人材政策室長 (R7.5.29～)
委 員	高 橋 正 幸	札幌市立羊丘中学校長
委 員	外 川 詩 織	株式会社JALスカイ札幌企画総務部マネージャー (～R6.3.31)
委 員	野 村 博 之	北海道岩見沢農業高等学校長 (～R7.3.31)
委 員	廣 瀬 之 彦	酪農学園大学農食環境学群教授
委 員	永 井 登茂美	株式会社LinC代表
委 員	松 岡 宏 尚	有限会社松岡商事代表取締役
委 員	百 瀬 康 弘	北海道経済連合会常務理事
委 員	諸 橋 宏 明	北海道札幌工業高等学校長 (R6.4.25～)
委 員	和 田 順 子	株式会社エム・ケー・プロジェクト代表取締役

※任期：令和5年（2023年）12月1日から令和7年（2025年）11月30日まで

第 29 期北海道産業教育審議会専門委員会 委員名簿

(50 音順)

委員長	明田川 知 美	北海道武蔵女子大学経営学部専任講師
委 員	近 江 勉	北海道岩見沢農業高等学校長（R7.4.24～）
委 員	太 田 潤 一	北海道札幌工業高等学校長（～R6.3.31）
委 員	野 村 博 之	北海道岩見沢農業高等学校長（～R7.3.31）
委 員	永 井 登茂美	株式会社LinC代表
副委員長	松 岡 宏 尚	有限会社松岡商事代表取締役
委 員	諸 橋 宏 明	北海道札幌工業高等学校長（R6.4.25～）
委 員	和 田 順 子	株式会社エム・ケー・プロジェクト代表取締役

※任期：令和5年（2023年）12月1日から令和7年（2025年）11月30日まで

管理機関名（北海道教育委員会）、学校名（北海道室蘭工業高等学校 他3校） 令和7年度 マスター・ハイスクール普及促進事業（先進的取組型）

北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト

次世代半導体製造拠点の立地や洋上風力発電の導入など、産業構造が大きく変化している中、地域創生を担う産業人材を育成している専門高校と産業界をつなぎ、産学連携を強化するとともに、専門高校の価値や魅力を広く発信し、魅力ある北海道を創る人材育成を推進する。



管理機関名（北海道教育委員会）、学校名（北海道室蘭工業高等学校 他3校） 令和7年度 マスター・ハイスクール普及促進事業（先進的取組型）

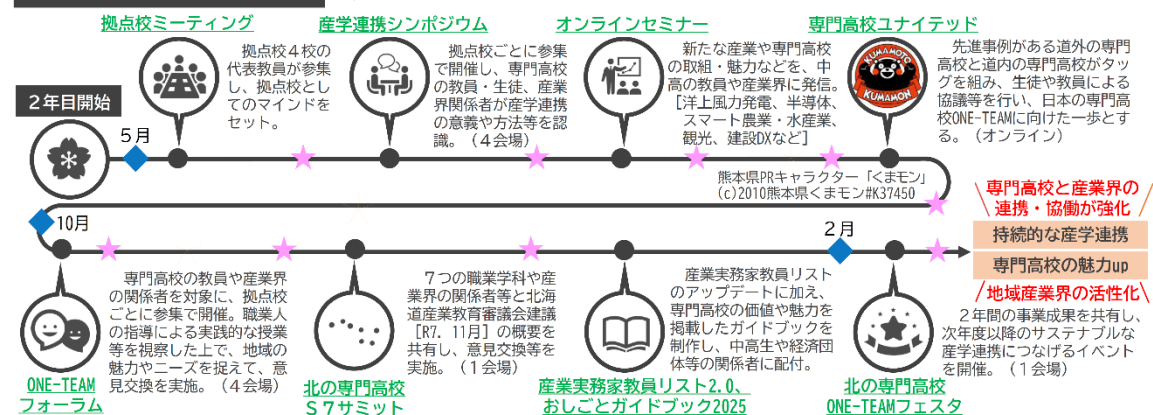
北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト

令和7年度のねらい

◆専門高校や産業界等を対象としたイベント等を通じて、人的ネットワークを強化し、サステナブルな職業人材育成システムを構築するほか、中高生や教員が新たな産業構造や専門高校の価値・魅力を理解する機会を創出し、地域の担い手となる人材育成を推進する。

令和7年度の取組とスケジュール

◆：ONE-TEAMコミティ ★：ONE-TEAMニュース ※教育・企業関係者に向けた通信



新たな産業や技術革新に対応し、専門高校の価値や魅力を発信するONE-TEAMの主な取組

